

科目名	絵画研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	泉谷 淑夫				
クラス名					

授業目的と到達目標

明確な主題設定と技術的な課題意識に基づく自主制作活動の定着を図るのが授業目的で、学部時代のレベルからの向上が自覚できるようになることが到達目標である。

授業概要

二コマ続きの実習時間を有効に使って、自主制作活動を主体的に進めていくのが中心となるが、必要に応じて絵画研究の講義や作家研究の発表の機会をゼミ形式で取り入れて、自主制作活動の活性化を図っていく。自己評価の信頼度を上げるために、自主制作作品の学外での発表を課していく。

準備学修(予習・復習)・受講上の注意

絵画や美術に対して日頃から幅広い関心を持つことが期待される。遅刻や欠席をできる限り避け、持続的な制作に耐えられる体力と精神力が維持できるように努力する。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)

教科書

教科書1	
出版社名	著者名
教科書2	
出版社名	著者名
教科書3	
出版社名	著者名

参考書・参考文献

参考書名1	
出版社名	著者名
参考書名2	
出版社名	著者名
参考書名3	
出版社名	著者名
参考書名4	
出版社名	著者名
参考書名5	
出版社名	著者名

参考 URL

特記事項

教員実務経験

教員は長年にわたり絵画制作と作品発表に取り組むとともに、絵画の制作指導のための絵画研究を幅広くかつ間断なく行っている。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	前 期 1回目 ガイダンス 自主制作と学外発表計画
2	2回目 自主制作①
3	3回目 自主制作②
4	4回目 自主制作③
5	5回目 自主制作④
6	6回目 絵画研究①
7	7回目 自主制作⑤
8	8回目 自主制作⑥
9	9回目 自主制作⑦
10	10回目 絵画研究②
11	11回目 自主制作⑧
12	12回目 自主制作⑨
13	13回目 自主制作⑩
14	14回目 作家研究発表
15	15回目 前期自主制作作品の発表・講評

科目名	絵画研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	森井 宏青				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>授業目的: 修士課程一年目は、考えることより、体を使いもの造りをするのが要であった。 ここからはその上で、創作に打ち込んだ成果を検証し、自らの思考と創作行動に軸が生まれ、自己のアイデンティティの具現が果たしているのか、自問自答する。 「行動」から、「思考」へ。また、「思考」から、「行動」へ。 反芻しながら、こころと身体、「表現」の一体化を目指す。 達成目標:グローバリズムに飲まれない、確固とした自我をもち、ゆるぎない表現者として自立する。</p>					
授業概要					
<p>自発的な制作研究(創作・表現)を根幹とする。 身体を動かし、多くの素材に生で触れ、自己の具現に真摯に取り組むこと。 教員はディスカッションを大切に、その創作の方向性や可能性について共に考えアドバイスする。 必要となる専門的な技術や、材料学的知識については適宜指導する。 世界に通用する表現力を得るために、この日本という国で創作すること、そしてその表現の意味についても、広い視野でとらえる感性や常識を身につける。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>アーティストになるために必要な基本のすべて。 ・ひたすらに描き、創ること。口先の理論の構築より、身体でものづくりする日々の姿勢を大切に過ごすこと。 ・表現に必要な取材には労をいとわぬこと。安易なネット情報に頼らず、足を使い取材すること。 ・他者の表現の盗用は決して許されない。ネット画像からの影響による安易な創作など厳禁。 自己の表現のオリジナリティに自負を持ち、他者の知的財産を尊ぶこと。 大学院生に恥じない、自覚ある受講態度で臨むこと。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業態度、姿勢、質疑応答や、演習の結果による総合判定。 理論、知識が豊かに、正確に習得されているか、それらが演習としてのびやかに創作に活かされているか			100		
教科書					
教科書1					
出版社名			著者名		
教科書2					
出版社名			著者名		
教科書3					
出版社名			著者名		
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名			著者名		

参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
<p>画家 ノルウェー・フィンランド、北欧アーティストコミュニティ・キュレーター。 アートマテリアル研究油彩画修復 画家としての活動経験のみならず、絵画古典技法、絵画修復、材料研究、北欧美術研究など、海外でのアーティスト活動の成果を生かし、グローバルな視野のもと、実技指導する。</p>			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	制作研究の今後の方針についてフリーディスカッション		
2	コンセプトと制作の検証1		
3	コンセプトと制作の検証2		
4	コンセプトと制作の検証3		
5	コンセプトと制作の検証4		
6	コンセプトと制作の検証5		
7	コンセプトと制作の検証6		
8	コンセプトと制作の検証7		
9	コンセプトと制作の検証8		
10	コンセプトと制作の検証9		
11	コンセプトと制作の検証10		
12	コンセプトと制作の検証11		
13	表現検証1		
14	表現検証2		
15	プレゼンテーション		

科目名	絵画研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	いしだ ふみ				
クラス名	版画研究演習				
授業目的と到達目標					
<p>豊かな感性と優れた表現力をもつ作り手の育成。 作り手としての自身の立ち位置を美術の流れの中でとらえ、主題・構想を決定することが出来ること。 主題・構想に合致した技法を発案、または技術を修得し、表現に生かすことが出来ること。</p>					
授業概要					
<p>教員との対話や参考図書を通して、受講生自身が自らの意図に沿った主題を決定し、その表現の為の技法を複数試みながら主題に合致した方法論を見出し、制作を通してその技術を修得出来るように指導する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>準備学修としては、道具の手入れ、作品の適切な保存、安全で心地よい制作室の維持を心がけること。 受講上の注意としては、 ・制作の記録が出来るスケッチブック等を持参すること。 ・意欲的・継続的に制作を行い、作品発表の機会があれば積極的に取り組むこと。 ・展覧会・個展等を積極的に鑑賞すること。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
提出作品の完成度			80		
制作姿勢・研究心			20		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	授業の中で状況に応じて案内する				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
版画家として多数の作品を制作発表して来た経験を活かし、構想と技術の両面から指導する	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	【第 1 回】授業概要説明。主題・構想について協議
2	【第 2 回】表現方法・技法について協議
3	【第 3 回】作品制作。個別指導
4	【第 4 回】作品制作。個別指導
5	【第 5 回】作品制作。個別指導
6	【第 6 回】作品制作。個別指導
7	【第 7 回】作品制作。個別指導
8	【第 8 回】作品制作。個別指導
9	【第 9 回】作品制作。個別指導
10	【第 10 回】作品制作。個別指導
11	【第 11 回】作品制作。個別指導
12	【第 12 回】作品制作。個別指導
13	【第 13 回】作品制作。個別指導
14	【第 14 回】作品制作。個別指導
15	【第 15 回】鑑賞・合評、まとめ

科目名	絵画研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	村居 正之				
クラス名					
授業目的と到達目標					
精神・技法を土台に、絵画の創造・発展に向かい、個々の知識や感性を高め、それ沿った幅広い表現力を持ち、絵画表現の喜びを実感し、豊かな人間性を育むことを目的とする。					
授業概要					
教官達との交流を通して、制作過程の知識や経験を学び、個々の絵画制作を通して、画論や画材の研究・技法の理解等を多く学習し、作家としての在り方を把握する。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> ・著名な作家、同世代の作家達の作品を数多く鑑賞する。 ・制作を進めながらより高度な精神と表現技術を求める。 					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験	
村居 正之 日本画家(社団法人日展理事・日本芸術院会員) 日本画家である教員が、自身の制作経験をもとに豊かな知識と感性で指導する	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	モチーフは自由。岩絵具、膠、胡粉、麻紙、絹、箔など豊富な日本画の素材を知り、日本画の歴史を通じて高度な知識や現代的表現を身につける。

科目名	絵画研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	久世直幸				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>ディプロマポリシーにある創造性・独創性に富んだ自立した制作活動を営める人物の育成を目指します。そのために以下の内容で実技演習・制作指導・講義・ミーティングを行います。(年間の制作号数 500 号を努力義務とします)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おおらかで個性豊かな平面絵画の追求、様々な体験や知識の集積による制作テーマの深化 ・日本画材を用いた現代的な絵画表現の研究、新しい画材や未知なる表現の開拓 ・美術界の制度や仕組みの理解、合理的な作品展開と積極的な作品発表、成果の獲得 					
授業概要					
<p>【対面授業】・日本画の伝統的表現や技術を確認しながらも、現代に相応しい絵画表現の獲得を目指した実技授業や講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵画制作の立案、計画、実施、発表といった制作活動全般に対する指導 ・流行の表現技法や業界の最新情報など様々なコンテンツの提供教員の画家としての経験を活かし、制作への意欲獲得の方法や準備、研究、実制作から発表、プロデュース、プレゼンまでの知識やスキルを、総合的に指導します。 					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> ・著名作家や同世代の作家の作品を鑑賞する機会を持つ。 ・制作や授業テーマに対する積極的な発言の用意を行う。 					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
制作作品のレベル、クオリティー			70		
作品発表と成果			15		
制作姿勢			15		
教科書					
教科書1	適宜授業内でプリント等を配布します。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					

出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
{久世直幸オフィシャルサイト, https://kuzenaoyuki.com } {一般社団法人 創画会, https://www.sogakai.or.jp }			
特記事項			
教員実務経験			
日本画家で一般社団法人創画会正会員としての制作や発表の経験とスキルを活かし、日本画の表現技法や思考法、制作や発表に関する知識や技術、これからの絵画制作についての知見など、制作者として必要な技能の総合的な修得を目指した指導を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1.年間の制作計画、発表、制作テーマの研究方法についての考察①		
2	2.年間の制作計画、発表、制作テーマの研究方法についての考察②		
3	3.取材(テーマ、モチーフ、手法)の研究①		
4	4.取材(テーマ、モチーフ、手法)の研究②		
5	5.取材(テーマ、モチーフ、手法)の研究③		
6	6.表現、技術、素材についての研究①		
7	7.表現、技術、素材についての研究②		
8	8.表現、技術、素材についての研究③		
9	9.表現、技術、素材についての研究④		
10	10.表現、技術、素材についての研究⑤		
11	11.発表について(額装等、展示、プレゼン、ブランディング、WEB や SNS)①		
12	12.発表について(額装等、展示、プレゼン、ブランディング、WEB や SNS)②		
13	13.発表について(額装等、展示、プレゼン、ブランディング、WEB や SNS)③		
14	14.発表について(額装等、展示、プレゼン、ブランディング、WEB や SNS)④		
15	15.美術業界について(画壇、画商マーケット、アートフェア、美術出版)		

科目名	絵画研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	大西 守博				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p><授業目的> 絵画研究における自己の研究領域の再認識と、領域を超えた幅広い視野、視点からの専門性の確立と深化。その深化にむけての表現方法のさらなる演習と結果検証研究</p> <p><達成目標> * 自己の研究テーマの確立と、研究制作実施内容の計画作成 * 研究制作実施に必要な高度な専門的知識や制作技術の研究、取得 * 自己の研究活動・創造活動の積極的な発信</p> <p>◎大学院博士前期課程ディプロマ・ポリシー ・各研究領域に関わる専門的技術の習得 ・個々の独創的表現を作品として実現しうる能力を習得</p>					
授業概要					
自身の研究テーマの再検証を徹底して行う。その中から高度な理論構築と実践を積極的に行う中で、違う視点や理論を指導し、テーマの独自性を深化させてゆく					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
積極的姿勢が何事においても求められる。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
研究テーマについての独自性、理論構築の整合性についての評価			100		
教科書					
教科書1	必要に応じ資料を提供する				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					

出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
実際に作家活動を行う指導教員が、自身の実務経験を活かし指導にあたる 大西 守博 日本画家(公益社団法人日展会員)			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1.ガイダンス 自己の研究テーマについての再検証ディスカッション		
2	2.ガイダンス2 研究テーマ確立へ向けて、専門的高度な知識の修得、視点の整理		
3	3.テーマ実施制作に向けての構想開始		
4	4.テーマ制作①		
5	5.テーマ制作①		
6	6.テーマ制作①		
7	7.テーマ制作についての中間ディスカッション 理論構築と実施制作との整合性の確認など		
8	8.テーマ制作		
9	9.テーマ制作		
10	10.テーマ制作		
11	11.テーマ制作		
12	12.テーマ制作		
13	13.テーマ制作		
14	14.テーマ制作		
15	15.総評、ディスカッション		

科目名	絵画研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	泉谷 淑夫				
クラス名					
授業目的と到達目標					
明確な主題設定と技術的な課題意識に基づく自主制作活動の定着を図るのが授業目的で、学部時代のレベルからの向上が自覚できるようになることが到達目標である。					
授業概要					
二コマ続きの実習時間を有効に使って、自主制作活動を主体的に進めていくのが中心となるが、必要に応じて絵画研究の講義や作家研究の発表の機会をゼミ形式で取り入れて、自主制作活動の活性化を図っていく。自己評価の信頼度を上げるために、自主制作作品の学外での発表を課していく。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書					
教科書1					
出版社名			著者名		
教科書2					
出版社名			著者名		
教科書3					
出版社名			著者名		
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名			著者名		
参考書名2					
出版社名			著者名		
参考書名3					
出版社名			著者名		
参考書名4					
出版社名			著者名		
参考書名5					
出版社名			著者名		
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験

教員は長年にわたり絵画制作と作品発表に取り組むとともに、絵画の制作指導のための絵画研究を幅広くかつ間断なく行っている。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	後 期 1 回目 ガイダンス 自主制作と学外発表計画
2	2 回目 自主制作①
3	3 回目 自主制作②
4	4 回目 自主制作③
5	5 回目 自主制作④
6	6 回目 絵画研究①
7	7 回目 自主制作⑤
8	8 回目 自主制作⑥
9	9 回目 自主制作⑦
10	10 回目 絵画研究②
11	11 回目 自主制作⑧
12	12 回目 自主制作⑨
13	13 回目 自主制作⑩
14	14 回目 作家研究発表
15	15 回目 前期自主制作作品の発表・講評

科目名	絵画研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	森井 宏青				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>授業目的: 修士課程一年目は、考えることより、体を使いもの造りをするのが要であった。 ここからはその上で、創作に打ち込んだ成果を検証し、自らの思考と創作行動に軸が生まれ、自己のアイデンティティの具現が果たしているのか、自問自答する。 「行動」から、「思考」へ。また、「思考」から、「行動」へ。 反芻しながら、こころと身体、「表現」の一体化を目指す。 達成目標: グローバリズムに飲まれない、確固とした自我をもち、ゆるぎない表現者として自立する。</p>					
授業概要					
<p>自発的な制作研究(創作・表現)を根幹とする。 身体を動かし、多くの素材に生で触れ、自己の具現に真摯に取り組むこと。 教員はディスカッションを大切に、その創作の方向性や可能性について共に考えアドバイスする。 必要となる専門的な技術や、材料学的知識については適宜指導する。 世界に通用する表現力を得るために、この日本という国で創作すること、そしてその表現の意味についても、広い視野でとらえる感性や常識を身につける。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>アーティストになるために必要な基本のすべて。 ・ひたすらに描き、創ること。口先の理論の構築より、身体でものづくりする日々の姿勢を大切に過ごすこと。 ・表現に必要な取材には労をいとわぬこと。安易なネット情報に頼らず、足を使い取材すること。 ・他者の表現の盗用は決して許されない。ネット画像からの影響による安易な創作など厳禁。 自己の表現のオリジナリティに自負を持ち、他者の知的財産を尊ぶこと。 大学院生に恥じない、自覚ある受講態度で臨むこと。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業態度、姿勢、質疑応答や、演習の結果による総合判定。 理論、知識が豊かに、正確に習得されているか、それらが演習としてのびやかに創作に活かされているか			100		
教科書					
教科書1					
出版社名			著者名		
教科書2					
出版社名			著者名		
教科書3					
出版社名			著者名		
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名			著者名		

参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
<p>画家 ノルウェー・フィンランド、北欧アーティストコミュニティ・キュレーター。 アートマテリアル研究 油彩画修復 画家としての活動経験のみならず、絵画古典技法、絵画修復、材料研究、北欧美術研究など、海外でのアーティスト活動の成果を生かし、グローバルな視野のもと、実技指導する。</p>			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	制作研究の今後の方針についてフリーディスカッション		
2	コンセプトと制作の検証1		
3	コンセプトと制作の検証2		
4	コンセプトと制作の検証3		
5	コンセプトと制作の検証4		
6	コンセプトと制作の検証5		
7	コンセプトと制作の検証6		
8	コンセプトと制作の検証7		
9	コンセプトと制作の検証8		
10	コンセプトと制作の検証9		
11	コンセプトと制作の検証10		
12	コンセプトと制作の検証11		
13	修了制作展準備1		
14	修了制作展準備2		
15	プレゼンテーション		

科目名	絵画研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	いしだ ふみ				
クラス名	版画研究演習				
授業目的と到達目標					
<p>豊かな感性と優れた表現力をもつ作り手の育成。 作り手としての自身の立ち位置を美術の流れの中でとらえ、主題・構想を決定することが出来ること。 主題・構想に合致した技法を発案、または技術を修得し、表現に生かすことが出来ること。</p>					
授業概要					
<p>員との対話や参考図書を通して、受講生自身が自らの意図に沿った主題を決定し、その表現の為の技法を複数 試みながら主題に合致した方法論を見出し、制作を通してその技術を修得出来るように指導する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>準備学修としては、道具の手入れ、作品の適切な保存、安全で心地よい制作室の維持を心がけること。 受講上の注意としては、 ・制作の記録が出来るスケッチブック等を持参すること。 ・意欲的・継続的に制作を行い、作品発表の機会があれば積極的に取り組むこと。 ・展覧会・個展等を積極的に鑑賞すること。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
提出作品の完成度			80		
制作姿勢・研究心			20		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	授業の中で状況に応じて案内する				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
版画家として多数の作品を制作発表して来た経験を活かし、構想と技術の両面から指導する	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	【第1回】授業概要説明。主題・構想について協議
2	【第2回】表現方法・技法について協議
3	【第3回】作品制作。個別指導
4	【第4回】作品制作。個別指導
5	【第5回】作品制作。個別指導
6	【第6回】作品制作。個別指導
7	【第7回】作品制作。個別指導
8	【第8回】作品制作。個別指導
9	【第9回】作品制作。個別指導
10	【第10回】作品制作。個別指導
11	【第11回】作品制作。個別指導
12	【第12回】作品制作。個別指導
13	【第13回】作品制作。個別指導
14	【第14回】作品制作。個別指導
15	【第15回】鑑賞・合評、まとめ

科目名	絵画研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	村居 正之				
クラス名					
授業目的と到達目標					
精神・技法を土台に、絵画の創造・発展に向かい、個々の知識や感性を高め、それ沿った幅広い表現力を持ち、絵画表現の喜びを実感し、豊かな人間性を育むことを目的とする。					
授業概要					
教官達との交流を通して、制作過程の知識や経験を学び、個々の絵画制作を通して、画論や画材の研究・技法の理解等を多く学習し、作家としての在り方を把握する。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> ・著名な作家、同世代の作家達の作品を数多く鑑賞する。 ・制作を進めながらより高度な精神と表現技術を求める。 					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験	
村居 正之 日本画家(社団法人日展理事・日本芸術院会員) 日本画家である教員が、自身の制作経験をもとに豊かな知識と感性で指導する	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	モチーフは自由。岩絵具、膠、胡粉、麻紙、絹、箔など豊富な日本画の素材を知り、日本画の歴史を通じて高度な知識や現代的表現を身につける。

科目名	絵画研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	久世 直幸				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>ディプロマポリシーにある創造性・独創性に富んだ自立した制作活動を営める人物の育成を目指します。そのために以下の内容で実技演習・制作指導・講義・ミーティングを行います。(年間の制作号数 500 号を努力義務とします)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おおらかで個性豊かな平面絵画の追求、様々な体験や知識の集積による制作テーマの深化 ・日本画材を用いた現代的な絵画表現の研究、新しい画材や未知なる表現の開拓 ・美術界の制度や仕組みの理解、合理的な作品展開と積極的な作品発表、成果の獲得 					
授業概要					
<p>【対面授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本画の伝統的表現や技術を確認しながらも、現代に相応しい絵画表現の獲得を目指した実技授業や講義 ・絵画制作の立案、計画、実施、発表といった制作活動全般に対する指導 ・流行の表現技法や業界の最新情報など様々なコンテンツの提供教員の画家としての経験を活かし、制作への意欲獲得の方法や準備、研究、実制作から発表、プロデュース、プレゼンまでの知識やスキルを、総合的に指導します。 					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> ・著名作家や同世代の作家の作品を鑑賞する機会を持つ。 ・制作や授業テーマに対する積極的な発言の用意を行う。 					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
制作作品のレベルとクオリティー			70		
作品発表と成果			15		
制作姿勢			15		
教科書					
教科書1	適宜授業内でプリント等を配布します。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					

出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
{久世直幸オフィシャルサイト,https://kuzenaoyuki.com} {一般社団法人 創画会,https://www.sogakai.or.jp}			
特記事項			
教員実務経験			
日本画家で一般社団法人創画会正会員としての制作や発表の経験とスキルを活かし、日本画の表現技法や思考法、制作や発表に関する知識や技術、これからの絵画制作についての知見など、制作者として必要な技能の総合的な修得を目指した指導を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1.年間の制作計画、発表、制作テーマの研究方法についての再考察		
2	2.取材(テーマ、モチーフ、手法)の研究		
3	3.表現、技術、素材についての研究①		
4	4.表現、技術、素材についての研究②		
5	5.表現、技術、素材についての研究③		
6	6.表現、技術、素材についての研究④		
7	7.表現、技術、素材についての研究⑤		
8	8.日本画材料についての再考(和紙、岩絵の具、染料、箔)①		
9	9.日本画材料についての再考(和紙、岩絵の具、染料、箔)②		
10	10.日本画材料についての再考(和紙、岩絵の具、染料、箔)③		
11	11.日本画材料についての再考(和紙、岩絵の具、染料、箔)④		
12	12.日本画材料についての再考(和紙、岩絵の具、染料、箔)⑤		
13	13.年度末発表に向けた展示計画		
14	14.制作の総括、日本画語句テスト		
15	15.制作の総括、講評会		

科目名	絵画研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	大西 守博				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p><授業目的>絵画研究における自己の研究領域の再認識と、領域を超えた幅広い視野、視点からの専門性の確立と深化。その深化にむけての表現方法のさらなる演習と結果検証研究<達成目標></p> <ul style="list-style-type: none"> * 自己の研究テーマの確立と、研究制作実施内容の計画作成 * 研究制作実施に必要な高度な専門的知識や制作技術の研究、取得 * 自己の研究活動・創造活動の積極的な発信 <p>◎大学院博士前期課程ディプロマ・ポリシー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各研究領域に関わる専門的技術の習得 ・個々の独創的表現を作品として実現しうる能力を習得 					
授業概要					
自身の研究テーマの再検証を徹底して行う。その中から高度な理論構築と実践を積極的に行う中で、違う視点や理論を指導し、テーマの独自性を深化させてゆく					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
積極的姿勢が何事においても求められる。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
研究テーマについての独自性、理論構築の整合性についての評価			100		
教科書					
教科書1	必要に応じ資料を提供する				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					

出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
実際に作家活動を行う指導教員が、自身の実務経験を活かし指導にあたる 大西 守博 日本画家(公益社団法人日展会員)			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1.ガイダンス 自己の研究テーマについての再検証ディスカッション		
2	2.ガイダンス 2 研究テーマ確立へ向けて、専門的・高度な知識の修得、視点の整理		
3	3.テーマ実施制作に向けての構想開始		
4	4.テーマ制作①		
5	5.テーマ制作①		
6	6.テーマ制作①		
7	7.テーマ制作についての中間ディスカッション 理論構築と実施制作との整合性の確認など		
8	8.テーマ制作		
9	9.テーマ制作		
10	10.テーマ制作		
11	11.テーマ制作		
12	12.テーマ制作		
13	13.テーマ制作(修了審査/口頭試問準備)		
14	14.テーマ制作(修了審査/口頭試問準備)		
15	15.修了審査/プレゼンテーション/口頭試問準備		

科目名	絵画研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	泉谷 淑夫				
クラス名					
授業目的と到達目標					
明確な主題設定と技術的な課題意識に基づく自主制作活動の定着を図るのが授業目的で、学部時代のレベルからの向上が自覚できるようになることが到達目標である。					
授業概要					
実習時間を有効に使って、自主制作活動を主体的に進めていくのが中心となるが、必要に応じて絵画研究の講義や作家研究の発表の機会をゼミ形式で取り入れて、自主制作活動の活性化を図っていく。自己評価の信頼度を上げるために、自主制作作品の学外での発表を課していく。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
絵画や美術に対して日頃から幅広い関心を持つことが期待される。遅刻や欠席をできる限り避け、持続的な制作に耐えられる体力と精神力が維持できるように努力する。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験

教員は長年にわたり絵画制作と作品発表に取り組むとともに、絵画の制作指導のための絵画研究を幅広くかつ間断なく行っている。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	前 期 1回目 ガイダンス 自主制作と学外発表計画
2	2回目 自主制作①
3	3回目 自主制作②
4	4回目 自主制作③
5	5回目 自主制作④
6	6回目 絵画研究①
7	7回目 自主制作⑤
8	8回目 自主制作⑥
9	9回目 自主制作⑦
10	10回目 絵画研究②
11	11回目 自主制作⑧
12	12回目 自主制作⑨
13	13回目 自主制作⑩
14	14回目 作家研究発表
15	15回目 前期自主制作作品の発表・講評

科目名	絵画研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 前期	形態	演習		
教員名	いしだ ふみ				
クラス名	版画研究演習				
授業目的と到達目標					
<p>豊かな感性と優れた表現力をもつ作り手の育成。 作り手としての自身の立ち位置を美術の流れの中でとらえ、主題・構想を決定することが出来ること。 主題・構想に合致した技法を発案、または技術を修得し、表現に生かすことが出来ること。</p>					
授業概要					
<p>教員との対話や参考図書を通して、受講生自身が自らの意図に沿った主題を決定し、その表現の為の技法を複数試みながら主題に合致した方法論を見出し、制作を通してその技術を修得出来るように指導する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>準備学修としては、道具の手入れ、作品の適切な保存、安全で心地よい制作室の維持を心がけること。 受講上の注意としては、 ・制作の記録が出来るスケッチブック等を持参すること。 ・意欲的・継続的に制作を行い、作品発表の機会があれば積極的に取り組むこと。 ・展覧会・個展等を積極的に鑑賞すること。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
提出作品の完成度			80		
制作姿勢・研究心			20		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	授業の中で状況に応じて案内する				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
版画家として多数の作品を制作発表して来た経験を活かし、構想と技術の両面から指導する	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	【第 1 回】授業概要説明。主題・構想について協議
2	【第 2 回】表現方法・技法について協議
3	【第 3 回】作品制作。個別指導
4	【第 4 回】作品制作。個別指導
5	【第 5 回】作品制作。個別指導
6	【第 6 回】作品制作。個別指導
7	【第 7 回】作品制作。個別指導
8	【第 8 回】作品制作。個別指導
9	【第 9 回】作品制作。個別指導
10	【第 10 回】作品制作。個別指導
11	【第 11 回】作品制作。個別指導
12	【第 12 回】作品制作。個別指導
13	【第 13 回】作品制作。個別指導
14	【第 14 回】作品制作。個別指導
15	【第 15 回】鑑賞・合評, まとめ

科目名	絵画研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	泉谷 淑夫				
クラス名					
授業目的と到達目標					
明確な主題設定と技術的な課題意識に基づく自主制作活動の定着を図るのが授業目的で、学部時代のレベルからの向上が自覚できるようになることが到達目標である。					
授業概要					
二コマ続きの実習時間を有効に使って、自主制作活動を主体的に進めていくのが中心となるが、必要に応じて絵画研究の講義や作家研究の発表の機会をゼミ形式で取り入れて、自主制作活動の活性化を図っていく。自己評価の信頼度を上げるために、自主制作作品の学外での発表を課していく。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験

教員は長年にわたり絵画制作と作品発表に取り組むとともに、絵画の制作指導のための絵画研究を幅広くかつ間断なく行っている。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	後 期 1回目 ガイダンス 自主制作と学外発表計画
2	2回目 自主制作①
3	3回目 自主制作②
4	4回目 自主制作③
5	5回目 自主制作④
6	6回目 絵画研究①
7	7回目 自主制作⑤
8	8回目 自主制作⑥
9	9回目 自主制作⑦
10	10回目 絵画研究②
11	11回目 自主制作⑧
12	12回目 自主制作⑨
13	13回目 自主制作⑩
14	14回目 作家研究発表
15	15回目 前期自主制作作品の発表・講評

科目名	絵画研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	いしだ ふみ				
クラス名	版画研究演習				
授業目的と到達目標					
<p>豊かな感性と優れた表現力をもつ作り手の育成。 作り手としての自身の立ち位置を美術の流れの中でとらえ、主題・構想を決定することが出来ること。 主題・構想に合致した技法を発案、または技術を修得し、表現に生かすことが出来ること。</p>					
授業概要					
<p>教員との対話や参考図書を通して、受講生自身が自らの意図に沿った主題を決定し、その表現の為の技法を複数試みながら主題に合致した方法論を見出し、制作を通してその技術を修得出来るように指導する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>準備学修としては、道具の手入れ、作品の適切な保存、安全で心地よい制作室の維持を心がけること。 受講上の注意としては、 ・制作の記録が出来るスケッチブック等を持参すること。 ・意欲的・継続的に制作を行い、作品発表の機会があれば積極的に取り組むこと。 ・展覧会・個展等を積極的に鑑賞すること。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
提出作品の完成度			80		
制作姿勢・研究心			20		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	授業の中で状況に応じて案内する				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
版画家として多数の作品を制作発表して来た経験を活かし、構想と技術の両面から指導する	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	【第 1 回】授業概要説明。主題・構想について協議
2	【第 2 回】表現方法・技法について協議
3	【第 3 回】作品制作。個別指導
4	【第 4 回】作品制作。個別指導
5	【第 5 回】作品制作。個別指導
6	【第 6 回】作品制作。個別指導
7	【第 7 回】作品制作。個別指導
8	【第 8 回】作品制作。個別指導
9	【第 9 回】作品制作。個別指導
10	【第 10 回】作品制作。個別指導
11	【第 11 回】作品制作。個別指導
12	【第 12 回】作品制作。個別指導
13	【第 13 回】作品制作。個別指導
14	【第 14 回】作品制作。個別指導
15	【第 15 回】鑑賞・合評, まとめ

科目名	彫刻研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度 前期	形態	演習		
教員名	田丸 稔				
クラス名					
授業目的と到達目標					
(1)環境造形や彫刻表現全般に関わる構成や秩序、技法等の総合的な研究の質的達成。 (2)作品2点以上の提出、うち1点以上は対外的な発表(展覧会出品等)をすること。					
授業概要					
1年次彫刻研究演習の継続研究として、塑造および環境造形、において、各自が取り組んできた各種の研究を、より高次の次元へと質を高める。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
授業時間外は1週間12時間以上、自己の制作研究に集中し、理論的考察を試みる。 研究不正防止の観点から研究倫理(研究活動における不正行為:捏造、改ざん、盗用、研究データの管理など)に関することには特に留意すること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
研究レポートおよびゼミナール形式の研究会における発表の状況に関する評価			50		
学内外での研究発表(個展および展覧会等への出品)の状況についての評価			50		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	彫刻とは何か 新装版: 特質と限界				
出版社名	日貿出版	著者名	ハーバート・リード/宇佐美英治 訳		
参考書名2	近代彫刻史				
出版社名	言叢社	著者名	ハーバート・リード/藤原えりみ 訳		
参考書名3	芸術の意味				
出版社名	みすず書房	著者名	ハーバート・リード/滝口修造 訳		
参考書名4	彫刻の美				
出版社名	中央公論美術出版	著者名	本郷新		
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
彫刻家として、また芸術系大学で制作研究および教育活動を行ってきた経験を活かし、彫刻造形指導及び創作理念を指導する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション
2	実制作およびレポート作成
3	実制作およびレポート作成
4	実制作およびレポート作成
5	実制作およびレポート作成
6	実制作およびレポート作成
7	実制作およびレポート作成
8	実制作およびレポート作成
9	実制作およびレポート作成
10	実制作およびレポート作成
11	実制作およびレポート作成
12	実制作およびレポート作成
13	実制作およびレポート作成
14	実制作およびレポート作成
15	まとめ

科目名	彫刻研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	田丸 稔				
クラス名					
授業目的と到達目標					
(1) 環境造形や彫刻表現全般に関わる構成や秩序、技法等の総合的な研究の質的達成。 (2) 作品 2 点以上の提出、うち 1 点以上は対外的な発表(展覧会出品等)をすること。					
授業概要					
前期の彫刻研究演習から継続し、塑造および環境造形において、各自が取り組んできた各種の研究をより高次の次元へと質を深める。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
授業時間外は 1 週間 12 時間以上、自己の制作研究に集中し、理論的考察を試みる。 研究不正防止の観点から研究倫理(研究活動における不正行為:捏造、改ざん、盗用、研究データの管理など)に関することには特に留意すること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
研究レポートおよびゼミナール形式の研究会における発表の状況に関する評価			0.5		
学内外での研究発表(個展および展覧会等への出品)の状況についての評価			0.5		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	彫刻とは何か 新装版: 特質と限界				
出版社名	日貿出版	著者名	ハーバート・リード/宇佐美英治 訳		
参考書名2	近代彫刻史				
出版社名	言叢社	著者名	ハーバート・リード/藤原えりみ 訳		
参考書名3	芸術の意味				
出版社名	みすず書房	著者名	ハーバート・リード/滝口修造 訳		
参考書名4	彫刻の美				
出版社名	中央公論美術出版	著者名	本郷新		
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
彫刻家として、また芸術系大学で制作研究および教育活動を行ってきた経験を活かし、彫刻造形指導及び創作理念を指導する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション
2	実制作およびレポート作成
3	実制作およびレポート作成
4	実制作およびレポート作成
5	実制作およびレポート作成
6	実制作およびレポート作成
7	実制作およびレポート作成
8	実制作およびレポート作成
9	実制作およびレポート作成
10	実制作およびレポート作成
11	実制作およびレポート作成
12	実制作およびレポート作成
13	実制作およびレポート作成
14	実制作およびレポート作成
15	まとめ

科目名	デザイン研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	吉川 直哉				
クラス名					
授業目的と到達目標					
文献や先行作家の作品を深く研究し、写真表現の研究と制作発表で社会に問うことを目標とする。個展として研究成果を発表できることが望ましい。					
授業概要					
対面授業（新型コロナウイルス等感染症予防対策として遠隔授業になる場合もある。） 講義と作品制作について、そのディスカッションを中心とするが、フィールドワークや様々なプロジェクトなど社会参加も積極的にすすめる。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
予習:表現者として、研究のために必要な文献を熟読。 復習:文献とフィールドワークから問題点や疑問点を発見し、解決へと導く。新型コロナウイルス等感染症予防対策として遠隔授業になる場合もある。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品制作			60		
研究姿勢			40		
教科書					
教科書1	授業内でその都度紹介する。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	授業内でその都度紹介する。				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
<p>大学で写真を専攻(本学写真学科)、大学院で写真教育の日米比較を調査研究し((芸術文化研究科前期修了)。また文化庁派遣芸術家在外研修(アメリカ、サウスハンプトン大学美術メディア学部客員研究員)、チビテララニエリセンター選考アーティスト・イン・レジデンス。秋吉台国際芸術村アーティスト・イン・レジデンス 2015。大理国際写真祭、平遥国際写真祭、テラピリンス国際芸術祭、ケープタウン写真フェスティバルなど国内外の写真祭、芸術祭に招待され作品発表、、またテグ写真ビエンナーレ 2016 で日本人初の芸術監督。2020 年ヘルシンキ写真祭国際審査員。国内外で展覧会、ワークショップ、シンポジウムなどに参加、調査研究した経験とともに、最新の情報を提供します。</p>	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業概要と研究テーマの確認
2	各自の研究テーマについて、その方法と手段を模索。
3	各自の研究テーマにおける問題点を探る
4	制作計画、研究計画の発表
5	制作計画と研究テーマについて先行作家を探る
6	制作計画と研究テーマについてその参考文献を探る
7	制作計画と研究テーマについてその参考文献から学ぶ
8	制作の経過、研究テーマについて、その中間発表。
9	各自の制作テーマ、研究テーマに沿ったフィールドワークの提案
10	各自の制作テーマ、研究テーマについての課題とその修正
11	作品制作と研究テーマの経過報告
12	ライフライン(振り返り)
13	作品制作の成果とその言語化
14	作品発表とその批評
15	研究テーマの完成と課題について

科目名	デザイン研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	高橋 善丸				
クラス名					
授業目的と到達目標					
グラフィックデザインは合目的性のあるアートと言える。それは、目的に対する論理的構築と表現感性の両輪から成り立っているからであり、どちらも不可欠な要素である。加えて、メディア環境の中で成立している以上、メディアが進化することで、その在り方も大きく変化していく。これら時代とリンクし時代を見据えた設計が、豊かな文化をも形成していくという意識を持ってもらいたい。					
授業概要					
対面授業を基本とするが、都度状況を見て判断。ビジネス環境ではなく、研究テーマとしての目的は自身の中にあるが、結果としての表現には、発信意図に対してと情報の享受者の理解との合致が必要であるということを、忘れてはいけない。社会をシミュレーションして表現することを超えた、オリジナルな提案がどれだけ出来るかで、研究という名に相応しくなる。 客観性を持った意義あるテーマの開発は、社会と自身の思考と授業の相互交換の中で醸成されていくべきである。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
研究の成就是、お互いのレスポンスにて、クオリティが磨かれる。一方が粗であれば、着実な進展が望めないのはもちろんである。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
取り組む意識			40		
提案の幅と作品			60		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	こちいい文字				
出版社名	パイインターナショナル	著者名	高橋善丸		
参考書名2	こちいい本				
出版社名	パイインターナショナル	著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					

出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
実務経験:グラフィックデザイナー・アートディレクターとして事務所経営をし、加えて展覧会、コンペ、講演、審査員、著作書籍など様々な経験を生かし包括的指導する。			
教員実務経験			
kokokumaru.com			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	<p>前期、研究テーマを設定し、リサーチと考察を繰り返す。 (グラフィックデザインは、メディアを超えてプログラムへと領域を拡大している。即ち、高いクオリティ表現を追求することは勿論として、それに計画して設計することの重要性に重心が移行していると言える。前期はこれらの視点を養うことに重点を置く。)</p> <p>後期、研究テーマの論理的確立をし、シュミレーションで検証。 (自分の視点からの論理立ても、繰り返し実験を積み重ねて検証しなければ、客観性が得られない。ここでは、揺るぎない構築を目指す。)</p> <p>学内ギャラリーにおいて、中間成果としての発表を行う。</p>		

科目名	デザイン研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	澄川 伸一				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>プロダクトデザインは今、テクノロジーの進化とともに大きく変化しています。IOT サービス、シェアリング、ロボティクス、AI デザインと、従来のデザインプロセス自体を変えないと、プロダクトが成立しません。この演習では、新たなデザインプロセスを体系的に学び、かつ普遍的な UX デザインなども復習します。現代社会に必要なとされる総合力の体得を到達目標とします。</p>					
授業概要					
<p>[対面 502 教室] 卒業研究テーマを思考し、その検証も兼ねて複数の先行研究調査、企画構想、仮説検証のためのプロトタイプ制作などを実践していきます。研究を深め、多くのトライ&エラーを通して研究テーマを研澄まし、魅力ある成果物になるための授業を進めていきます。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>高度なデザイン領域の考察と研究を、極力わかりやすい事例紹介を通して行います。関連書籍などから知見を得て、授業に参加ください。机上研究のみでなくリアルな実体験研究を加えることを望みます。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題提出や授業の取組みなどを総合的に評価します。			100		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項

教員実務経験

プロダクトデザイナー・大阪芸術大学 教授
 フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』
 {WIKI, <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%BE%84%E5%B7%9D%E4%BC%B8%E4%B8%80>}
 {PORTFOLIO, <https://sumikawadesign.amebaownd.com/> }
 {コラム「澄川伸一デザイン道場」, <http://www.pdweb.jp/column/index.shtml>}
 ▼プロフィール
 千葉大学工学部卒業後、ソニー本社デザインセンター、アメリカデザインセンターで、ウォークマン、ラジオ、TVなどをデザイン。
 1991年 澄川伸一デザイン事務所設立、代表兼デザイナー現在に至る。
 2016 リオ・オリンピック, 2020 東京オリンピック公式卓球台をデザインし世界中の話題となる
 2017 年子供向け大型遊具「マウンテン」がドイツ IF デザイン賞受賞。その他、REDDOT, グッドデザイン賞など受賞歴多数あり。
 バックパッカーとして世界 57ヶ国の滞在経験を活かし、固定概念にとらわれないデザインを実践。
 工学部系デザイナーとして三次元 CAD、プリンターをフル活用した幾何学スキルで心地よい曲面設計を得意とする。現在も、最先端の機器から伝統工芸まで幅広いジャンルをデザイン。

授業計画 (各回予定)

授業回	授業内容
1	ガイダンス
2	デザイン研究
3	デザイン研究
4	デザイン研究
5	デザイン研究
6	デザイン研究
7	デザイン研究
8	デザイン研究
9	デザイン研究
10	デザイン研究
11	デザイン研究
12	デザイン研究
13	デザイン研究
14	デザイン研究
15	デザイン研究総括

科目名	デザイン研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度 前期	形態	演習		
教員名	織作 峰子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
常にアンテナを張り、展覧会やブック制作等、積極的に行動をすること。修士課程終了制作に向けて個性が表出した作品を目指し、コンペティションへの挑戦も視野に入れながら研究をする。					
授業概要					
一年次での研究成果を踏まえ、更に構築を重ねること。日々の撮影は勿論の事、様々な写真展示や美術館鑑賞からアイデアを学び、自身の制作のヒントにする。授業は対面を基本とする。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
欠席の際は必ず報告すること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	4/10 今後の研究テーマに関する相談
2	4/17 京都グラフィ観覧
3	4/24 特殊プリント作品制作
4	5/1 ギャラリークルージング
5	5/15 プリント制作
6	5/22 奈良写真美術館
7	5/29 作品制作(プリントワークと book 製作)
8	6/5 写真におけるミクストメディアの研究 1 資料集め
9	6/12 写真におけるミクストメディアの研究 2
10	6/19 ミクストメディア作品制作
11	6/26 ミクストメディア作品の制作仕上げ
12	7/3 グループ展示会の構想
13	7/10 グループ展に向けた作品制作
14	7/17 作品制作
15	7/24 作品制作

科目名	デザイン研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	吉川 直哉				
クラス名					
授業目的と到達目標					
文献や先行作家の作品を深く研究し、写真表現の研究と制作発表で社会に問うことを目標とする。個展として研究成果を発表できることが望ましい。					
授業概要					
対面授業（新型コロナウイルス等感染症予防対策として遠隔授業になる場合もある。）講義と作品制作について、そのディスカッションを中心とするが、フィールドワークや様々なプロジェクトなど社会参加も積極的にすすめる。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
予習:表現者として、研究のために必要な文献を熟読。復讐:文献とフィールドワークから問題点や疑問点を発見し、解決へと導く。新型コロナウイルス等感染症予防対策として遠隔授業になる場合もある。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品制作			60		
研究姿勢			40		
教科書					
教科書1	授業内でその都度紹介する。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	授業内でその都度紹介する。				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
<p style="text-align: center;">教員実務経験</p>	
<p>大学で写真を専攻(本学写真学科)、大学院で写真教育の日米比較を調査研究し(芸術文化研究科前期修了)。また文化庁派遣芸術家在外研修(アメリカ、サウスハンプトン大学美術メディア学部客員研究員)、チビテララニエリセンター選考アーティスト・イン・レジデンス。秋吉台国際芸術村アーティスト・イン・レジデンス 2015。大理国際写真祭、平遥国際写真祭、テラピリンス国際芸術祭、ケープタウン写真フェスティバルなど国内外の写真祭、芸術祭に招待され作品発表、、またテグ写真ビエンナーレ 2016 で日本人初の芸術監督。2020 年ヘルシンキ写真祭国際審査員。国内外で展覧会、ワークショップ、シンポジウムなどに参加、調査研究した経験とともに、最新の情報を提供します。</p>	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業概要と研究テーマの確認
2	各自の研究テーマについて、その方法と手段を模索。
3	各自の研究テーマにおける問題点を探る
4	制作計画、研究計画の発表
5	制作計画と研究テーマについて先行作家を探る
6	制作計画と研究テーマについてその参考文献を探る
7	制作計画と研究テーマについてその参考文献から学ぶ
8	制作の経過、研究テーマについて、その中間発表。
9	各自の制作テーマ、研究テーマに沿ったフィールドワークの提案
10	各自の制作テーマ、研究テーマについての課題とその修正
11	作品制作と研究テーマの経過報告
12	ライフライン(振り返り)
13	作品制作の成果とその言語化
14	作品発表とその批評
15	研究テーマの完成と課題について

科目名	デザイン研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	高橋 善丸				
クラス名					
授業目的と到達目標					
グラフィックデザインは合目的性のあるアートと言える。それは、目的に対する論理的構築と表現感性の両輪から成り立っているからであり、どちらも不可欠な要素である。加えて、メディア環境の中で成立している以上、メディアが進化することで、その在り方も大きく変化していく。これら時代とリンクし時代を見据えた設計が、豊かな文化をも形成していくという意識を持ってもらいたい。					
授業概要					
対面授業。ビジネス環境ではなく、研究テーマとしての目的は自身の中にあるが、結果としての表現には、発信意図に対してと情報の享受者の理解との合致が必要であるということ、忘れてはいけない。社会をシュミレーションして表現することを超えた、オリジナルな提案がどれだけ出来るかで、研究という名に相応しくなる。客観性を持った意義あるテーマの開発は、社会と自身の思考と授業の相互交換の中で醸成されていくべきである。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
研究の成就是、お互いのレスポンスにて、クオリティが磨かれる。一方が粗であれば、着実な進展が望めないのはもちろんである。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
取り組む意識			40		
提案の幅と作品			60		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	こちいい文字				
出版社名	パイインターナショナル	著者名	高橋善丸		
参考書名2	こちいい本				
出版社名	パイ インターナショナル	著者名	高橋善丸		
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					

出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
実務経験:グラフィックデザイナー・アートディレクターとして事務所経営をし、加えて展覧会、コンペ、講演、審査員、著作書籍など様々な経験を生かし包括的指導する。			
教員実務経験			
kokokumaru.com			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	<p>前期、研究テーマを設定し、リサーチと考察を繰り返す。 (グラフィックデザインは、メディアを超えてプログラムへと領域を拡大している。即ち、高いクオリティ表現を追求することは勿論として、それに計画して設計することの重要性に重心が移行していると言える。前期はこれらの視点を養うことに重点を置く。)</p> <p>後期、研究テーマの論理的確立をし、シュミレーションで検証。 (自分の視点からの論理立ても、繰り返し実験を積み重ねて検証しなければ、客観性が得られない。ここでは、揺るぎない構築を目指す。)</p> <p>学内ギャラリーにおいて、中間成果としての発表を行う。</p>		

科目名	デザイン研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	澄川 伸一				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>プロダクトデザインは今、テクノロジーの進化とともに大きく変化しています。IOT サービス、シェアリング、ロボティクス、AI デザインと、従来のデザインプロセス自体を変えないと、プロダクトが成立しません。この演習では、新たなデザインプロセスを体系的に学び、かつ普遍的な UX デザインなども復習します。現代社会に必要なとされる総合力の体得を到達目標とします。</p>					
授業概要					
<p>[対面授業] 卒業研究テーマを思考し、その検証も兼ねて複数の先行研究調査、企画構想、仮説検証のためのプロトタイプ制作などを実践していきます。研究を深め、多くのトライ&エラーを通して研究テーマを研澄まし、魅力ある成果物になるための授業を進めていきます。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>高度なデザイン領域の考察と研究を、極力わかりやすい事例紹介を通して行います。関連書籍などから知見を得て、授業に参加ください。机上研究のみでなくリアルな実体験研究を加えることを望みます。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題提出や授業の取組みなどを総合的に評価します。			100		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項

教員実務経験

プロダクトデザイナー・大阪芸術大学 教授
 フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』
 {WIKI, <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%BE%84%E5%B7%9D%E4%BC%B8%E4%B8%80>}
 {PORTFOLIO, <https://sumikawadesign.amebaownd.com/>}
 {コラム「澄川伸一デザイン道場」, <http://www.pdweb.jp/column/index.shtml>}
 ▼プロフィール
 千葉大学工学部卒業後、ソニー本社デザインセンター、アメリカデザインセンターで、ウォークマン、ラジオ、TVなどをデザイン。
 1991年澄川伸一デザイン事務所設立、現在に至る。グッドデザイン賞審査員を13年務める、うちユニット長も数多く務めた。また様々な企業のデザイン戦略のアドバイザーも務める。
 2016 リオ・オリンピック, 2020 東京オリンピック公式卓球台を二大会連続デザインし世界中の話題となる。卓球台は高校の美術の教科書に名前入りで掲載された。日本文教出版「高校生の美術 3」光村図書「美術 3」など
 2017年子供向け大型遊具「マウンテン」がドイツ IF デザイン賞受賞。その他、REDDOT, グッドデザイン賞など受賞歴多数あり。
 ベネッセ進研ゼミのタブレットなどメイン教具をデザイン担当、その多くは TVCMなどで放映されている。
 学生時代よりバックパッカーとして世界 57ヶ国の滞在経験を活かし、固定概念にとらわれないデザインを実践。また、スキューバダイビング PADI アドバンスライセンスあり。
 工学部系デザイナーとして三次元 CAD、プリンターをフル活用した幾何学スキルで心地よい曲面設計を得意とする。現在も、最先端の機器から伝統工芸まで幅広いジャンルをデザイン。

授業計画 (各回予定)

授業回	授業内容
1	デザイン研究
2	デザイン研究
3	デザイン研究
4	デザイン研究
5	デザイン研究
6	デザイン研究
7	デザイン研究
8	デザイン研究
9	デザイン研究
10	デザイン研究
11	デザイン研究
12	デザイン研究
13	デザイン研究
14	デザイン研究
15	課題提出や授業の取組みなどを総合的に評価します。

科目名	デザイン研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	織作 峰子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
学内学内にて得た制作技術を習得し、作品を纏め上げ、終了制作に向けて着実に実践すること					
授業概要					
主に制作作品の指導を行う					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
遅刻をしないこと 美術館鑑賞やギャラリー展の鑑賞を積極的に行う					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	終了制作についての考察
2	作品制作(暗室、特殊プリント)
3	作品制作(暗室、特殊プリント)
4	展覧会計画、展示案作成
5	book 制作、ポートフォリオ制作
6	プリンティングディレクターによる book 制作についてのアドバイスを受ける
7	book 制作、製本
8	作品制作
9	論文と制作作品との擦り合わせ
10	終了制作に向けての作業
11	作品制作
12	論文制作とポートフォリオ、book を完成させる
13	終了制作論文の確認と仕上げ
14	終了制作展示作品の最終仕上げ
15	終了制作の仕上げ(細部の直し)

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	吉川 直哉				
クラス名					
授業目的と到達目標					
文献や先行作家の作品を深く研究し、写真表現の研究と制作発表で社会に問うことを目標とする。個展として研究成果を発表できることが望ましい。					
授業概要					
対面授業（新型コロナウイルス等感染症予防対策として遠隔授業になる場合もある。）講義と作品制作について、そのディスカッションを中心とするが、フィールドワークや様々なプロジェクトなど社会参加も積極的にすすめる。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
予習:表現者として、研究のために必要な文献を熟読。復讐:文献とフィールドワークから問題点や疑問点を発見し、解決へと導く。新型コロナウイルス等感染症予防対策として遠隔授業になる場合もある。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品制作			60		
研究姿勢			40		
教科書					
教科書1	授業内でその都度紹介する。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	授業内でその都度紹介する。				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
<p style="text-align: center;">教員実務経験</p>	
<p>大学で写真を専攻(本学写真学科)、大学院で写真教育の日米比較を調査研究し(芸術文化研究科前期修了)。また文化庁派遣芸術家在外研修(アメリカ、サウスハンプトン大学美術メディア学部客員研究員)、チビテララニエリセンター選考アーティスト・イン・レジデンス。秋吉台国際芸術村アーティスト・イン・レジデンス 2015。大理国際写真祭、平遥国際写真祭、テラピリンス国際芸術祭、ケープタウン写真フェスティバルなど国内外の写真祭、芸術祭に招待され作品発表、、またテグ写真ビエンナーレ 2016 で日本人初の芸術監督。2020 年ヘルシンキ写真祭国際審査員。国内外で展覧会、ワークショップ、シンポジウムなどに参加、調査研究した経験とともに、最新の情報を提供します。</p>	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業概要と研究テーマの確認
2	各自の研究テーマについて、その方法と手段を模索。
3	各自の研究テーマにおける問題点を探る
4	制作計画、研究計画の発表
5	制作計画と研究テーマについて先行作家を探る
6	制作計画と研究テーマについてその参考文献を探る
7	制作計画と研究テーマについてその参考文献から学ぶ
8	制作の経過、研究テーマについて、その中間発表。
9	各自の制作テーマ、研究テーマに沿ったフィールドワークの提案
10	各自の制作テーマ、研究テーマについての課題とその修正
11	作品制作と研究テーマの経過報告
12	ライフライン(振り返り)
13	作品制作の成果とその言語化
14	作品発表とその批評
15	研究テーマの完成と課題について

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	高橋 善丸				
クラス名					
授業目的と到達目標					
グラフィックデザインは合目的性のあるアートと言える。それは、目的に対する論理的構築と表現感性の両輪から成り立っているからであり、どちらも不可欠な要素である。加えて、メディア環境の中で成立している以上、メディアが進化することで、その在り方も大きく変化していく。これら時代とリンクし時代を見据えた設計が、豊かな文化をも形成していくという意識を持ってもらいたい。					
授業概要					
対面授業を基本とするが、都度状況を見て判断。ビジネス環境ではなく、研究テーマとしての目的は自身の中にあるが、結果としての表現には、発信意図に対してと情報の享受者の理解との合致が必要であるということを、忘れてはいけない。社会をシュミレーションして表現することを超えた、オリジナルな提案がどれだけ出来るかで、研究という名に相応しくなる。 客観性を持った意義あるテーマの開発は、社会と自身の思考と授業の相互交換の中で醸成されていくべきである。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
研究の成就是、お互いのレスポンスにて、クオリティが磨かれる。 一方が粗であれば、着実な進展が望めないのはもちろんである。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
取り組む意識			40		
提案の幅と作品			60		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	こちいい文字				
出版社名	パイインターナショナル	著者名	高橋善丸		
参考書名2	こちいい本				
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					

出版社名		著者名	
参考 URL			
kokokumaru.com			
特記事項			
教員実務経験			
<p>タイポグラフィを中心とした視覚コミュニケーションを探求している。グラフィックデザイナー・アートディレクターとして、アジアから欧米まで国内外での講演、審査員、展覧会などの多くの企画に参加し、多数の受賞歴もある。多くの著書も発刊しており、作品が美術館でのコレクションもされている。自身のデザイン事務所を持ち、50年に渡る実務経験を生かした包括的指導をする。</p>			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	<p>前期、研究テーマを設定し、リサーチと考察を繰り返す。 (グラフィックデザインは、メディアを超えてプログラムへと領域を拡大している。即ち、高いクオリティ表現を追求することは勿論として、それに計画して設計することの重要性に重心が移行していると言える。前期はこれらの視点を養うことに重点を置く。)</p> <p>後期、研究テーマの論理的確立をし、シミュレーションで検証。 (自分の視点からの論理立ても、繰り返し実験を積み重ねて検証しなければ、客観性が得られない。ここでは、揺るぎない構築を目指す。)</p> <p>学内ギャラリーにおいて、中間成果としての発表を行う。</p>		

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 前期	形態	演習		
教員名	澄川 伸一				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>プロダクトデザインは今、テクノロジーの進化とともに大きく変化しています。IOT サービス、シェアリング、ロボティクス、AI デザインと、従来のデザインプロセス自体を変えないと、プロダクトが成立しません。この演習では、新たなデザインプロセスを体系的に学び、かつ普遍的な UX デザインなども復習します。現代社会に必要なとされる総合力の体得を到達目標とします。</p>					
授業概要					
<p>[対面 502 教室] 卒業研究テーマを思考し、その検証も兼ねて複数の先行研究調査、企画構想、仮説検証のためのプロトタイプ制作などを実践していきます。研究を深め、多くのトライ&エラーを通して研究テーマを研澄まし、魅力ある成果物になるための授業を進めていきます。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験

プロダクトデザイナー・大阪芸術大学 教授
 フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』
 {WIKI,<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%BE%84%E5%B7%9D%E4%BC%B8%E4%B8%80>}
 {PORTFOLIO,<https://sumikawadesign.amebaownd.com/>}
 {コラム「澄川伸一デザイン道場」,<http://www.pdweb.jp/column/index.shtml>}
 ▼プロフィール
 千葉大学工学部卒業後、ソニー本社デザインセンター、アメリカデザインセンターで、ウォークマン、ラジオ、TVなどをデザイン。
 1991年澄川伸一デザイン事務所設立、代表兼デザイナー現在に至る。
 2016 リオ・オリンピック、2020 東京オリンピック公式卓球台をデザインし世界中の話題となる
 2017 年子供向け大型遊具「マウンテン」がドイツ IF デザイン賞受賞。その他、REDDOT、グッドデザイン賞など受賞歴多数あり。
 バックパッカーとして世界 57 ヶ国の滞在経験を活かし、固定概念にとらわれないデザインを実践。
 工学部系デザイナーとして三次元 CAD、プリンターをフル活用した幾何学スキルで心地よい曲面設計を得意とする。現在も、最先端の機器から伝統工芸まで幅広いジャンルをデザイン。

授業計画 (各回予定)

授業回	授業内容
1	授業では、研究テーマに対する調査からスタートします。多くの先行研究や書籍を確認し、研究テーマにまつわる関連事項を広く明らかにしていきます。 一定量の調査分析ができた段階で、仮説を立て、1次デザインを試作します。そのアウトプットに対して、客観的検証を複数のフィルターにかけて行い精度を高めていきます。検証結果が芳しくない場合は、研究テーマの方向性を大きく変えます。学生自身のしたい事と、研究として最適なテーマは異なる事が多く、これに学生自ら気付かせる授業内容としていきます。 年間を通して3回から4回程度、学生自ら立てたテーマでデザインによるアウトプットをさせることで、年度終了時には精度の高い研究テーマと制作物が明らかになってきます。

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	織作 峰子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>1. 社会との関係も含め、様々なプロジェクトへのチャレンジを推進する。</p> <p>2. 他学科及び他研究者との具体的なテーマにもとづいたコラボレーションをおこない、研究活動のフィールドを広めると共に、他ジャンルとの連携による新しいグローバルイノベーションを生み出す。</p> <p>3. これまで重ねてきた各自の研究テーマをより明確にし、発表・展開する為の考察を行う。</p>					
授業概要					
<p>クリエイターとして自己確立と開発に機軸を置いて、芸術の持つ普遍的な喜びや感動をコアに、広域でのARTについて研究する。</p> <p>個性あるファンデーションを築き上げるための研究・発表のラボ。授業は対面を基本とする。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>今後の作品制作の展開への参考資料となるポートフォリオを常時まとめ上げておくこと。</p> <p>欠席の時は必ず報告をすること。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書					
教科書1					
出版社名			著者名		
教科書2					
出版社名			著者名		
教科書3					
出版社名			著者名		
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名			著者名		
参考書名2					
出版社名			著者名		
参考書名3					
出版社名			著者名		
参考書名4					
出版社名			著者名		
参考書名5					

出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1.これまでの研究とこれからの研究テーマ		
2	2.作品のプリント制作		
3	3.作品の book 制作とインデザイン		
4	4.作品の book 制作とインデザイン		
5	5.プリント制作とポートフォリオ制作		
6	6.ギャラリークルージング		
7	7.ギャラリークルージングのレポートを提出し、余った時間で作品制作		
8	8.展覧会に向けての構想		
9	9.展覧会場の視察		
10	10.展覧会作品の制作とポートフォリオの制作		
11	11.展覧会作品の制作とポートフォリオの制作		
12	12.展示会場設営		
13	13.二年次に向けての制作準備		
14	14.二年次に向けての制作準備		
15	15.二年次に向けての制作準備		

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	吉川 直哉				
クラス名					
授業目的と到達目標					
文献や先行作家の作品を深く研究し、写真表現の研究と制作発表で社会に問うことを目標とする。個展として研究成果を発表できることが望ましい。					
授業概要					
対面授業（新型コロナウイルス等感染症予防対策として遠隔授業になる場合もある。）講義と作品制作について、そのディスカッションを中心とするが、フィールドワークや様々なプロジェクトなど社会参加も積極的にすすめる。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
予習:表現者として、研究のために必要な文献を熟読。復讐:文献とフィールドワークから問題点や疑問点を発見し、解決へと導く。新型コロナウイルス等感染症予防対策として遠隔授業になる場合もある。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品制作			60		
研究姿勢			40		
教科書					
教科書1	授業内でその都度紹介する。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	授業内でその都度紹介する。				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
<p>大学で写真を専攻(本学写真学科)、大学院で写真教育の日米比較を調査研究し(芸術文化研究科前期修了)。また文化庁派遣芸術家在外研修(アメリカ、サウスハンプトン大学美術メディア学部客員研究員)、チビテララニエリセンター選考アーティスト・イン・レジデンス。秋吉台国際芸術村アーティスト・イン・レジデンス 2015。大理国際写真祭、平遥国際写真祭、テラピリンス国際芸術祭、ケープタウン写真フェスティバルなど国内外の写真祭、芸術祭に招待され作品発表、、またテグ写真ビエンナーレ 2016 で日本人初の芸術監督。2020 年ヘルシンキ写真祭国際審査員。国内外で展覧会、ワークショップ、シンポジウムなどに参加、調査研究した経験とともに、最新の情報を提供します。</p>	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業概要と研究テーマの確認
2	各自の研究テーマについて、その方法と手段を模索。
3	各自の研究テーマにおける問題点を探る
4	制作計画、研究計画の発表
5	制作計画と研究テーマについて先行作家を探る
6	制作計画と研究テーマについてその参考文献を探る
7	制作計画と研究テーマについてその参考文献から学ぶ
8	制作の経過、研究テーマについて、その中間発表。
9	各自の制作テーマ、研究テーマに沿ったフィールドワークの提案
10	各自の制作テーマ、研究テーマについての課題とその修正
11	作品制作と研究テーマの経過報告
12	ライフライン(振り返り)
13	作品制作の成果とその言語化
14	作品発表とその批評
15	研究テーマの完成と課題について

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	高橋 善丸				
クラス名					
授業目的と到達目標					
グラフィックデザインは合目的性のあるアートと言える。それは、目的に対する論理的構築と表現感性の両輪から成り立っているからであり、どちらも不可欠な要素である。加えて、メディア環境の中で成立している以上、メディアが進化することで、その在り方も大きく変化していく。これら時代とリンクし時代を見据えた設計が、豊かな文化をも形成していくという意識を持ってもらいたい。					
授業概要					
対面授業。ビジネス環境ではなく、研究テーマとしての目的は自身の中にあるが、結果としての表現には、発信意図に対してと情報の享受者の理解との合致が必要であるということ、忘れてはいけない。社会をシュミレーションして表現することを超えた、オリジナルな提案がどれだけ出来るかで、研究という名に相応しくなる。客観性を持った意義あるテーマの開発は、社会と自身の思考と授業の相互交換の中で醸成されていくべきである。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
研究の成就是、お互いのレスポンスにて、クオリティが磨かれる。一方が粗であれば、着実な進展が望めないのはもちろんである。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
取り組む意識			40		
提案の幅と作品			60		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	こちいい文字				
出版社名	パイインターナショナル	著者名	高橋善丸		
参考書名2	こちいい本				
出版社名	パイ インターナショナル	著者名	高橋善丸		
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			

参考 URL	
特記事項	
実務経験: グラフィックデザイナー・アートディレクターとして事務所経営をし、加えて展覧会、コンペ、講演、審査員、著作書籍など様々な経験を生かし包括的指導する。	
教員実務経験	
kokokumar.com	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	<p>前期、研究テーマを設定し、リサーチと考察を繰り返す。 (グラフィックデザインは、メディアを超えてプログラムへと領域を拡大している。即ち、高いクオリティ表現を追求することは勿論として、それに計画して設計することの重要性に重心が移行していると言える。前期はこれらの視点を養うことに重点を置く。)</p> <p>後期、研究テーマの論理的確立をし、シミュレーションで検証。 (自分の視点からの論理立ても、繰り返し実験を積み重ねて検証しなければ、客観性が得られない。ここでは、揺るぎない構築を目指す。)</p> <p>学内ギャラリーにおいて、中間成果としての発表を行う。</p>

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	澄川 伸一				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>プロダクトデザインは今、テクノロジーの進化とともに大きく変化しています。IOT サービス、シェアリング、ロボティクス、AI デザインと、従来のデザインプロセス自体を変えないと、プロダクトが成立しません。この演習では、新たなデザインプロセスを体系的に学び、かつ普遍的な UX デザインなども復習します。現代社会に必要なとされる総合力の体得を到達目標とします。</p>					
授業概要					
<p>[対面 502 教室] 卒業研究テーマを思考し、その検証も兼ねて複数の先行研究調査、企画構想、仮説検証のためのプロトタイプ制作などを実践していきます。研究を深め、多くのトライ&エラーを通して研究テーマを研澄まし、魅力ある成果物になるための授業を進めていきます。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験

プロダクトデザイナー・大阪芸術大学 教授 フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』
 {WIKI,<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%BE%84%E5%B7%9D%E4%BC%B8%E4%B8%80>}
 {PORTFOLIO,<https://sumikawadesign.amebaownd.com/>}
 {コラム「澄川伸一デザイン道場」,<http://www.pdweb.jp/column/index.shtml>}
 ▼プロフィール
 千葉大学工学部卒業後、ソニー本社デザインセンター、アメリカデザインセンターで、ウォークマン、ラジオ、TV
 などをデザイン。
 1991 年澄川伸一デザイン事務所設立、代表兼デザイナー現在に至る。
 2016 リオ・オリンピック,2020 東京オリンピック公式卓球台をデザインし世界中の話題となる
 2017 年子供向け大型遊具「マウンテン」がドイツ IF デザイン賞受賞。その他、REDDOT,グッドデザイン賞など
 受賞歴多数あり。
 バックパッカーとして世界 57 ヶ国の滞在経験を活かし、固定概念にとらわれないデザインを実践。
 工学部系デザイナーとして三次元 CAD、プリンターをフル活用した幾何学スキルで心地よい曲面設計を得意と
 する。現在も、最先端の機器から伝統工芸まで幅広いジャンルをデザイン。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	<p>授業では、研究テーマに対する調査からスタートします。多くの先行研究や書籍を確認し、研究テーマにまつわる関連事項を広く明らかにしていきます。</p> <p>一定量の調査分析ができた段階で、仮説を立て、1次デザインを試作します。そのアウトプットに対して、客観的検証を複数のフィルターにかけて行い精度を高めていきます。検証結果が芳しくない場合は、研究テーマの方向性を大きく変えます。学生自身のしたい事と、研究として最適なテーマは異なる事が多く、これに学生自ら気付かせる授業内容としていきます。</p> <p>年間を通して3回から4回程度、学生自ら立てたテーマでデザインによるアウトプットをさせることで、年度終了時には精度の高い研究テーマと制作物が明らかになってきます。</p>

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	織作 峰子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
作品制作の成果を出すための行動の持続により、個展開催を目標とする					
授業概要					
ディスカッションをしながら様々な実体験をもとに、充実した研究を行う					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
遅刻しないこと感材その他の自己管理をすること					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	展覧会開催に向けて制作を行う

科目名	工芸研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	館 正明				
クラス名					
授業目的と到達目標					
現代染織造形の分野では様々な作品が生み出されている。その中で各自が当分野における立ち位置を見つけることを目的とし、建学の精神の国際的視野に立っての展開に基づき、伝統の形式に囚われることなく、各自の感性と素材や技法、プロセスに立脚した制作を確立し新しい芸術の伝統を展開することを目標とする。					
授業概要					
受講生とのミーティングをつねにおこない、報告・連絡・相談・意見交換を随時すすめる。現代染織の国際動向、時事問題も適時とりあげる。前・後期末に作品提出、合評をおこなう。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
教室で課題のみにとりくむのではなく、視野をひろめるために、展覧会観賞や見学、あるいは各種イベントなどに積極的にでかけよう。月一回、美術館・ギャラリー巡りのレポートを提出。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品提出			70		
月毎のレポート			30		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

館 正明 TATE masaaki Art Works,tatemasaaki.jimdofree.com 小野山和代 布にひそむ表情をひきだす,http://www.pulling21.com	
特記事項	
染織家として国内外の展覧会での自らの経験を交えながら現代染織造形の動向を講義し、テキスタイルコンペや個展開催等を目指すような染織作品を指導する。	
教員実務経験	
染色家の教員が制作、発表で得た知見を生かし現代染織の表現について指導する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
2	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
3	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
4	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
5	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
6	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
7	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
8	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
9	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
10	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
11	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
12	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
13	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
14	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
15	合評

科目名	工芸研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	長谷川 政弘				
クラス名					
授業目的と到達目標					
研究テーマを進めていく上において必要となる高度な金属工芸技法の習得と、更に表現力を高めるために新しい発想を持って技法の開発を目指す。					
授業概要					
作品制作をするにあたって必要となってくるコンセプトを教員と話し合いながらしっかり固める。 制作計画を立て教員と意見を交わしながら制作を進める。 完成作品を展覧会形式で展示し作品を前にして指導教員以外の人たちとディスカッションの場を持つ。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
視野を広げるために美術館、博物館、ギャラリーなどに赴き、金属作品だけではなく様々な素材の工芸作品や美術作品を鑑賞し見聞を広める。感動を受けた作品に出会えたら、それがどのようによかったのかを論理的に説明できるように習慣付けること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
完成作品			80		
制作への取り組み方			20		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

長谷川政弘金属彫刻 https://masaab.sakura.ne.jp	
特記事項	
教員実務経験	
長谷川政弘: 金属工芸家、金属彫刻家である教員が豊富な経験を活かしてより深みのある表現ができるよう指導する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	研究テーマに沿った前期作品のコンセプトや制作技法、制作計画などを話し合う。
2	前回の話し合いを踏まえた研究計画書と制作計画書を提出し再度話し合う。
3	研究テーマに沿った素材の確認と研究、技術的な研究。
4	研究テーマに沿った素材の確認と研究、技術的な研究。
5	作品実制作
6	作品実制作
7	作品実制作
8	作品実制作
9	作品実制作
10	現段階での制作状況の中間チェック
11	作品実制作
12	作品実制作
13	作品実制作
14	作品実制作
15	合評

科目名	工芸研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	田嶋 悦子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
陶における、やきものの本質とは何か？陶芸素材のもつ特質や技法の研究を深め、各自の個性豊かな作品表現を目指す。創作者としての意識を高めることを目標とする。					
授業概要					
陶芸における造形は、伝統を基盤とした作品や新たな表現の可能性を追求するなど多様であり、現在は陶芸分野を超える広がりを見せている。教員と受講生の意見交換を主軸に研究および制作を行う。展示会場で作品展示。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
美術館および画廊で開催される展示会の作品鑑賞。専門分野以外の表現活動へも興味を持ち視野を広げる。コミュニケーションを積極的に行う。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品			80		
提出物			10		
授業に取り組む姿勢			10		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
田嶋悦子: 陶芸家。現代陶芸作家としての活動や経験を活かした指導を行う。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイダンス
2	研究目標および計画についての面接指導
3	プレゼンテーション
4	プレゼンテーション、アイデアスケッチおよびマケット制作
5	プレゼンテーション、アイデアスケッチおよびマケット制作
6	素材研究
7	素材研究
8	作品制作
9	作品制作
10	作品制作
11	作品制作
12	作品制作
13	作品に応じた焼成方法の検討
14	作品に応じた焼成方法の検討
15	講評

科目名	工芸研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	館 正明				
クラス名					
授業目的と到達目標					
現代染織造形の分野では様々な作品が生み出されている。その中で各自が当分野における立ち位置を見つけることを目的とし、建学の精神の国際的視野に立っての展開に基づき、伝統の形式に囚われることなく、各自の感性と素材や技法、プロセスに立脚した制作を確立し新しい芸術の伝統を展開することを目標とする。					
授業概要					
受講生とのミーティングをつねにおこない、報告・連絡・相談・意見交換を随時すすめる。 現代染織の国際動向、時事問題も適時とりあげる。 前・後期末に作品提出、合評をおこなう。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
教室で課題のみにとりくむのではなく、視野をひろめるために、展覧会観賞や見学、あるいは各種イベントなどに積極的にでかけよう。 月一回、美術館・ギャラリー巡りのレポートを提出。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品提出			70		
月毎のレポート			30		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

館 正明 TATE masaaki Art Works,tatemasaaki.jimdofree.com 小野山和代 布にひそむ表情をひきだす,http://www.pulling21.com	
特記事項	
染織家として国内外の展覧会での自らの経験を交えながら現代染織造形の動向を講義し、テキスタイルコンペや個展開催等を目指すような染織作品を指導する。	
教員実務経験	
染色家の教員が制作、発表で得た知見を生かし現代染織の表現について指導する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
2	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
3	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
4	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
5	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
6	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
7	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
8	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
9	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
10	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
11	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
12	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
13	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。

	必要に応じて随時スライドをおこなう。
14	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野に たった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
15	合評

科目名	工芸研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	長谷川 政弘				
クラス名					
授業目的と到達目標					
研究テーマを進めていく上において必要となる高度な金属工芸技法の習得と、更に表現力を高めるために新しい発想を持って技法の開発を目指す。					
授業概要					
作品制作をするにあたって必要となってくるコンセプトを教員と話し合いながらしっかり固める。 制作計画を立て教員と意見を交わしながら制作を進める。 完成作品を展覧会形式で展示し作品を前にして指導教員以外の人たちとディスカッションの場を持つ。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
視野を広げるために美術館、博物館、ギャラリーなどに赴き、金属作品だけではなく様々な素材の工芸作品や美術作品を鑑賞し見聞を広める。感動を受けた作品に出会えたら、それがどのようによかったのかを論理的に説明できるように習慣付けること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
完成作品			80		
制作への取り組み方			20		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

長谷川政弘金属彫刻 https://masaab.sakura.ne.jp	
特記事項	
教員実務経験	
長谷川政弘: 金属工芸家、金属彫刻家である教員が豊富な経験を活かしてより深みのある表現ができるよう指導する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	研究テーマに沿った前期作品のコンセプトや制作技法、制作計画などを話し合う。
2	前回の話し合いを踏まえた研究計画書と制作計画書を提出し再度話し合う。
3	研究テーマに沿った素材の確認と研究、技術的な研究。
4	研究テーマに沿った素材の確認と研究、技術的な研究。
5	作品実制作
6	作品実制作
7	作品実制作
8	作品実制作
9	作品実制作
10	現段階での制作状況の中間チェック
11	作品実制作
12	作品実制作
13	作品実制作
14	作品実制作
15	合評

科目名	工芸研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	田嶋 悦子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
今までの研究をさらに推し進めながら制作を行い、創作者としての意識を高める。学位取得に相応しい作品を目指す。					
授業概要					
教員と受講生の意見交換を主軸に研究および制作を行う。展示会場に作品展示。記述文章の検証。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
美術館および画廊で開催される展示会の作品鑑賞。専門分野以外の表現活動へも興味を持ち視野を広げる。コミュニケーションを積極的に行う。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品			80		
提出物			10		
授業に取り組む姿勢			10		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験	
--------	--

田嶋悦子：陶芸家。現代陶芸作家としての活動や経験を活かした指導を行う。	
-------------------------------------	--

授業計画(各回予定)	
------------	--

授業回	授業内容
1	研究の経過報告
2	研究目標および計画についての面接指導
3	展示計画の検討
4	素材研究および作品制作
5	素材研究および作品制作
6	素材研究および作品制作
7	素材研究および作品制作
8	作品焼成
9	作品焼成
10	作品完成への最終工程
11	作品完成への最終工程
12	作品の展示計画および備品制作
13	作品の展示計画および備品制作
14	自作についてのレクチャー、制作要旨の面接指導
15	講評、制作要旨の面接指導

科目名	工芸研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	長谷川 政弘				
クラス名					
授業目的と到達目標					
研究テーマを進めていく上において必要となる高度な金属工芸技法の習得と、更に表現力を高めるために新しい発想を持って技法の開発を目指す。					
授業概要					
作品制作をするにあたって必要となってくるコンセプトを教員と話し合いながらしっかり固める。 制作計画を立て教員と意見を交わしながら制作を進める。 完成作品を展覧会形式で展示し作品を前にして指導教員以外の人たちとディスカッションの場を持つ。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
視野を広げるために美術館、博物館、ギャラリーなどに赴き、金属作品だけではなく様々な素材の工芸作品や美術作品を鑑賞し見聞を広める。感動を受けた作品に出会えたら、それがどのようによかったのかを論理的に説明できるように習慣付けること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
完成作品			80		
制作への取り組み方			20		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

長谷川政弘金属彫刻 https://masaab.sakura.ne.jp	
特記事項	
教員実務経験	
長谷川政弘: 金属工芸家、金属彫刻家である教員が豊富な経験を活かしてより深みのある表現ができるよう指導する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	研究テーマに沿った前期作品のコンセプトや制作技法、制作計画などを話し合う。
2	前回の話し合いを踏まえた研究計画書と制作計画書を提出し再度話し合う。
3	研究テーマに沿った素材の確認と研究、技術的な研究。
4	研究テーマに沿った素材の確認と研究、技術的な研究。
5	作品実制作
6	作品実制作
7	作品実制作
8	作品実制作
9	作品実制作
10	現段階での制作状況の中間チェック
11	作品実制作
12	作品実制作
13	作品実制作
14	作品実制作
15	合評

科目名	工芸研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	田嶋 悦子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
陶における、やきものの本質とは何か？陶芸素材のもつ特質や技法の研究を深め、各自の個性豊かな作品表現を目指す。創作者としての意識を高めることを目標とする。					
授業概要					
陶芸における造形は、伝統を基盤とした作品や新たな表現の可能性を追求するなど多様であり、現在は陶芸分野を超える広がりを見せている。 教員と受講生の意見交換を主軸に研究および制作を行う。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
美術館および画廊で開催される展覧会の作品鑑賞。専門分野以外の表現活動へも興味を持ち視野を広げる。コミュニケーションを積極的に行う。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品			80		
提出物			10		
授業に取り組む態度			10		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
田嶋悦子: 陶芸家。現代陶芸作家としての活動や経験を活かした指導を行う。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイダンス
2	研究目標および計画についての面接指導
3	プレゼンテーション
4	プレゼンテーション、アイデアスケッチおよびマケット制作
5	プレゼンテーション、アイデアスケッチおよびマケット制作
6	素材研究
7	素材研究
8	作品制作
9	作品制作
10	作品制作
11	作品制作
12	作品制作
13	作品に応じた焼成方法の検討
14	作品に応じた焼成方法の検討
15	講評

科目名	工芸研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	長谷川 政弘				
クラス名					
授業目的と到達目標					
研究テーマを進めていく上において必要となる高度な金属工芸技法の習得と、更に表現力を高めるために新しい発想を持って技法の開発を目指す。					
授業概要					
作品制作をするにあたって必要となってくるコンセプトを教員と話し合いながらしっかり固める。 制作計画を立て教員と意見を交わしながら制作を進める。 完成作品を展覧会形式で展示し作品を前にして指導教員以外の人たちとディスカッションの場を持つ。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
視野を広げるために美術館、博物館、ギャラリーなどに赴き、金属作品だけではなく様々な素材の工芸作品や美術作品を鑑賞し見聞を広める。感動を受けた作品に出会えたら、それがどのようによかったのかを論理的に説明できるように習慣付けること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
完成作品			80		
制作への取り組み方			20		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

長谷川政弘金属彫刻 https://masaab.sakura.ne.jp	
特記事項	
教員実務経験	
長谷川政弘: 金属工芸家、金属彫刻家である教員が豊富な経験を活かしてより深みのある表現ができるよう指導する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	研究テーマに沿った前期作品のコンセプトや制作技法、制作計画などを話し合う。
2	前回の話し合いを踏まえた研究計画書と制作計画書を提出し再度話し合う。
3	研究テーマに沿った素材の確認と研究、技術的な研究。
4	研究テーマに沿った素材の確認と研究、技術的な研究。
5	作品実制作
6	作品実制作
7	作品実制作
8	作品実制作
9	作品実制作
10	現段階での制作状況の中間チェック
11	作品実制作
12	作品実制作
13	作品実制作
14	作品実制作
15	合評

科目名	工芸研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	田嶋 悦子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
今までの研究をさらに推し進めながら制作を行い、創作者としての意識を高める。学位取得に相応しい作品を目指す。					
授業概要					
教員と受講生の意見交換を主軸に研究および制作を行う。展示会場に作品展示。記述文章の検証。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
美術館および画廊で開催される展示会の作品鑑賞。専門分野以外の表現活動へも興味を持ち視野を広げる。コミュニケーションを積極的に行う。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品			80		
提出物			10		
授業に取り組む姿勢			10		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験	
--------	--

田嶋悦子：陶芸家。現代陶芸作家としての活動や経験を活かした指導を行う。	
-------------------------------------	--

授業計画(各回予定)	
------------	--

授業回	授業内容
1	研究の経過報告
2	研究目標および計画についての面接指導
3	展示計画の検討
4	素材研究および作品制作
5	素材研究および作品制作
6	素材研究および作品制作
7	素材研究および作品制作
8	作品焼成
9	作品焼成
10	作品完成への最終工程
11	作品完成への最終工程
12	作品の展示計画および備品制作
13	作品の展示計画および備品制作
14	自作についてのレクチャー、制作要旨の面接指導
15	講評、制作要旨の面接指導

科目名	文学創作研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度 前期	形態	演習		
教員名	八薙 玉造				
クラス名	文学創作研究演習				
授業目的と到達目標					
修士作品を仕上げる。また、学生個別の目標に到達すること、ディプロマポリシーにある創造性と独創性をもった創作を行うことも目標とする。					
授業概要					
学生作品の添削と討議。二年目は修士作品の制作を行う。また、学部のゼミの作品討議への参加、藤野恵美先生の文学創作研究との合同授業、有吉玉青先生の特別講義への参加により、作品を書く力、読む力、批評する力を鍛える。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
授業内容が一定ではないため、教室変更など、UNIPA の連絡を特に気をつけて確認すること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業態度、制作物の評価。					
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験

ライトノベル作家・脚本家である教員が、実務経験から学生作品がよりよくなるように指導する。また、授業中に上がった問題点や、指導の補完として講義を行う。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	ガイダンス。授業計画。
2	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
3	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
4	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
5	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
6	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
7	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
8	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
9	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
10	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
11	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
12	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
13	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
14	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
15	前期授業のまとめ。後期の授業計画の相談など。

科目名	文学創作研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	藤野 恵美				
クラス名					
授業目的と到達目標					
修士作品を仕上げる。また、学生個別の目標に到達すること、ディプロマポリシーにある創造性と独創性を備えた作品を作り上げることも目指します。					
授業概要					
学生作品の添削と討議を行い、書く力を高めます。また、学部のゼミの作品討議に参加したり、八薙玉造先生の文学創作研究演習との合同授業を行ったりして、作品を読む力、批評する力を鍛えます。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
授業内容が一定ではないため、教室変更など UNIPA の連絡を確認してください。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
受講態度			50		
制作物			50		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験

多数の著作を持つ小説家の教員が、プロとして作品を発表してきた経験を活かして、高度で実務的な執筆の技能を習得させる。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	ガイダンス。授業計画。
2	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
3	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
4	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
5	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
6	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
7	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
8	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
9	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
10	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
11	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
12	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
13	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
14	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
15	前期授業まとめ。後期の計画。

科目名	文学創作研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	八薙 玉造				
クラス名	文学創作研究演習				
授業目的と到達目標					
修士作品を仕上げる。また、学生個別の目標に到達すること、ディプロマポリシーにある創造性と独創性をもった創作を行うことも目標とする。					
授業概要					
学生作品の添削と討議。二年目は修士作品の制作を行う。また、学部のゼミの作品討議への参加、藤野恵美先生の文学創作研究との合同授業、有吉玉青先生の特別講義への参加により、作品を書く力、読む力、批評する力を鍛える。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
授業内容が一定ではないため、教室変更など、UNIPA の連絡を特に気をつけて確認すること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業態度、制作物の評価。					
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験

ライトノベル作家・脚本家である教員が、実務経験から学生作品がよりよくなるように指導する。また、授業中に上がった問題点や、指導の補完として講義を行う。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
2	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
3	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
4	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
5	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
6	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
7	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
8	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
9	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
10	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
11	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
12	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
13	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
14	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
15	授業まとめ。

科目名	文学創作研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	藤野 恵美				
クラス名					
授業目的と到達目標					
修士作品を仕上げる。また、学生個別の目標に到達すること、ディプロマポリシーにある創造性と独創性を備えた作品を作り上げることも目指します。					
授業概要					
学生作品の添削と討議を行い、書く力を高めます。また、学部のゼミの作品討議に参加したり、八薙玉造先生の文学創作研究演習との合同授業を行ったりして、作品を読む力、批評する力を鍛えます。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
授業内容が一定ではないため、教室変更など UNIPA の連絡を確認してください。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
受講態度			50		
制作物			50		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験

<p>多数の著作を持つ小説家の教員が、プロとして作品を発表してきた経験を活かして、高度で実務的な執筆の技能を習得させる。</p>
--

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	ガイダンス。授業計画。
2	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
3	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
4	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
5	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
6	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
7	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
8	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
9	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
10	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
11	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
12	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
13	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
14	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
15	授業まとめ。振り返り。

科目名	文学創作研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 前期	形態	演習		
教員名	八薙 玉造				
クラス名	文学創作研究演習				
授業目的と到達目標					
修士作品を仕上げる。また、学生個別の目標に到達すること、ディプロマポリシーにある創造性と独創性をもった創作を行うことも目標とする。					
授業概要					
学生作品の添削と討議。二年目は修士作品の制作を行う。また、学部のゼミの作品討議への参加、藤野恵美先生の文学創作研究との合同授業、有吉玉青先生の特別講義への参加により、作品を書く力、読む力、批評する力を鍛える。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
授業内容が一定ではないため、教室変更など、UNIPA の連絡を特に気をつけて確認すること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業態度、制作物の評価。					
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験

ライトノベル作家・脚本家である教員が、実務経験から学生作品がよりよくなるように指導する。また、授業中に上がった問題点や、指導の補完として講義を行う。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	ガイダンス。授業計画。
2	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
3	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
4	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
5	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
6	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
7	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
8	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
9	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
10	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
11	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
12	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
13	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
14	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
15	前期授業のまとめ。後期の授業計画の相談など。

科目名	文学創作研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 前期	形態	演習		
教員名	藤野 恵美				
クラス名					
授業目的と到達目標					
修士作品を仕上げる。また、学生個別の目標に到達すること、ディプロマポリシーにある創造性と独創性を備えた作品を作り上げることも目指します。					
授業概要					
学生作品の添削と討議を行い、書く力を高めます。また、学部のゼミの作品討議に参加したり、八薙玉造先生の文学創作研究演習との合同授業を行ったりして、作品を読む力、批評する力を鍛えます。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
授業内容が一定ではないため、教室変更など UNIPA の連絡を確認してください。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
受講態度			50		
制作物			50		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験

多数の著作を持つ小説家の教員が、プロとして作品を発表してきた経験を活かして、高度で実務的な執筆の技能を習得させる。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	ガイダンス。授業計画。
2	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
3	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
4	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
5	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
6	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
7	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
8	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
9	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
10	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
11	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
12	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
13	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
14	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
15	授業まとめ。振り返り。

科目名	文学創作研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	八薙 玉造				
クラス名	文学創作研究演習				
授業目的と到達目標					
修士作品を仕上げる。また、学生個別の目標に到達すること、ディプロマポリシーにある創造性と独創性をもった創作を行うことも目標とする。					
授業概要					
学生作品の添削と討議。二年目は修士作品の制作を行う。また、学部のゼミの作品討議への参加、藤野恵美先生の文学創作研究との合同授業、有吉玉青先生の特別講義への参加により、作品を書く力、読む力、批評する力を鍛える。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
授業内容が一定ではないため、教室変更など、UNIPA の連絡を特に気をつけて確認すること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業態度、制作物の評価。					
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験

ライトノベル作家・脚本家である教員が、実務経験から学生作品がよりよくなるように指導する。また、授業中に上がった問題点や、指導の補完として講義を行う。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
2	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
3	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
4	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
5	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
6	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
7	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
8	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
9	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
10	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
11	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
12	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
13	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
14	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
15	授業まとめ。

科目名	文学創作研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	藤野 恵美				
クラス名					
授業目的と到達目標					
修士作品を仕上げる。また、学生個別の目標に到達すること、ディプロマポリシーにある創造性と独創性を備えた作品を作り上げることも目指します。					
授業概要					
学生作品の添削と討議を行い、書く力を高めます。また、学部のゼミの作品討議に参加したり、八薙玉造先生の文学創作研究演習との合同授業を行ったりして、作品を読む力、批評する力を鍛えます。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
授業内容が一定ではないため、教室変更など UNIPA の連絡を確認してください。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
受講態度			50		
制作物			50		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験

<p>多数の著作を持つ小説家の教員が、プロとして作品を発表してきた経験を活かして、高度で実務的な執筆の技能を習得させる。</p>
--

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	ガイダンス。授業計画。
2	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
3	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
4	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
5	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
6	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
7	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
8	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
9	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
10	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
11	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
12	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
13	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
14	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
15	授業まとめ。振り返り。

科目名	器楽研究演習 I	年次	2	単位数	4
授業期間	2026 年度 前期	形態	レッスン(個別採点)		
教員名	仲道 祐子、今川 裕代				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>それぞれの時代や様式を踏まえた演奏方法を研究することを目的とする。 楽譜を読み、どのようなテンポで演奏するのが相応しいのか、強弱の付け方、アーティキュレーション、ペダルの踏み方などを考察すると同時に表現の可能性の幅も探る。 また、自身のイメージする音楽を実際に音で奏でるために必要なテクニックを磨く。 納得のいく音楽表現を目標とする。 レッスンで取り組む曲の譜読みと練習、自身の音楽表現を磨くことを予習・復習としてください</p>					
授業概要					
<p>90 分のレッスン。 個人の進度に合わせて取り組む曲を決定する。 さまざまな時代の曲を取り上げるか、一つの方向性を専門的に追求するかを相談の上、レッスンに取り組んでいきたい。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>レッスンで取り上げる曲の日々の練習を予習、復習としてください。 曲をどのように解釈するのか、その為にはどのような表現が適しているのか。 理想の表現に到達する為にはどのような練習が必要なのか、どのような技術的改善が必要なのかを常に模索しながら練習に取り組んでください。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
音楽へ取り組む姿勢			50		
レッスンにおいて、音楽的主張はできているか。			50		
教科書					
教科書 1	それぞれの音楽の進度を考慮して個別に決定する。				
出版社名		著者名			
教科書 2					
出版社名		著者名			
教科書 3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名 1					
出版社名		著者名			
参考書名 2					
出版社名		著者名			
参考書名 3					
出版社名		著者名			
参考書名 4					

出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
コンサートピアニストとしての活動、リサイタル、コンチェルト、室内楽での演奏経験を活かしての実技指導をする。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	院生一人一人と相談の上、短いスパンの目標としては年度内にある本番の準備の徹底を志す。長いスパンの計画としては、長所を磨き、苦手なところはどこに原因があるのかを見極め、改善を試みていく。		

科目名	器楽研究演習 I	年次	2	単位数	4
授業期間	2026 年度 後期	形態	レッスン(個別採点)		
教員名	仲道 祐子、今川 裕代				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>それぞれの時代や様式を踏まえた演奏方法を研究することを目的とする。 楽譜を読み、どのようなテンポで演奏するのが相応しいのか、強弱の付け方、アーティキュレーション、ペダルの踏み方などを考察すると同時に表現の可能性の幅も探る。 また、自身のイメージする音楽を実際に音で奏でるために必要なテクニックを磨く。 納得のいく音楽表現を目標とする。 レッスンで取り組む曲の譜読みと練習、自身の音楽表現を磨くことを予習・復習としてください。</p>					
授業概要					
<p>90 分のレッスン。 個人の進度に合わせて取り組む曲を決定する。 さまざまな時代の曲を取り上げるか、一つの方向性を専門的に追求するかを相談の上、レッスンに取り組んでいきたい。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>レッスンで取り上げる曲の日々の練習を予習、復習としてください。 曲をどのように解釈するのか、その為にはどのような表現が適しているのか。 理想の表現に到達する為にはどのような練習が必要なのか、どのような技術的改善が必要なのかを常に模索しながら練習に取り組んでください。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
音楽へ取り組む姿勢			50		
レッスンにおいて、音楽的主張はできているか			50		
教科書					
教科書 1	それぞれの音楽の進度を考慮して個別に決定する。				
出版社名		著者名			
教科書 2					
出版社名		著者名			
教科書 3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名 1					
出版社名		著者名			
参考書名 2					
出版社名		著者名			
参考書名 3					
出版社名		著者名			
参考書名 4					

出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
コンサートピアニストとしての活動、リサイタル、コンチェルト、室内楽での演奏経験を活かしての実技指導をする。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	院生一人一人と相談の上、短いスパンの目標としては年度内にある本番の準備の徹底を志す。長いスパンの計画としては、長所を磨き、苦手なところはどこに原因があるのかを見極め、改善を試みていく。		

科目名	作曲研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度 前期	形態	演習		
教員名	檜垣 智也				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>授業の目的は、受講者が取得を目指す学位のレベルに合わせた作品の提出に向けた準備をすることです。高い完成度のオリジナル音楽作品の制作と、質の高い論文の執筆、コンサートや学会での発表ができるようになることを到達目標とします。</p>					
授業概要					
<p>作品制作と論文、及びそれらの発表のために必要なプロセスのすべてを学びます。授業内容はそれらの指導がメインです。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>・授業外で作品の制作と論文の執筆をしてください。授業ではその指導をします。 ・学内外のコンサート、学会、コンクールに積極的に参加してください。 適切なものを紹介していきます。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
最終成果物			50		
授業に取り組む姿勢			50		
教科書					
教科書1	特になし(授業中に指示します)				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	特になし(授業中に指示します)				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

{檜垣智也ホームページ, http://www.musicircus.net/ }	
特記事項	
教員実務経験	
電子音響音楽作曲の専門家／研究者が、高いレベルの作品と論文、発表ができるように個別指導します。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	本授業は、基本的に「対面授業」で行うこととする。 1. ガイダンスと制作または研究題材に関する相談
2	2. 制作、論文、発表の指導
3	3. 制作、論文、発表の指導
4	4. 制作、論文、発表の指導
5	5. 制作、論文、発表の指導
6	6. 制作、論文、発表の指導
7	7. 制作、論文、発表の指導
8	8. 制作、論文、発表の指導
9	9. 制作、論文、発表の指導
10	10. 制作、論文、発表の指導
11	11. 制作、論文、発表の指導
12	12. 制作、論文、発表の指導
13	13. 制作、論文、発表の指導
14	14. 制作、論文、発表の指導
15	15. 制作、論文、発表の指導

科目名	作曲研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	檜垣 智也				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>授業の目的は、受講者の目指す学位レベルの作品・論文の提出に向けて準備をすることです。高い完成度のオリジナル音楽作品の制作と、質の高い論文の執筆、コンサートや学会での発表ができるようになることを到達目標とします。</p>					
授業概要					
<p>作品制作と論文、及びそれらの発表のために必要なプロセスのすべてを学びます。授業内容はそれらの指導がメインです。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>・授業外で作品の制作と論文の執筆をしてください。授業ではその指導をします。 ・学内外のコンサート、学会、コンクールに積極的に参加してください。 適切なものを紹介していきます。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
最終成果物			50		
授業に取り組む姿勢			50		
教科書					
教科書1	特になし(授業中に指示します)				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	特になし(授業中に指示します)				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

{檜垣智也ホームページ, http://www.musicircus.net/ }	
特記事項	
教員実務経験	
電子音響音楽作曲の専門家／研究者が、高いレベルの作品と論文、発表ができるように個別指導します。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	本授業は、基本的に「対面授業」で行うこととする。 1. ガイダンスと制作または研究題材に関する相談
2	2. 制作、論文、発表の指導
3	3. 制作、論文、発表の指導
4	4. 制作、論文、発表の指導
5	5. 制作、論文、発表の指導
6	6. 制作、論文、発表の指導
7	7. 制作、論文、発表の指導
8	8. 制作、論文、発表の指導
9	9. 制作、論文、発表の指導
10	10. 制作、論文、発表の指導
11	11. 制作、論文、発表の指導
12	12. 制作、論文、発表の指導
13	13. 制作、論文、発表の指導
14	14. 制作、論文、発表の指導
15	15. 制作、論文、発表の指導

科目名	芸術学作品研究1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	加賀城 健				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>学生がこれまでに取り組んできた作品や技法、展示方法など、研究内容を客観的に分析する。また、銘々の専門分野と他分野における歴史的背景や作品の先行事例を調査することによって創作する意義を考える。作品を展開する能力を身につける為に、考えたアイデアに実際に取り組み、その成果を検証する。ワークショップや茶会を模索することで、プレゼンテーション能力を高める。</p>					
授業概要					
<p>毎回授業内容の説明を行い、授業時間内に調査や発表、制作を行う。研究の内容に伴い調整の上、各学生の制作場所や学内展示スペース、学外に移動する場合がある。基本対面で授業を行い、グループワークを含むディスカッションの時間を多くとる。変更が生じた場合、速やかに掲示登録する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>パワーポイント等のプレゼンテーションツールの使用が望ましい。可能であれば入手・習熟しておくこと。シラバスの進度は受講生の取り組みにより調整する。欠席の場合は欠席理由を知らせること。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
出席・積極性			70		
授業内発表・レポート・制作物			30		
教科書					
教科書1	必要に応じて資料を配布する				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					

出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
学内外での見学や聴講を実施する場合がある。			
教員実務経験			
染色家の教員が、多数の作品を制作発表してきた経験と、美術・工芸分野での制作指導の経験を活かして、作品制作研究の能力を向上させる授業を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業内容を説明する		
2	教員自己紹介		
3	自己紹介(ルーツについて)		
4	自己紹介(ルーツについて)のつづき		
5	作品の分析Ⅰ(技術・技法に関する考察)		
6	作品の分析Ⅰ(技術・技法に関する考察)のつづき		
7	技術・技法の試み-ワークショップ		
8	技術・技法の試み-ワークショップのつづき		
9	作品の分析Ⅱ(歴史に関する考察)		
10	作品の分析Ⅱ(歴史に関する考察)のつづき		
11	歴史考察からの試み-ワークショップ 2		
12	歴史考察からの試み-ワークショップ 2 のつづき		
13	茶会づくり		
14	茶会づくりのつづき		
15	前期総括、レポートの課題説明		

科目名	芸術学作品研究2	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	加賀城 健				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>学生がこれまでに取り組んできた作品や技法、展示方法など、研究内容を客観的に分析する。また、銘々の専門分野と他分野における歴史的背景や作品の先行事例を調査することによって創作する意義を考える。作品を展開する能力を身につける為に、考えたアイデアに実際に取り組む、その成果を検証する。 ワークショップや茶会を模索することで、プレゼンテーション能力を高める。</p>					
授業概要					
<p>毎回授業内容の説明を行い、授業時間内に調査や発表、制作を行う。 研究の内容に伴い調整の上、各学生の制作場所や学内展示スペース、学外に移動する場合がある。 基本対面で授業を行い、グループワークを含めたディスカッションの時間を多くとる。 変更が生じた場合、速やかに掲示登録する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>パワーポイント等のプレゼンテーションツールの使用が望ましい。可能であれば入手・習熟しておくこと。 シラバスの進度は受講生の取り組みにより調整する。 欠席の場合は欠席理由を知らせること。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
出席・積極性			70		
授業内発表・レポート・制作物			30		
教科書					
教科書1	必要に応じて資料を配布する。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					

出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
学内外での見学や聴講を実施する場合がある。			
教員実務経験			
染色家の教員が、多数の作品を制作発表してきた経験と、美術・工芸分野での制作指導の経験を活かして、作品制作研究の能力を向上させる授業を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業内容を説明するレポートの発表と前期制作物の講評		
2	レポートの発表と前期制作物の講評		
3	展覧会研究Ⅱ(作品鑑賞から学ぶ)		
4	展覧会研究Ⅱ(作品鑑賞から学ぶ)のつづき		
5	作家研究Ⅰ(専門分野)		
6	作家研究からの試み-計画発表		
7	作家研究からの試み-ワークショップ 3		
8	作家研究からの試み-ワークショップ 3 のつづき		
9	作家研究Ⅱ(専門外の分野)		
10	作家研究Ⅱからの試み-計画発表		
11	作家研究Ⅱからの試み-ワークショップ 4		
12	作家研究Ⅱからの試み-ワークショップ 4 のつづき		
13	茶会づくり 2		
14	茶会づくり 2 のつづき		
15	後期総括		

科目名	文芸学作品研究1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	福井 慎二				
クラス名					
授業目的と到達目標					
ディプロマポリシーにある小説家・国語科教員としての専門知識を身につけるために昭和文学の古典と言える太宰治の作品を読むことで小説の書き方・表現を学んだり、国語の教材研究に役立てることを目的にする。太宰の作品理解を深めることを目標とする。					
授業概要					
受講者が太宰の初期の作品を読み、作品を理解する上で何を問題にしたらよいか考えたことを毎回発表し討論する。アニメ・映画も参照して言語表現と映像表現との違いなどを感じて、作品理解を深められるようにする。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
作品を読んで問題点を考え、授業で意見発表できるように準備することが必要。作品を読むのに30分～数時間かかり、問題点を考えるのに数時間必要となる。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
主体的な授業参加			20		
レポートまたは授業の発表担当			70		
授業態度			10		
教科書					
教科書1	授業中にプリントを配布する				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
太宰の作品は著作権切れのため「青空文庫」のホームページで無料で閲覧・ダウンロード可能です。国立国会図書館の蔵書検索通じても閲覧できます。手持ちの本も利用してください。	
教員実務経験	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	1ガイダンス・発表担当者決定 太宰の伝記 太宰の作品は私小説のため、伝記確認して作品理解に役立てる。
2	2私小説について(講義) 大正時代に私小説が生まれた文学史的状況と私小説をめぐる論争、現代の私小説作家の捉え方を確認する。
3	3「葉」(以下レポート発表と討議) 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
4	4「魚服記」 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
5	5「猿面冠者」 入れ子構造の小説形式を確認する。発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
6	6「思ひ出」ビデオ鑑賞 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
7	7「道化の華」映画「ピカレスク 人間失格」参照 太宰のメタフィクションの独自性を確認する。発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
8	8「狂言の神」 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
9	9「虚構の春」 太宰の書簡体小説の独自性を確認する。発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
10	10「ダス・ゲマイネ」 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
11	11「二十世紀旗手」 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
12	12「HUMAN LOST」映画「ピカレスク 人間失格」参照 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
13	13「姥捨」 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
14	14「富嶽百景」その1 TVドラマ・映画「富嶽百景」鑑賞 言語表現と映像表現との違いなどを感じるべく、『富嶽百景』の映画の特徴を確認し参照し、次回の討論に役立てる。

15	15「富嶽百景」その2 レポート発表と討論 【授業中の発表を担当しなかった学生のレポート提出期限 提出先はUNIPA「課題提出」】
----	--

科目名	文芸学作品研究2	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	福井 慎二				
クラス名					
授業目的と到達目標					
ディプロマポリシーにある小説家・国語科教員としての専門知識を身につけるために昭和文学の古典と言える太宰治の作品を読むことで小説の書き方・表現を学んだり、国語の教材研究に役立てることを目的とする。太宰の作品理解を深めることを目標とする					
授業概要					
受講者が太宰の中期の作品を読み、作品を理解する上で何を問題にしたらよいか考えたことを毎回発表し討論する。アニメ・映画も参照して言語表現と映像表現との違いなどを感じて、作品理解を深められるようにする。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
作品を読んで問題点を考え、授業で意見発表できるように準備することが必要。作品を読むのに30分～数時間かかり、問題点を考えるのに数時間必要となる。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
主体的な授業参加			20		
レポートまたは授業の発表担当			70		
授業態度			10		
教科書					
教科書1	授業中にプリントを配布する				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
太宰の作品は著作権切れのため「青空文庫」のホームページで無料で閲覧・ダウンロード可能です。国立国会図書館の蔵書検索通じても閲覧できます。手持ちの本も利用してください。	
教員実務経験	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイダンス・発表担当者決定
2	『秋風記』 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し 討論する
3	『女生徒』 アニメ「女生徒」鑑賞 朗読CD 太宰の女性独白体の特徴を確認する。発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報 告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
4	『駆け込み訴へ』 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し 討論する
5	『カチカチ山』(『御伽草紙』①) 参考DVD「桃太郎 海の神兵」 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し 討論する
6	『浦島さん』(『御伽草紙』②) 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し 討論する
7	『女の決闘』 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し 討論する
8	『走れメロス』その1 アニメ「走れメロス」鑑賞 言語表現と映像表現との違いなどを感じるべく、『走れメロス』のアニメの特徴を確認し参照し、次回 の討論に役立てる。
9	『走れメロス』その2 レポート発表と討論 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し 討論する
10	『竹青』 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し 討論する
11	『新樹の言葉』 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し 討論する
12	『右大臣実朝』 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し 討論する
13	『貧の意地』(『新釈諸国噺』Ⅰ) 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し 討論する
14	『赤い太鼓』(『新釈諸国噺』Ⅱ) 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し 討論する
15	『津軽』

	【授業中の発表を担当しなかった学生のレポート提出期限 提出先はUNIPA「課題提出」】	
--	---	--

科目名	演劇学作品研究1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	出口 逸平				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>受講者による演劇作品(映画・ミュージカル・オペラ等を含む)の研究発表と質疑応答をおこなう。受講者の自由な発想を活かせるよう、的確にアドバイスしていきたい。この演習が、ディプロマポリシーにいう「創造性と独創性」のヒントになればと願っている</p>					
授業概要					
<p>受講者の研究発表と質疑応答によって、授業をすすめる。取り上げる作品は、受講者の希望をできるかぎり尊重したい。随時上演ビデオを利用する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>発表は、受講者それぞれの関心に即して行ってもら。何に、どのような興味があるのか。よく探ってみて欲しい。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
総合評価			100		
教科書					
教科書1	各人の関心に応じて指導する。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	各人の関心に応じて指導する。				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と質疑応答に充てられる。
2	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と質疑応答に充てられる。
3	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と質疑応答に充てられる。
4	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と質疑応答に充てられる。
5	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と質疑応答に充てられる。
6	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と質疑応答に充てられる。
7	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と質疑応答に充てられる。
8	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と質疑応答に充てられる。
9	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と質疑応答に充てられる。
10	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と質疑応答に充てられる。
11	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と質疑応答に充てられる。
12	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と質疑応答に充てられる。
13	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と質疑応答に充てられる。
14	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と質疑応答に充てられる。
15	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と質疑応答に充てられる。

科目名	演劇学作品研究2	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	出口 逸平				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>受講者による演劇作品(映画・ミュージカル・オペラ等を含む)の研究発表と質疑応答をおこなう。受講者の自由な発想を活かせるよう、的確にアドバイスしていきたい。この演習が、ディプロマポリシーにいう「創造性と獨創性」のヒントになればと願っている</p>					
授業概要					
<p>受講者の研究発表と質疑応答によって、授業をすすめる。取り上げる作品は、受講者の希望をできるかぎり尊重したい。随時上演ビデオを利用する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>発表は、受講者それぞれの関心に即して行ってもら。何に、どのような興味があるのか。よく探ってみて欲しい。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
総合評価			100		
教科書					
教科書1	各人の関心に応じて指導する。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	各人の関心に応じて指導する。				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と質疑応答に充てられる。
2	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と質疑応答に充てられる。
3	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と質疑応答に充てられる。
4	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と質疑応答に充てられる。
5	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と質疑応答に充てられる。
6	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と質疑応答に充てられる。
7	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と質疑応答に充てられる。
8	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と質疑応答に充てられる。
9	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と質疑応答に充てられる。
10	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と質疑応答に充てられる。
11	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と質疑応答に充てられる。
12	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と質疑応答に充てられる。
13	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と質疑応答に充てられる。
14	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と質疑応答に充てられる。
15	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と質疑応答に充てられる。

科目名	音楽学作品研究1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 前期	形態	演習		
教員名	津上 智実				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>フランツ・シューベルト(1797~1828)の連作歌曲集《冬の旅》(1827)を教材として、ドイツ・リート味わい方をじっくりと学ぶ。ドイツ詩の言葉のリズムと美しさを、詩の韻律パターン(ヤンプスやアナペストなど)や押韻パターン(脚韻や頭韻など)に目を配りながら読み上げる形でよく味わい、その上で実際の楽曲でどのように生かされているかを理解する力を身につける。</p>					
授業概要					
<p>ドイツ・リート味わい方をじっくりと学ぶ。今年度はフランツ・シューベルト(1797~1828)の連作歌曲集《冬の旅》(1827)を教材とする。古典的なドイツ・リート歌詞は、言葉の響きとリズムが整えられた韻文なので、まずはその構造について学ぶ。詩の韻律パターン(ヤンプスやアナペストなど)や押韻パターン(脚韻や頭韻など)を理解して読み上げることで、ドイツ詩の言葉のリズムと美しさを味わう力を身につける。さらに、そうした詩文のリズムや美しさが実際の楽曲において、どのように反映されて生かされているかを考察した上で、複数の歌手の録音を比較検討する。前期で《冬の旅》第1部の12曲、後期で同第2部の12曲について学ぶ。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
よく聴く、よく読む、よく考える。折々に小さな課題を出すので、主体的に積極的に取り組むこと(週90分程度)。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業態度			30		
ミニ・レポート			20		
中間・期末レポート			50		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	シューベルト:冬の旅				
出版社名	音楽之友社、On Books Advance 04, 2023	著者名	喜多尾道冬		
参考書名2	シューベルトの「冬の旅」				
出版社名	岡本時子・岡本順治訳(アルテスパブリッシング、2017)	著者名	イアン・ポストリッジ		
参考書名3	ヴィルヘルム・ミュラーの生涯と作品:《冬の旅》を中心に				
出版社名	東北大学出版会、2017	著者名	渡辺美奈子		
参考書名4	シューベルトの歌曲をたどって				
出版社名	原田茂生訳(白水社、2012)	著者名	D. フィッシャー=ディースカウ		

参考書名5	ドイツ詩を読む人のために:韻律論的ドイツ詩鑑賞		
出版社名	郁文堂、1989	著者名	山口四郎
参考 URL			
特記事項			
シューベルト《冬の旅》の楽譜を用意してくる。版についての指定は特にない。			
教員実務経験			
音楽学の研究者が、多数の論考や学会発表をしてきた経験を活かして、ドイツ・リート of の学び方と味わい方を指導する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	導入:問題設定と参考文献		
2	ドイツ詩の言葉のリズム		
3	第1曲〈おやすみ〉		
4	第2曲〈風見の旗〉		
5	第3曲〈凍る涙〉		
6	第4曲〈かじかみ〉		
7	第5曲〈菩提樹〉		
8	第6曲〈あふれる涙〉		
9	第7曲〈川の上で〉		
10	第8曲〈願みて〉		
11	第9曲〈鬼火〉		
12	第10曲〈鰥〉		
13	第11曲〈春の夢〉		
14	第12曲〈孤独〉		
15	総括		

科目名	音楽学作品研究2	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	津上 智実				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>フランツ・シューベルト(1797~1828)の連作歌曲集《冬の旅》(1827)を教材として、ドイツ・リート味わい方をじっくりと学ぶ。ドイツ詩の言葉のリズムと美しさを、詩の韻律パターン(ヤンプスやアナペストなど)や押韻パターン(脚韻や頭韻など)に目を配りながら読み上げる形でよく味わい、その上で実際の楽曲でどのように生かされているかを理解する力を身につける。</p>					
授業概要					
<p>ドイツ・リート味わい方をじっくりと学ぶ。今年度はフランツ・シューベルト(1797~1828)の連作歌曲集《冬の旅》(1827)を教材とする。古典的なドイツ・リート歌詞は、言葉の響きとリズムが整えられた韻文なので、まずはその構造について学ぶ。詩の韻律パターン(ヤンプスやアナペストなど)や押韻パターン(脚韻や頭韻など)を理解して読み上げることで、ドイツ詩の言葉のリズムと美しさを味わう力を身につける。さらに、そうした詩文のリズムや美しさが実際の楽曲において、どのように反映されて生かされているかを考察した上で、複数の歌い手の録音を比較検討する。前期で《冬の旅》第1部の12曲、後期で同第2部の12曲について学ぶ。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
よく聴く、よく読む、よく考える。折々に小さな課題を出すので、主体的に積極的に取り組むこと(週90分程度)。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業態度			30		
ミニ・レポート			20		
中間・期末レポート			50		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	シューベルト:冬の旅				
出版社名	音楽之友社、On Books Advance 04, 2023	著者名	喜多尾道冬		
参考書名2	シューベルトの「冬の旅」				
出版社名	岡本時子・岡本順治訳(アルテスパブリッシング、2017)	著者名	イアン・ポストリッジ		
参考書名3	ヴィルヘルム・ミュラーの生涯と作品:《冬の旅》を中心に				
出版社名	東北大学出版会、2017	著者名	渡辺美奈子		
参考書名4	シューベルトの歌曲をたどって				
出版社名	原田茂生訳(白水社、2012)	著者名	D. フィッシャー=ディースカウ		

参考書名5	ドイツ詩を読む人のために:韻律論的ドイツ詩鑑賞		
出版社名	郁文堂、1989	著者名	山口四郎
参考 URL			
特記事項			
シューベルト《冬の旅》の楽譜を用意してくる。版についての指定は特にない。			
教員実務経験			
音楽学の研究者が、多数の論考や学会発表をしてきた経験を活かして、ドイツ・リート of の学び方と味わい方を指導する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	導入:問題設定と参考文献		
2	ドイツ詩を味わうには		
3	第 13 曲〈郵便馬車〉		
4	第 14 曲〈霜おく髪〉		
5	第 15 曲〈からす〉		
6	第 16 曲〈最後の希望〉		
7	第 17 曲〈村にて〉		
8	第 18 曲〈嵐の朝〉		
9	第 19 曲〈まぼろし〉		
10	第 20 曲〈道しるべ〉		
11	第 21 曲〈宿屋〉		
12	第 22 曲〈勇気〉		
13	第 23 曲〈幻の太陽〉		
14	第 24 曲〈辻音楽師〉		
15	総括		

科目名	原典研究9	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 前期	形態	演習		
教員名	龍本 那津子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
『源氏物語』に代表される日本の古典文学について、基礎的なことを学び、実際の作品を読んで理解を深め、日本の古典文学に親しむことを目的とする。					
授業概要					
『源氏物語』に関する基本的な知識を学びつつ、巻ごとにテキストに従って読み進める。同時に平安時代の物語に見られる当時の文化や言語についても知見を深める。 また、必要に応じて同時代の物語や和歌、日記などにもふれていく。 これらの文学作品を読むことによって、当時の人々のものの見方や感じ方をうかがい知ることができよう。授業では各自担当箇所を決めて輪読形式で進めていく。 また、学生の興味関心に応じて随時研究発表を取り入れていく。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
古語辞典(出版社問わず・電子辞書可)は必ず用意すること。 『源氏物語』の本文(原文)が載っているテキスト(文庫本でよい)があれば望ましい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業に取り組む態度			70		
レポート			30		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	授業で紹介する				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	『源氏物語』について基礎知識と資料の紹介
2	源氏物語を読む 桐壺①
3	源氏物語を読む 桐壺②
4	源氏物語を読む 桐壺③
5	源氏物語を読む 帚木①
6	源氏物語を読む 帚木②
7	源氏物語を読む 帚木③
8	源氏物語を読む 帚木④
9	源氏物語を読む 空蝉①
10	源氏物語を読む 空蝉②
11	源氏物語を読む 空蝉③
12	源氏物語を読む 空蝉④
13	平安時代の女性と文学
14	『紫部日記』と『紫式部集』
15	前期のまとめとレポートについての注意

科目名	原典研究10	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	龍本 那津子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
『源氏物語』に代表される日本の古典文学について、基礎的なことを学び、実際の作品を読んで理解を深め、日本の古典文学に親しむことを目的とする。					
授業概要					
『源氏物語』に関する基本的な知識を学びつつ、巻ごとにテキストに従って読み進める。同時に平安時代の物語に見られる当時の文化や言語についても知見を深める。 また、必要に応じて同時代の物語や和歌、日記などにもふれていく。 これらの文学作品を読むことによって、当時の人々のものの見方や感じ方をうかがい知ることができよう。授業では各自担当箇所を決めて輪読形式で進めていく。 また、学生の興味関心に応じて随時研究発表を取り入れていく。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
古語辞典(出版社問わず・電子辞書可)は必ず用意すること。 『源氏物語』の本文(原文)が載っているテキスト(文庫本でよい)があれば望ましい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業に取り組む態度			70		
発表			30		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	授業で紹介する				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	『源氏物語』について基礎知識と資料の紹介
2	源氏物語を読む 夕顔①
3	源氏物語を読む 夕顔②
4	源氏物語を読む 夕顔③
5	源氏物語を読む 夕顔④
6	源氏物語を読む 夕顔⑤
7	源氏物語を読む 若紫①
8	源氏物語を読む 若紫②
9	源氏物語を読む 若紫③
10	源氏物語を読む 若紫④
11	源氏物語を読む 若紫⑤
12	各自の問題意識を生かした研究発表および質疑応答①
13	各自の問題意識を生かした研究発表および質疑応答②
14	各自の問題意識を生かした研究発表および質疑応答③
15	後期のまとめ源氏物語と現代

科目名	声楽研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 前期	形態	演習		
教員名	小林 沙羅				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>授業目的 プロの音楽家、声楽家として必要な多彩な表現力を身につける。そのために必要な発声、演奏スタイル、発音の基本的な技術を得る。</p> <p>到達目標 授業を受ける前の自分よりも少しでも多くの技術と表現力を身につける。そして今の自分に必要な課題を明らかにして今後活かす。</p>					
授業概要					
<p>個人レッスン形式での授業を行います。 各学生が今勉強したいと思っているオペラアリアや歌曲、レチタティーヴォ、宗教作品など、あらゆるジャンル、あらゆる言語の声楽作品を指導します。 発声、言語、音楽表現、演技、キャリアの積み方など、今後プロの声楽家として舞台上で必要になって来る事を総合的にお伝えし、それぞれに合った方法を共に考えていく授業を行います。 各門下の先生方と発声を開拓中の学生には、混乱を避けるため発声以外の面での指導を行う予定です。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>普通のレッスンと同じです。レッスンを受けたいアリアや歌曲などをお持ちください。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書					
教科書1					
出版社名			著者名		
教科書2					
出版社名			著者名		
教科書3					
出版社名			著者名		
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名			著者名		
参考書名2					
出版社名			著者名		
参考書名3					
出版社名			著者名		
参考書名4					
出版社名			著者名		

参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	<p>夏期に集中講義にて個人レッスン形式での授業を行います。 各学生が今勉強したいと思っているオペラアリアや歌曲、レチタティーヴォ、宗教作品など、あらゆるジャンル、あらゆる言語の声楽作品を指導します。 発声、言語、音楽表現、演技、キャリアの積み方など、今後プロの声楽家として舞台上がる上で必要になって来る事を総合的にお伝えし、それぞれに合った方法を共に考えていく授業を行います。</p>		

科目名	声楽研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	小林 沙羅				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>授業目的 プロの音楽家、声楽家として必要な多彩な表現力を身につける。そのために必要な発声、演奏スタイル、発音の基本的な技術を得る。</p> <p>到達目標 授業を受ける前の自分よりも少しでも多くの技術と表現力を身につける。そして今の自分に必要な課題を明らかにして今後活かす。</p>					
授業概要					
<p>個人レッスン形式での授業を行います。 各学生が今勉強したいと思っているオペラアリアや歌曲、レチタティーヴォ、宗教作品など、あらゆるジャンル、あらゆる言語の声楽作品を指導します。 発声、言語、音楽表現、演技、キャリアの積み方など、今後プロの声楽家として舞台上で必要になって来る事を総合的にお伝えし、それぞれに合った方法を共に考えていく授業を行います。 各門下の先生方と発声を開拓中の学生には、混乱を避けるため発声以外の面での指導を行う予定です。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>普通のレッスンと同じです。レッスンを受けたいアリアや歌曲などをお持ちください。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			

参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	<p>冬期に集中講義にて個人レッスン形式での授業を行います。 各学生が今勉強したいと思っているオペラアリアや歌曲、レチタティーヴォ、宗教作品など、あらゆるジャンル、あらゆる言語の声楽作品を指導します。 発声、言語、音楽表現、演技、キャリアの積み方など、今後プロの声楽家として舞台上がる上で必要になって来る事を総合的にお伝えし、それぞれに合った方法を共に考えていく授業を行います。</p>		

科目名	声楽研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	東野 亜弥子、三原 剛				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>これまで習得してきた声楽の分野を更に追求する。自身の正しい発声を体感し、体と声をより結びつけることを目的とする。</p> <p>また、表現力に磨きをかけ、詩の背景を歌唱に繋げていく。</p> <p>ディプロマポリシーにある「研究者及び芸術家として自立し得る能力を学修することを求める」に基づき、声楽家としてのより良い人生に繋げるため、声の研究の第一人者として、また音楽的に詩を表現できる芸術家のひとりとして、学び、成長させていくことを目的とする。</p>					
授業概要					
教員の指導のもと、個人に合った声楽作品を選び、技術を習得していく。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
毎回のレッスンの復習を必ずすること。欠席のないよう、自己管理をすること。毎週の課題に積極的に取り組むこと。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
声楽家、オペラ歌手としての経験を活かしたレッスンを展開する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	年間30回のレッスンを通じて、発声、レパートリーの拡大、細やかな詩の理解を追求し、レッスン形式で進めていく。 日本歌曲を中心に、様々な時代のイタリア歌曲、ドイツ歌曲、宗教曲、オペラアリアなどプログラム構成を考えながら学べるレッスンを展開する。

科目名	声楽研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	東野 亜弥子、三原 剛				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>これまで習得してきた声楽の分野を更に追求する。自身の正しい発声を体感し、体と声をより結びつけることを目的とする。</p> <p>また、表現力に磨きをかけ、詩の背景を歌唱に繋げていく。</p> <p>声楽研究演習1で得たことを更に追求し発展させていく。</p> <p>ディプロマポリシーにある「研究者及び芸術家として自立し得る能力を学修することを求める」に基づき、声楽家としてのより良い人生に繋げるため、声の研究の第一人者として、また音楽的に詩を表現できる芸術家のひとりとして、学び、成長させていくことを目的とする。</p>					
授業概要					
教員の指導のもと、個人に合った声楽作品を選び、技術を習得していく。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>毎回のレッスンの復習を必ずすること。</p> <p>欠席のないよう、自己管理をすること。</p> <p>毎週の課題に積極的に取り組むこと。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書					
教科書1					
出版社名			著者名		
教科書2					
出版社名			著者名		
教科書3					
出版社名			著者名		
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名			著者名		
参考書名2					
出版社名			著者名		
参考書名3					
出版社名			著者名		
参考書名4					
出版社名			著者名		
参考書名5					
出版社名			著者名		

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
声楽家、オペラ歌手としての経験を活かしたレッスンを展開する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	年間30回のレッスンを通じて、発声、レパートリーの拡大、細やかな詩の理解を追求し、レッスン形式で進めていく。 日本歌曲を中心に、様々な時代のイタリア歌曲、ドイツ歌曲、宗教曲、オペラアリアなどプログラム構成を考えながら学べるレッスンを展開する。

科目名	絵画研究演習1	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 前期	形態	演習		
教員名	森井 宏青				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>授業目的:</p> <p>「絵を上手に描く」ことだけを「表現」と思てはいけない。 アイデンティティと表現の確立のためには、技巧も知識も構成要素の一部でしかない。 学部4年間でようやく形にできた自らの創作について、より深く掘り下げ、より研究し、自分にとっての「表現」とはなにかを追求する。 とにかく寸暇を惜しんで、創って、創って、創ること。20年以上の人生経験の重さに見合うだけの制作を自らに課し、素材で手を汚し、汗をかき、体全身で創作に打ち込んでから、その意味を考える。行動すれば、体感を伴った思考を手に行ける</p>					
授業概要					
<p>自発的な制作研究(創作・表現)を根幹とする。 身体を動かし、多くの素材に生で触れ、自己の具現に真摯に取り組むこと。 教員はディスカッションを大切に、その創作の方向性や可能性について共に考えアドバイスする。 必要となる専門的な技術や、材料学的知識については適宜指導する。 世界に通用する表現力を得るために、この日本という国で創作すること、そしてその表現の意味についても、広い視野でとらえる感性や常識を身につける。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>アーティストになるために必要な基本のすべて。 ・ひたすらに描き、創ること。口先の理論の構築より、身体でものづくりする日々の姿勢を大切に過ごすこと。 ・表現に必要な取材には労をいとわぬこと。安易なネット情報に頼らず、足を使い取材すること。 大学院生に恥じない、自覚ある受講態度で臨むこと。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業態度、姿勢、質疑応答や、演習の結果による総合判定。 理論、知識が豊かに、正確に習得されているか、それらが演習としてのびやかに創作に活かされているか			100		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					

出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
<p>画家 ノルウェー・フィンランド、北欧アーティストコミュニティ・キュレーター。 アートマテリアル研究 油彩画修復 画家としての活動経験のみならず、絵画古典技法、絵画修復、材料研究、北欧美術研究など、海外でのアーティスト活動の成果を生かし、グローバルな視野のもと、実技指導する。</p>			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	制作研究の今後の方針についてフリーディスカッション		
2	コンセプトと制作の検証1		
3	コンセプトと制作の検証2		
4	コンセプトと制作の検証3		
5	コンセプトと制作の検証4		
6	コンセプトと制作の検証5		
7	コンセプトと制作の検証6		
8	コンセプトと制作の検証7		
9	コンセプトと制作の検証8		
10	コンセプトと制作の検証9		
11	コンセプトと制作の検証10		
12	コンセプトと制作の検証11		
13	表現検証1		
14	表現検証2		
15	プレゼンテーション		

科目名	絵画研究演習1	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	森 桃子				
クラス名	古画研究(模写)・制作				
授業目的と到達目標					
<p>この授業の目的は、研究対象とする古画作品の作家の創造性を、古画研究(模写)の観察・体験から実感し、その知識と技法・表現の特性を理解し、自らの感性を高め、自身の創造性と独創性に活かす能力を習得することとします。</p> <p>各自が設定したテーマに基づいて古画研究・模写を行うとともに、それと関連する絵画制作について学びます。観察し、感じ、自問自答することを積み重ねて、創ること伝えることを考察します。</p> <p>専門的な視点や技術を持って高度な芸術創造に取り組み、独創性に富んだ芸術活動を営み始めることのできる人物の育成を到達目標とします。</p>					
授業概要					
<p>各自が設定したテーマに基づいて授業を進めます。</p> <p>古画研究(模写)を通して作画の発想力の視点を広げ、画論や素材・技法について知見を深め、幅広い表現力を習得できるよう指導します。</p> <p>古画研究(模写)の対象とする作品は教員と相談の上選定します。古画研究(模写)は概ね50号以上サイズのもの1点以上選びます。</p> <p>制作では、古画研究(模写)の経験を活かすことができるような取り組みに挑戦し、表現力の向上を目指します。古画研究(模写)の割合は基本6割とし、古画研究と関連して行う制作の割合は4割とします。 [但し古画研究(模写)の割合を増やすことは可とし、希望に応じて古画研究・模写のみとすることができます。]</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>教員と相談しながら、自ら研究し学んでいく主体的な態度が望まれます。</p> <p>古画研究(模写)の対象とする作品は、なるべく実見して下さい。また、対象作品の参考文献や先行研究等の調査・検証を行いましょう。研究ノートを作成をお願いします。</p> <p>古画作品に限らず美術作品を数多く鑑賞して下さい。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品の評価、古画作品に対する研究内容などを総合的に評価します。			100		
教科書					
教科書1					
出版社名			著者名		
教科書2					
出版社名			著者名		
教科書3					
出版社名			著者名		
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名			著者名		
参考書名2					

出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
森桃子:日本画家(日展会友)日本画家としてこれまで制作・発表を継続してきた経験を活かし、日本画を制作・研究するための方法や技術を指導する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	【古画研究・制作テーマについての考察①】 前期中の計画および研究内容の検討、古画研究(模写)作品の候補選定等		
2	【古画研究・制作テーマについての考察②】 前期中の計画および研究内容・方法の検討、古画研究(模写)作品の選定、参考文献・資料収集		
3	【古画研究・制作テーマの発表・古画研究(模写)の資料作成①】 研究テーマ発表、資料作成、参考文献・先行研究の調査・検証		
4	【古画研究(模写)の資料作成②】 資料作成、参考文献・先行研究の要約作成、古画研究(模写)準備		
5	【古画研究(模写)の資料作成③】 資料作成、参考文献・先行研究の要約発表、古画研究(模写)準備		
6	【古画研究(模写) 絵画研究①】 古画研究(模写)および材料研究、並行して古画研究に関連する絵画制作		
7	【古画研究(模写) 絵画研究②】 古画研究(模写)および材料研究、並行して古画研究に関連する絵画制作		
8	【古画研究(模写) 絵画研究③】 古画研究(模写)および技法研究、並行して古画研究に関連する絵画制作		
9	【古画研究(模写) 絵画研究④】 古画研究(模写)および技法研究、並行して古画研究に関連する絵画制作		
10	【古画研究(模写) 絵画研究⑤】 古画研究(模写)および表現研究、並行して古画研究に関連する絵画制作		
11	【古画研究(模写) 絵画研究⑥】 古画研究(模写)および表現研究、並行して古画研究に関連する絵画制作		
12	【古画研究(模写) 絵画研究⑦】 古画研究(模写)および表現研究、並行して古画研究に関連する絵画制作		
13	【古画研究(模写) 絵画研究⑧】 古画研究(模写)および表現研究、並行して古画研究に関連する絵画制作		
14	【古画研究・制作成果発表①】 自己設定したテーマに基づいた古画研究・制作に関するプレゼンテーション		
15	【古画研究・制作成果発表②】		

	研究報告書の作成・提出	
--	-------------	--

科目名	絵画研究演習1	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	いしだ ふみ				
クラス名	版画研究演習1				
授業目的と到達目標					
<p>豊かな感性と優れた表現力をもつ作り手の育成。 作り手としての自身の立ち位置を美術の流れの中でとらえ、主題・構想を決定することが出来ること。 主題・構想に合致した技法を発案、または技術を修得し、表現に生かすことが出来ること。</p>					
授業概要					
<p>教員との対話や参考図書を通して、受講生自身が自らの意図に沿った主題を決定し、その表現の為の技法を複数試みながら主題に合致した方法論を見出し、制作を通してその技術を修得出来るように指導する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>準備学修としては、道具の手入れ、作品の適切な保存、安全で心地よい制作室の維持を心がけること。 受講上の注意としては、 ・制作の記録が出来るスケッチブック等を持参すること。 ・意欲的・継続的に制作を行い、作品発表の機会があれば積極的に取り組むこと。 ・展覧会・個展等を積極的に鑑賞すること。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
提出作品の完成度			80		
制作姿勢・研究心			20		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	授業の中で状況に応じて案内する				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
版画家として多数の作品を制作発表して来た経験を活かし、構想と技術の両面から指導する	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業概要説明。主題・構想について協議
2	表現方法・技法について協議
3	作品制作。個別指導
4	作品制作。個別指導
5	作品制作。個別指導
6	作品制作。個別指導
7	作品制作。個別指導
8	作品制作。個別指導
9	作品制作。個別指導
10	作品制作。個別指導
11	作品制作。個別指導
12	作品制作。個別指導
13	作品制作。個別指導
14	作品制作。個別指導
15	鑑賞・合評、まとめ

科目名	絵画研究演習1	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	村居 正之				
クラス名					
授業目的と到達目標					
精神・技法を土台に、絵画の創造・発展に向かい、個々の知識や感性を高め、それ沿った幅広い表現力を持ち、絵画表現の喜びを実感し、豊かな人間性を育むことを目的とする。					
授業概要					
教官達との交流を通して、制作過程の知識や経験を学び、個々の絵画制作を通して、画論や画材の研究・技法の理解等を多く学習し、作家としての在り方を把握する。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> ・著名な作家、同世代の作家達の作品を数多く鑑賞する。 ・制作を進めながらより高度な精神と表現技術を求める。 					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験

村居 正之 日本画家(社団法人日展理事・日本芸術院会員)
日本画家である教員が、自身の制作経験をもとに豊かな知識と感性で指導する

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	研究演習1 モチーフは自由。岩絵具、膠、胡粉、麻紙、絹、箔など豊富な日本画の素材を知り、日本画の歴史を通じて高度な知識や現代的表現を身につける。
2	研究制作1
3	研究制作1
4	研究制作1
5	研究制作2準備
6	研究制作2準備
7	ディスカッション
8	研究制作2
9	研究制作2
10	研究制作研究
11	研究制作研究
12	研究制作研究
13	研究制作研究
14	研究制作研究
15	研究制作研究レポート提出

科目名	絵画研究演習1	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	久世直幸				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>ディプロマポリシーにある創造性・独創性に富んだ自立した制作活動を営める人物の育成を目指します。そのために以下の内容で実技演習・制作指導・講義・ミーティングを行います。(年間の制作号数 500 号を努力義務とします)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おおらかで個性豊かな平面絵画の追求、様々な体験や知識の集積による制作テーマの深化 ・日本画材を用いた現代的な絵画表現の研究、新しい画材や未知なる表現の開拓 ・美術界の制度や仕組みの理解、合理的な作品展開と積極的な作品発表、成果の獲得 					
授業概要					
<p>【対面授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本画の伝統的表現や技術を確認しながらも、現代に相応しい絵画表現の獲得を目指した実技授業や講義 ・絵画制作の立案、計画、実施、発表といった制作活動全般に対する指導 ・流行の表現技法や業界の最新情報など様々なコンテンツの提供教員の画家としての経験を活かし、制作への意欲獲得の方法や準備、研究、実制作から発表、プロデュース、プレゼンまでの知識やスキルを、総合的に指導します。 					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> ・著名作家や同世代の作家の作品を鑑賞する機会を持つ。 ・制作や授業テーマに対する積極的な発言の用意を行う。 					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
制作作品のレベル、クオリティー			70		
作品発表と成果			15		
製作姿勢			15		
教科書					
教科書1	適宜授業内でプリント等を配布します。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					

出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
教員の制作について {久世直幸オフィシャルサイト, https://kuzenaoyuki.com } {一般社団法人 創画会, https://www.sogakai.or.jp }			
特記事項			
教員実務経験			
日本画家で一般社団法人創画会正会員としての制作や発表の経験とスキルを活かし、日本画の表現技法や思考法、制作や発表に関する知識や技術、これからの絵画制作についての知見など、制作者として必要な技能の総合的な修得を目指した指導を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	年間の制作計画、発表、制作テーマの研究方法についての考察①		
2	年間の制作計画、発表、制作テーマの研究方法についての考察②		
3	取材(テーマ、モチーフ、手法)の研究①		
4	取材(テーマ、モチーフ、手法)の研究②		
5	取材(テーマ、モチーフ、手法)の研究③		
6	表現、技術、素材についての研究①		
7	表現、技術、素材についての研究②		
8	表現、技術、素材についての研究③		
9	表現、技術、素材についての研究④		
10	表現、技術、素材についての研究⑤		
11	発表について(額装等、展示、プレゼン、ブランディング、WEB や SNS)①		
12	発表について(額装等、展示、プレゼン、ブランディング、WEB や SNS)②		
13	発表について(額装等、展示、プレゼン、ブランディング、WEB や SNS)③		
14	発表について(額装等、展示、プレゼン、ブランディング、WEB や SNS)④		
15	美術業界について(画壇、画商マーケット、アートフェア、美術出版)		

科目名	絵画研究演習1	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 前期	形態	演習		
教員名	大西 守博				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p><授業目的> 絵画表現における各領域の再認識、先行研究の検証などを通じて、個々の学生(個性)が本来持つ無限の可能性の自己認識、気づき、研究の新規性等の確立を授業目的とする。</p> <p><到達目標> 制作の動機、研究課題テーマの明確化又は深化。テーマに対する最適な表現手段、技法の研究・演習を体験することで、自己設定の目標を自ら達成しうる表現力の向上、個々の独創的表現を作品として実現しうる能力を習得することを到達目標とする。</p>					
授業概要					
<ul style="list-style-type: none"> * 平面表現の可能性の講義、ディスカッションを行いながら、自己研究テーマの気づきへのいざない * 視覚的表現の中に潜む感情表現の意味(先行研究紹介) * 研究テーマについての自己説明とそれにふさわしい表現方法、技法の研究 * 具象表現と抽象表現についての考察から、自己表現の深化(新規性の探求) * 積極的な制作発表の環境づくりの構築のサポート * 自己設定した研究テーマの実際の制作演習 					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
今までにある表現方法や技術を学ぶという姿勢だけにとどまらず、自ら研究し、新規性の発見、これからの新しい表現を追求してゆく姿勢が何よりも重要である					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
研究テーマを基に制作した作品に対して			60		
研究テーマ制作報告レポートに対して			40		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					

出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
大西 守博 日本画家(公益社団法人日展会員)日本画家としての実務経験を活かし、学生の研究課題に寄り添う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	◎教員面談 提出された研究計画書について、今後の方針についてのディスカッション		
2	◎研究内容の確立の為の調査/取材 (先行研究等の観覧/研究)		
3	◎研究内容確立の為の取材、調査		
4	◎研究内容のプレゼンテーション発表、ディスカッション		
5	◎自己研究内容の独自性の検証 表現動機の論理的意義との整合性の考察研究		
6	◎制作演習 準備		
7	◎制作演習		
8	◎制作演習		
9	◎制作演習		
10	◎制作演習		
11	◎制作演習		
12	◎制作演習		
13	◎制作発表 プレゼンテーション、ディスカッション		
14	◎作品検証とディスカッション 現状の評価と今後の課題の再認識と研究テーマと表現の整合性の確認		
15	◎春期最終レポートの作成、提出		

科目名	絵画研究演習2	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	森井 宏青				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>授業目的:</p> <p>「絵を上手に描く」ことだけを「表現」と思っはいけない。 アイデンティティと表現の確立のためには、技巧も知識も構成要素の一部でしかない。 学部4年間でようやく形にできた自らの創作について、より深く掘り下げ、より研究し、自分にとっての「表現」とはなにかを追求する。</p> <p>とにかく寸暇を惜しんで、創って、創って、創ること。20年以上の人生経験の重さに見合うだけの制作を自らに課し、素材で手を汚し、汗をかき、体全身で創作に打ち込んでから、その意味を考える。行動すれば、体感を伴った思考を手に行けるが、頭で考えてばかりいても身体はついてこない。 常に、まず行動してから、言葉を発することのできる表現者になること。 達成目標: グローバリズムに飲まれない、確固とした自我をもち、ゆるぎない表現者として自立する。</p>					
授業概要					
<p>自発的な制作研究(創作・表現)を根幹とする。 身体を動かし、多くの素材に生で触れ、自己の具現に真摯に取り組むこと。 教員はディスカッションを大切に、その創作の方向性や可能性について共に考えアドバイスする。 必要となる専門的な技術や、材料学的知識については適宜指導する。 世界に通用する表現力を得るために、この日本という国で創作すること、そしてその表現の意味についても、広い視野でとらえる感性や常識を身につける。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>アーティストになるために必要な基本のすべて。 ・ひたすらに描き、創ること。口先の理論の構築より、身体でものづくりする日々の姿勢を大切に過ごすこと。 ・表現に必要な取材には労をいとわぬこと。安易なネット情報に頼らず、足を使い取材すること。 大学院生に恥じない、自覚ある受講態度で臨むこと。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業態度、姿勢、質疑応答や、演習の結果による総合判定。 理論、知識が豊かに、正確に習得されているか、それらが演習としてのびやかに創作に生かされているか			100		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
<p>画家 ノルウェー・フィンランド、北欧アーティストコミュニティ・キュレーター。 アートマテリアル研究 油彩画修復 画家としての活動経験のみならず、絵画古典技法、絵画修復、材料研究、北欧美術研究など、海外でのアーティスト活動の成果を生かし、グローバルな視野のもと、実技指導する。</p>			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	制作研究の今後の方針についてフリーディスカッション		
2	コンセプトと制作の検証1		
3	コンセプトと制作の検証2		
4	コンセプトと制作の検証3		
5	コンセプトと制作の検証4		
6	コンセプトと制作の検証5		
7	コンセプトと制作の検証6		
8	コンセプトと制作の検証7		
9	コンセプトと制作の検証8		
10	コンセプトと制作の検証9		
11	コンセプトと制作の検証10		
12	コンセプトと制作の検証11		
13	表現検証1		
14	表現検証2		
15	プレゼンテーション		

科目名	絵画研究演習2	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	森 桃子				
クラス名	古画研究(模写)・制作				
授業目的と到達目標					
<p>この授業の目的は、研究対象とする古画作品の作家の創造性を、古画研究(模写)の観察・体験から実感し、その知識と技法・表現の特性を理解し、自らの感性を高め、自身の創造性と独創性に活かす能力を習得することとします。</p> <p>各自が設定したテーマに基づいて古画研究(模写)を行うとともに、それと関連する絵画制作について学びます。観察し、感じ、自問自答することを積み重ねて、創ること伝えることを考察します。</p> <p>専門的な視点や技術を持って高度な芸術創造に取り組み、独創性に富んだ芸術活動を営み始めることのできる人物の育成を到達目標とします。</p>					
授業概要					
<p>【対面授業】各自が設定したテーマに基づいて授業を進めます。</p> <p>古画研究(模写)を通して作画の発想力の視点を広げ、画論や素材・技法について知見を深め、幅広い表現力を習得できるよう指導します。</p> <p>古画研究(模写)の対象とする作品は教員と相談の上選定します。古画研究(模写)は概ね50号以上サイズのもので1点以上選びます。</p> <p>制作では、古画研究(模写)の経験を活かすことができるような取り組みに挑戦し、表現力の向上を目指します。古画研究(模写)の割合は基本6割とし、古画研究と関連して行う制作の割合は4割とします。</p> <p>[但し古画研究・模写の割合を増やすことは可とし、希望に応じて古画研究・模写のみとすることができます。]</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>教員と相談しながら、自ら研究し学んでいく主体的な態度が望まれます。</p> <p>古画研究(模写)の対象とする作品は、なるべく実見して下さい。また、対象作品の参考文献や先行研究等の調査・検証を行いましょう。研究ノートを作成をお願いします。</p> <p>古画作品に限らず美術作品を数多く鑑賞して下さい。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品の評価、古画作品に対する研究内容などを総合的に評価します。			100		
教科書					
教科書1					
出版社名			著者名		
教科書2					
出版社名			著者名		
教科書3					
出版社名			著者名		
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名			著者名		
参考書名2					

出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
森桃子:日本画家(日展会友) 日本画家としてこれまで制作・発表を継続してきた経験を活かし、日本画を制作・研究するための方法や技術を指導する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	【古画研究・制作テーマについての考察①】 現状報告、研究計画の検討、古画研究(模写)作品の候補選定等		
2	【古画研究・制作テーマについての考察②】 後期計画、研究内容・方法の検討、古画研究(模写)作品の選定、参考文献・資料収集		
3	【古画研究・制作テーマの発表・古画研究(模写)の資料作成①】 研究テーマ発表、資料作成、参考文献・先行研究の調査・検証		
4	【古画研究(模写)の資料作成②】 資料作成、参考文献・先行研究の要約作成、古画研究(模写)準備		
5	【古画研究(模写)の資料作成③】 資料作成、参考文献・先行研究の要約発表、古画研究(模写)準備		
6	【古画研究(模写) 絵画研究①】 古画研究(模写)および材料研究、並行して古画研究に関連する絵画制作		
7	【古画研究(模写) 絵画研究②】 古画研究(模写)および材料研究、並行して古画研究に関連する絵画制作		
8	【古画研究(模写) 絵画研究③】 古画研究(模写)および技法研究、並行して古画研究に関連する絵画制作		
9	【古画研究(模写) 絵画研究④】 古画研究(模写)および技法研究、並行して古画研究に関連する絵画制作		
10	【古画研究(模写) 絵画研究⑤】 古画研究(模写)および表現研究、並行して古画研究に関連する絵画制作		
11	【古画研究(模写) 絵画研究⑥】 古画研究(模写)および表現研究、並行して古画研究に関連する絵画制作		
12	【古画研究(模写) 絵画研究⑦】 古画研究(模写)および表現研究、並行して古画研究に関連する絵画制作		
13	【展示計画の作成】 古画研究(模写)および並行して古画研究に関連する絵画制作を発表するための計画作成		
14	【古画研究・制作成果発表①】 自己設定したテーマに基づいた古画研究・制作に関するプレゼンテーション		

科目名	絵画研究演習2	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	いしだ ふみ				
クラス名	版画研究演習2				
授業目的と到達目標					
<p>豊かな感性と優れた表現力をもつ作り手の育成。 作り手としての自身の立ち位置を美術の流れの中でとらえ、主題・構想を決定することが出来ること。 主題・構想に合致した技法を発案、または技術を修得し、表現に生かすことが出来ること。</p>					
授業概要					
<p>教員との対話や参考図書を通して、受講生自身が自らの意図に沿った主題を決定し、その表現の為の技法を複数試みながら主題に合致した方法論を見出し、制作を通してその技術を修得出来るように指導する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>準備学修としては、道具の手入れ、作品の適切な保存、安全で心地よい制作室の維持を心がけること。 受講上の注意としては、 ・制作の記録が出来るスケッチブック等を持参すること。 ・意欲的・継続的に制作を行い、作品発表の機会があれば積極的に取り組むこと。 ・展覧会・個展等を積極的に鑑賞すること。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
提出作品の完成度			80		
制作姿勢・研究心			20		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	授業の中で状況に応じて案内する				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
版画家として多数の作品を制作発表して来た経験を活かし、構想と技術の両面から指導する	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業概要説明。主題・構想について協議
2	表現方法・技法について協議
3	作品制作。個別指導
4	作品制作。個別指導
5	作品制作。個別指導
6	作品制作。個別指導
7	作品制作。個別指導
8	作品制作。個別指導
9	作品制作。個別指導
10	作品制作。個別指導
11	作品制作。個別指導
12	作品制作。個別指導
13	作品制作。個別指導
14	作品制作。個別指導
15	鑑賞・合評, まとめ

科目名	絵画研究演習2	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	村居 正之				
クラス名					
授業目的と到達目標					
精神・技法を土台に、絵画の創造・発展に向かい、個々の知識や感性を高め、それ沿った幅広い表現力を持ち、絵画表現の喜びを実感し、豊かな人間性を育むことを目的とする。					
授業概要					
教官達との交流を通して、制作過程の知識や経験を学び、個々の絵画制作を通して、画論や画材の研究・技法の理解等を多く学習し、作家としての在り方を把握する。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> ・著名な作家、同世代の作家達の作品を数多く鑑賞する。 ・制作を進めながらより高度な精神と表現技術を求める。 					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験

村居 正之 日本画家(社団法人日展理事・日本芸術院会員)
日本画家である教員が、自身の制作経験をもとに豊かな知識と感性で指導する

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	研究演習1 モチーフは自由。岩絵具、膠、胡粉、麻紙、絹、箔など豊富な日本画の素材を知り、日本画の歴史を通じて高度な知識や現代的表現を身につける。
2	研究制作1
3	研究制作1
4	研究制作
5	研究制作
6	研究制作
7	ディスカッション
8	研究制作2
9	研究制作2
10	研究制作研究
11	研究制作研究
12	研究制作研究
13	研究制作研究
14	研究制作研究
15	研究制作研究レポート提出

科目名	絵画研究演習2	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	久世 直幸				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>ディプロマポリシーにある創造性・独創性に富んだ自立した制作活動を営める人物の育成を目指します。そのために以下の内容で実技演習・制作指導・講義・ミーティングを行います。(年間の制作号数 500 号を努力義務とします)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おおらかで個性豊かな平面絵画の追求、様々な体験や知識の集積による制作テーマの深化 ・日本画材を用いた現代的な絵画表現の研究、新しい画材や未知なる表現の開拓 ・美術界の制度や仕組みの理解、合理的な作品展開と積極的な作品発表、成果の獲得 					
授業概要					
<p>【対面授業】・日本画の伝統的表現や技術を確認しながらも、現代に相応しい絵画表現の獲得を目指した実技授業や講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵画制作の立案、計画、実施、発表といった制作活動全般に対しての指導 ・流行の表現技法や業界の最新情報など様々なコンテンツの提供教員の画家としての経験を活かし、制作への意欲獲得の方法や準備、研究、実制作から発表、プロデュース、プレゼンまでの知識やスキルを、総合的に指導します。 					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> ・著名作家や同世代の作家の作品を鑑賞する機会を持つ。 ・制作や授業テーマに対する積極的な発言の用意を行う。 					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
制作作品のレベル、クオリティー			70		
作品発表と成果			15		
制作姿勢			15		
教科書					
教科書1	適宜授業内でプリント等を配布します。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					

出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
教員の制作について {久世直幸オフィシャルサイト, https://kuzenaoyuki.com } {一般社団法人 創画会, https://www.sogakai.or.jp }			
特記事項			
教員実務経験			
日本画家で一般社団法人創画会正会員としての制作や発表の経験とスキルを活かし、日本画の表現技法や思考法、制作や発表に関する知識や技術、これからの絵画制作についての知見など、制作者として必要な技能の総合的な修得を目指した指導を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	年間の制作計画、発表、制作テーマの研究方法についての再考察		
2	取材(テーマ、モチーフ、手法)の研究		
3	表現、技術、素材についての研究①		
4	表現、技術、素材についての研究②		
5	表現、技術、素材についての研究③		
6	表現、技術、素材についての研究④		
7	表現、技術、素材についての研究⑤		
8	日本画材料についての再考(和紙、岩絵の具、染料、箔)①		
9	日本画材料についての再考(和紙、岩絵の具、染料、箔)②		
10	日本画材料についての再考(和紙、岩絵の具、染料、箔)③		
11	日本画材料についての再考(和紙、岩絵の具、染料、箔)④		
12	日本画材料についての再考(和紙、岩絵の具、染料、箔)⑤		
13	年度末発表に向けた展示計画		
14	制作の総括、日本画語句テスト		
15	制作の総括、講評会		

科目名	絵画研究演習2	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	大西 守博				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p><授業目的> 絵画表現における各領域の再認識、先行研究の検証などを通じて、個々の学生(個性)が本来持つ無限の可能性の自己認識、気づき、研究の新規性等の確立を授業目的とする。</p> <p><到達目標> 制作の動機、研究課題テーマの明確化又は深化。テーマに対する最適な表現手段、技法の研究・演習を体験することで、自己設定の目標を自ら達成しうる表現力の向上、個々の独創的表現を作品として実現しうる能力を習得することを到達目標とする。</p>					
授業概要					
<ul style="list-style-type: none"> * 年度前期に制作した作品の総括、ディスカッションを行いながら、自己研究テーマの深化、又は広域化 * 視覚的表現の中に潜む感情表現の意味のさらなる検証 * 研究テーマについての自己説明とそれにふさわしい表現方法、技法の研究 * 具象表現と抽象表現についての考察から、自己表現の深化(新規性の探求) * 積極的な制作発表の環境づくりの構築のサポート * 自己設定した研究テーマの制作演習 					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
今までにある表現方法や技術を学ぶという姿勢だけにとどまらず、自己作品に対する客観的視点を持ち、論理的に明文化しうる感性を持つことが重要である					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
研究テーマを基に制作した作品に対して			60		
研究テーマ制作報告レポートに対して			40		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			

参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
大西 守博 日本画家(公益社団法人日展会員)日本画家としての実務経験を活かし、学生の研究課題に寄り添う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	◎教員面談 春期に制作した作品に対するの総括、ディスカッション		
2	◎研究内容の確立の為に調査/取材 (先行研究等の観覧/研究)		
3	◎研究内容確立の為に取材、調査		
4	◎研究内容のプレゼンテーション発表、ディスカッション		
5	◎自己研究内容の独自性の検証 表現動機の論理的意義との整合性の考察研究		
6	◎制作演習 準備		
7	◎制作演習		
8	◎制作演習		
9	◎制作演習		
10	◎制作演習		
11	◎制作演習		
12	◎制作演習		
13	◎制作発表 プレゼンテーション、ディスカッション		
14	◎作品検証とディスカッション 現状の評価と今後の課題の再認識と研究テーマと表現の整合性の確認		
15	◎年度後期最終レポートの作成、提出		

科目名	彫刻研究演習1	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 前期	形態	演習		
教員名	田丸 稔				
クラス名					
授業目的と到達目標					
(1) 環境造形や彫刻表現全般に関わる構成や秩序、技法等の総合的な研究の質的達成。 (2) 作品2点以上の提出、うち1点以上は対外的な発表(展覧会出品等)をすること。					
授業概要					
塑造による具象表現、また各種素材を用いた環境造形や彫刻表現全般に関わる構成や秩序、技法等の総合的な研究を通して、表現の多様性を探り、質の高い制作表現の追求をする。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
授業時間外は1週間12時間以上、自己の制作研究に集中し、理論的考察を試みる。 研究不正防止の観点から研究倫理(研究活動における不正行為:捏造、改ざん、盗用、研究データの管理など)に関することには特に留意すること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
研究レポートおよびゼミナール形式の研究会における発表の状況に関する評価			50		
学内外での研究発表(個展および展覧会等への出品)の状況についての評価			50		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	彫刻とは何か 新装版: 特質と限界				
出版社名	日貿出版	著者名	ハーバート・リード/宇佐美英治 訳		
参考書名2	近代彫刻史				
出版社名	言叢社	著者名	ハーバート・リード/藤原えりみ 訳		
参考書名3	芸術の意味				
出版社名	みすず書房	著者名	ハーバート・リード/滝口修造 訳		
参考書名4	彫刻の美				
出版社名	中央公論美術出版	著者名	本郷新		
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
彫刻家として、また芸術系大学で制作研究および教育活動を行ってきた経験を活かし、彫刻造形指導及び創作理念を指導する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション
2	実制作およびレポート作成
3	実制作およびレポート作成
4	実制作およびレポート作成
5	実制作およびレポート作成
6	実制作およびレポート作成
7	実制作およびレポート作成
8	実制作およびレポート作成
9	実制作およびレポート作成
10	実制作およびレポート作成
11	実制作およびレポート作成
12	実制作およびレポート作成
13	実制作およびレポート作成
14	実制作およびレポート作成
15	まとめ

科目名	彫刻研究演習2	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	田丸 稔				
クラス名					
授業目的と到達目標					
(1)環境造形や彫刻表現全般に関わる構成や秩序、技法等の総合的な研究の質的達成。 (2)作品2点以上の提出、うち1点以上は対外的な発表(展覧会出品等)をすること。					
授業概要					
前期の彫刻研究演習から継続し、塑造および環境造形において、各自が取り組んできた各種の研究をより高次の次元へと質を深める。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
授業時間外は1週間12時間以上、自己の制作研究に集中し、理論的考察を試みる。 研究不正防止の観点から研究倫理(研究活動における不正行為:捏造、改ざん、盗用、研究データの管理など)に関することには特に留意すること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
研究レポートおよびゼミナール形式の研究会における発表の状況に関する評価			50		
学内外での研究発表(個展および展覧会等への出品)の状況についての評価			50		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	彫刻とは何か 新装版: 特質と限界				
出版社名	日貿出版	著者名	ハーバート・リード/宇佐美英治 訳		
参考書名2	近代彫刻史				
出版社名	言叢社	著者名	ハーバート・リード/藤原えりみ 訳		
参考書名3	芸術の意味				
出版社名	みすず書房	著者名	ハーバート・リード/滝口修造 訳		
参考書名4	彫刻の美				
出版社名	中央公論美術出版	著者名	本郷新		
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
彫刻家として、また芸術系大学で制作研究および教育活動を行ってきた経験を活かし、彫刻造形指導及び創作理念を指導する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション
2	実制作およびレポート作成
3	実制作およびレポート作成
4	実制作およびレポート作成
5	実制作およびレポート作成
6	実制作およびレポート作成
7	実制作およびレポート作成
8	実制作およびレポート作成
9	実制作およびレポート作成
10	実制作およびレポート作成
11	実制作およびレポート作成
12	実制作およびレポート作成
13	実制作およびレポート作成
14	実制作およびレポート作成
15	まとめ

科目名	デザイン研究演習1	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 前期	形態	演習		
教員名	高橋 善丸				
クラス名					
授業目的と到達目標					
グラフィックデザインは合目的性のあるアートと言える。それは、目的に対する論理的構築と表現感性の両輪から成り立っているからであり、どちらも不可欠な要素である。加えて、メディア環境の中で成立している以上、メディアが進化することで、その在り方も大きく変化していく。これら時代とリンクし時代を見据えた設計が、豊かな文化をも形成していくという意識を持ってもらいたい。					
授業概要					
対面授業を基本とするが、都度状況を見て判断。ビジネス環境ではなく、研究テーマとしての目的は自身の中にあるが、結果としての表現には、発信意図に対してと情報の享受者の理解との合致が必要であるということを、忘れてはいけない。社会をシュミレーションして表現することを超えた、オリジナルな提案がどれだけ出来るかで、研究という名に相応しくなる。客観性を持った意義あるテーマの開発は、社会と自身の思考と授業の相互交換の中で醸成されていくべきである。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
研究の成就是、お互いのレスポンスにて、クオリティが磨かれる。一方が粗であれば、着実な進展が望めないのはもちろんである。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
取り組む意識			40		
提案の幅と作品			60		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	こちいい文字				
出版社名	パイインターナショナル	著者名	高橋善丸		
参考書名2	こちいい本				
出版社名	パイインターナショナル	著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					

出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
実務経験:グラフィックデザイナー・アートディレクターとして事務所経営をし、加えて展覧会、コンペ、講演、審査員、著作書籍など様々な経験を生かし包括的指導する。			
教員実務経験			
kokokumaru.com			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	<p>前期、研究テーマを設定し、リサーチと考察を繰り返す。 (グラフィックデザインは、メディアを超えてプログラムへと領域を拡大している。即ち、高いクオリティ表現を追求することは勿論として、それに計画して設計することの重要性に重心が移行していると言える。前期はこれらの視点を養うことに重点を置く。)</p> <p>後期、研究テーマの論理的確立をし、シミュレーションで検証。 (自分の視点からの論理立ても、繰り返し実験を積み重ねて検証しなければ、客観性が得られない。ここでは、揺るぎない構築を目指す。)</p> <p>学内ギャラリーにおいて、中間成果としての発表を行う。</p>		

科目名	デザイン研究演習1	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	澄川 伸一				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>プロダクトデザインは今、テクノロジーの進化とともに大きく変化しています。IOT サービス、シェアリング、ロボティクス、AI デザインと、従来のデザインプロセス自体を変えないと、プロダクトが成立しません。この演習では、新たなデザインプロセスを体系的に学び、かつ普遍的な UX デザインなども復習します。現代社会に必要なとされる総合力の体得を到達目標とします。</p>					
授業概要					
<p>[対面 502 教室] 卒業研究テーマを思考し、その検証も兼ねて複数の先行研究調査、企画構想、仮説検証のためのプロトタイプ制作などを実践していきます。研究を深め、多くのトライ&エラーを通して研究テーマを研澄まし、魅力ある成果物になるための授業を進めていきます。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>高度なデザイン領域の考察と研究を、極力わかりやすい事例紹介を通して行います。関連書籍などから知見を得て、授業に参加ください。机上研究のみでなくリアルな実体験研究を加えることを望みます。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題提出や授業の取組みなどを総合的に評価します。			100		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項

教員実務経験

プロダクトデザイナー・大阪芸術大学 教授
 フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』WIKIPORTFOLIO
 コラム「澄川伸一デザイン道場」
 ▼プロフィール
 千葉大学工学部卒業後、ソニー本社デザインセンター、アメリカデザインセンターで、ウォークマン、ラジオ、TVなどをデザイン。
 1991年澄川伸一デザイン事務所設立、代表兼デザイナー現在に至る。
 2016 リオ・オリンピック,2020 東京オリンピック公式卓球台をデザインし世界中の話題となる
 2017 年子供向け大型遊具「マウンテン」がドイツ IF デザイン賞受賞。その他、REDDOT,グッドデザイン賞など受賞歴多数あり。
 バックパッカーとして世界 57ヶ国の滞在経験を活かし、固定概念にとらわれないデザインを実践。
 工学部系デザイナーとして三次元 CAD、プリンターをフル活用した幾何学スキルで心地よい曲面設計を得意とする。現在も、最先端の機器から伝統工芸まで幅広いジャンルをデザイン。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	ガイダンス
2	デザイン研究研究テーマの確認 方向性
3	デザイン研究
4	デザイン研究
5	デザイン研究
6	デザイン研究
7	デザイン研究中間チェック
8	デザイン研究
9	デザイン研究
10	デザイン研究
11	デザイン研究
12	デザイン研究
13	デザイン研究
14	デザイン研究
15	デザイン研究総括

科目名	デザイン研究演習2	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	高橋 善丸				
クラス名					
授業目的と到達目標					
グラフィックデザインは合目的性のあるアートと言える。それは、目的に対する論理的構築と表現感性の両輪から成り立っているからであり、どちらも不可欠な要素である。加えて、メディア環境の中で成立している以上、メディアが進化することで、その在り方も大きく変化していく。これら時代とリンクし時代を見据えた設計が、豊かな文化をも形成していくという意識を持ってもらいたい。					
授業概要					
対面授業。ビジネス環境ではなく、研究テーマとしての目的は自身の中にあるが、結果としての表現には、発信意図に対してと情報の享受者の理解との合致が必要であるということ、忘れてはいけない。社会をシュミレーションして表現することを越えた、オリジナルな提案がどれだけ出来るかで、研究という名に相応しくなる。客観性を持った意義あるテーマの開発は、社会と自身の思考と授業の相互交換の中で醸成されていくべきである。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
研究の成就是、お互いのレスポンスにて、クオリティが磨かれる。一方が粗であれば、着実な進展が望めないのはもちろんである。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
取り組む意識			40		
提案の幅と作品			60		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	こちいい文字				
出版社名	パイインターナショナル	著者名	高橋善丸		
参考書名2	こちいい本				
出版社名	パイ インターナショナル	著者名	高橋善丸		
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			

参考 URL	
特記事項	
実務経験: グラフィックデザイナー・アートディレクターとして事務所経営をし、加えて展覧会、コンペ、講演、審査員、著作書籍など様々な経験を生かし包括的指導する。	
教員実務経験	
kokokumar.com	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	<p>前期、研究テーマを設定し、リサーチと考察を繰り返す。 (グラフィックデザインは、メディアを超えてプログラムへと領域を拡大している。即ち、高いクオリティ表現を追求することは勿論として、それに計画して設計することの重要性に重心が移行していると言える。前期はこれらの視点を養うことに重点を置く。)</p> <p>後期、研究テーマの論理的確立をし、シミュレーションで検証。 (自分の視点からの論理立ても、繰り返し実験を積み重ねて検証しなければ、客観性が得られない。ここでは、揺るぎない構築を目指す。)</p> <p>学内ギャラリーにおいて、中間成果としての発表を行う。</p>

科目名	デザイン研究演習2	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	澄川 伸一				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>プロダクトデザインは今、テクノロジーの進化とともに大きく変化しています。IoT サービス、シェアリング、ロボティクス、AI デザインと、従来のデザインプロセス自体を変えないと、プロダクトが成立しません。この演習では、新たなデザインプロセスを体系的に学び、かつ普遍的な UX デザインなども復習します。現代社会に必要とされる総合力の体得を到達目標とします。後半部分なのでより、細部まで詳しく研究します。</p>					
授業概要					
<p>[対面授業] 修士テーマを思考し、その検証も兼ねて複数の先行研究調査、企画構想、仮説検証のためのプロトタイプ制作などを実践していきます。研究を深め、多くのトライ&エラーを通して研究テーマを研澄まし、魅力ある成果物になるための授業を進めていきます。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>高度なデザイン領域の考察と研究を、極力わかりやすい事例紹介を通して行います。関連書籍などから知見を得て、授業に参加ください。机上研究のみでなくリアルな実体験研究を加えることを望みます</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題提出や授業の取組みなどを総合的に評価します。					
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項

教員実務経験

プロダクトデザイナー・大阪芸術大学 教授
 フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』
 {WIKI,<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%BE%84%E5%B7%9D%E4%BC%B8%E4%B8%80>}
 {PORTFOLIO,<https://sumikawadesign.amebaownd.com/>}
 {コラム「澄川伸一デザイン道場」,<http://www.pdweb.jp/column/index.shtml>}
 ▼プロフィール
 千葉大学工学部卒業後、ソニー本社デザインセンター、アメリカデザインセンターで、ウォークマン、ラジオ、TVなどをデザイン。
 1991年澄川伸一デザイン事務所設立、現在に至る。グッドデザイン賞審査員を13年務める、うちユニット長も数多く務めた。また様々な企業のデザイン戦略のアドバイザーも務める。
 2016 リオ・オリンピック,2020 東京オリンピック公式卓球台を二大会連続デザインし世界中の話題となる。卓球台は高校の美術の教科書に名前入りで掲載された。日本文教出版「高校生の美術 3」光村図書「美術 3」など
 2017年子供向け大型遊具「マウンテン」がドイツ IF デザイン賞受賞。その他、REDDOT,グッドデザイン賞など受賞歴多数あり。
 ベネッセ進研ゼミのタブレットなどメイン教具をデザイン担当、その多くは TVCMなどで放映されている。
 学生時代よりバックパッカーとして世界 57ヶ国の滞在経験を活かし、固定概念にとらわれないデザインを実践。また、スキューバダイビング PADI アドバンスライセンスあり。
 工学部系デザイナーとして三次元 CAD、プリンターをフル活用した幾何学スキルで心地よい曲面設計を得意とする。現在も、最先端の機器から伝統工芸まで幅広いジャンルをデザイン。

授業計画 (各回予定)

授業回	授業内容
1	ガイダンス
2	デザイン研究
3	デザイン研究
4	デザイン研究
5	デザイン研究
6	デザイン研究
7	デザイン研究
8	デザイン研究
9	デザイン研究
10	デザイン研究
11	デザイン研究
12	デザイン研究
13	デザイン研究
14	デザイン研究
15	デザイン研究 総括

科目名	工芸研究演習1	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 前期	形態	演習		
教員名	館 正明				
クラス名					
授業目的と到達目標					
現代染織造形の分野では様々な作品が生み出されている。その中で各自が当分野における立ち位置を見つけることを目的とし、建学の精神の国際的視野に立っての展開に基づき、伝統の形式に囚われることなく、各自の感性と素材や技法、プロセスに立脚した制作を確立し新しい芸術の伝統を展開することを目標とする。					
授業概要					
受講生とのミーティングをつねにおこない、報告・連絡・相談・意見交換を随時すすめる。 現代染織の国際動向、時事問題も適時とりあげる。 前・後期末に作品提出、合評をおこなう。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
教室で課題のみにとりくむのではなく、視野をひろめるために、展覧会観賞や見学、あるいは各種イベントなどに積極的にでかけよう。 月一回、美術館・ギャラリー巡りのレポートを提出。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品提出			70		
月毎のレポート			30		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

館 正明 TATE masaaki Art Works,tatemasaaki.jimdofree.com 小野山和代 布にひそむ表情をひきだす,http://www.pulling21.com	
特記事項	
染織家として国内外の展覧会での自らの経験を交えながら現代染織造形の動向を講義し、テキスタイルコンペや個展開催等を目指すような染織作品を指導する。	
教員実務経験	
染色家の教員が制作、発表で得た知見を生かし現代染織の表現について指導する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
2	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
3	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
4	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
5	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
6	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
7	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
8	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
9	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
10	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
11	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
12	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
13	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。

	必要に応じて随時スライドをおこなう。
14	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
15	合評

科目名	工芸研究演習1	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	長谷川 政弘				
クラス名					
授業目的と到達目標					
研究テーマを進めていく上において必要となる高度な金属工芸技法の習得と、更に表現力を高めるために新しい発想を持って技法の開発を目指す。					
授業概要					
作品制作をするにあたって必要となってくるコンセプトを教員と話し合いながらしっかり固める。 制作計画を立て教員と意見を交わしながら制作を進める。 完成作品を展覧会形式で展示し作品を前にして指導教員以外の人たちとディスカッションの場を持つ。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
視野を広げるために美術館、博物館、ギャラリーなどに赴き、金属作品だけではなく様々な素材の工芸作品や美術作品を鑑賞し見聞を広める。感動を受けた作品に出会えたら、それがどのようによかったのかを論理的に説明できるように習慣付けること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
完成作品			80		
制作への取り組み方			20		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

長谷川政弘金属彫刻 https://masaab.sakura.ne.jp	
特記事項	
教員実務経験	
長谷川政弘:金属工芸家、金属彫刻家である教員が豊富な経験を活かしてより深みのある表現ができるよう指導する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	研究テーマに沿った前期作品のコンセプトや制作技法、制作計画などを話し合う。
2	前回の話し合いを踏まえた研究計画書と制作計画書を提出し再度話し合う。
3	研究テーマに沿った素材の確認と研究、技術的な研究。
4	研究テーマに沿った素材の確認と研究、技術的な研究。
5	作品実制作
6	作品実制作
7	作品実制作
8	作品実制作
9	作品実制作
10	現段階での制作状況の中間チェック
11	作品実制作
12	作品実制作
13	作品実制作
14	作品実制作
15	合評

科目名	工芸研究演習1	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	山野 宏				
クラス名					
授業目的と到達目標					
ガラス工芸作家を目指し、個性ある制作スタイルの確立を目指す。					
授業概要					
対面授業教員との討論を通し制作スタイルを模索する。 作品についての論文記述を通し制作スタイルを検証し、シリーズ作品制作を目指す。 制作作品を展覧会場に展示し、講評会、自己評価を通しさらなる作品のレベルアップを目指す。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
制作アイデアスケッチをしっかり描き、指導教員とのコミュニケーションをしっかりはかる。 論文は自宅ですっきり記述してくる事。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験	
ガラス工芸作家 ガラス工房経営	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイダンス/前期の作品制作の方向性について個人で話す。
2	個人面談/制作の方向性について。
3	制作コンセプトについての第一回目の文章提出。
4	文章についての討論、校正。
5	個人面談、制作アドバイス
6	個人面談、制作アドバイス
7	制作コンセプトについての第二回目の文章提出。
8	文章についての討論、校正。
9	個人面談、制作アドバイス
10	個人面談、制作アドバイス
11	個人面談、制作アドバイス
12	個人面談、制作アドバイス
13	個人面談、制作アドバイス
14	個人面談、制作アドバイス 作品展示アドバイス
15	前期講評会

科目名	工芸研究演習1	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	田嶋悦子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
陶における、やきものの本質とは何か？陶芸素材のもつ特質や技法の研究を深め、各自の個性豊かな作品表現を目指す。創作者としての意識を高めることを目標とする。					
授業概要					
陶芸における造形は、伝統を基盤とした作品や新たな表現の可能性を追求するなど多様であり、現在は陶芸分野を超える広がりを見せている。教員と受講生の意見交換を主軸に研究および制作を行う。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
美術館および画廊で開催される展覧会の作品鑑賞。専門分野以外の表現活動へも興味を持ち視野を広げる。コミュニケーションを積極的に行う。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品			80		
提出物			10		
授業に取り組む態度			10		
教科書					
教科書1					
出版社名			著者名		
教科書2					
出版社名			著者名		
教科書3					
出版社名			著者名		
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名			著者名		
参考書名2					
出版社名			著者名		
参考書名3					
出版社名			著者名		
参考書名4					
出版社名			著者名		
参考書名5					
出版社名			著者名		
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
田嶋悦子: 陶芸家。現代陶芸作家としての活動や経験を活かした指導を行う。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイダンス
2	研究目標および計画についての面接指導
3	プレゼンテーション
4	プレゼンテーション、アイデアスケッチおよびマケット制作
5	プレゼンテーション、アイデアスケッチおよびマケット制作
6	素材研究
7	素材研究
8	作品制作
9	作品制作
10	作品制作
11	作品制作
12	作品制作
13	作品に応じた焼成方法の検討
14	作品に応じた焼成方法の検討
15	講評

科目名	工芸研究演習2	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	館 正明				
クラス名					
授業目的と到達目標					
現代染織造形の分野では様々な作品が生み出されている。その中で各自が当分野における立ち位置を見つけることを目的とし、建学の精神の国際的視野に立っての展開に基づき、伝統の形式に囚われることなく、各自の感性と素材や技法、プロセスに立脚した制作を確立し新しい芸術の伝統を展開することを目標とする。					
授業概要					
受講生とのミーティングをつねにおこない、報告・連絡・相談・意見交換を随時すすめる。 現代染織の国際動向、時事問題も適時とりあげる。 前・後期末に作品提出、合評をおこなう。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
教室で課題のみにとりくむのではなく、視野をひろめるために、展覧会観賞や見学、あるいは各種イベントなどに積極的にでかけよう。 月一回、美術館・ギャラリー巡りのレポートを提出。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品提出			70		
月毎のレポート			30		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

館 正明 TATE masaaki Art Works,tatemasaaki.jimdofree.com 小野山和代 布にひそむ表情をひきだす,http://www.pulling21.com	
特記事項	
染織家として国内外の展覧会での自らの経験を交えながら現代染織造形の動向を講義し、テキスタイルコンペや個展開催等を目指すような染織作品を指導する。	
教員実務経験	
染色家の教員が制作、発表で得た知見を生かし現代染織の表現について指導する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
2	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
3	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
4	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
5	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
6	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
7	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
8	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
9	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
10	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
11	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
12	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
13	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。

	必要に応じて随時スライドをおこなう。
14	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
15	合評

科目名	工芸研究演習2	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	長谷川 政弘				
クラス名					
授業目的と到達目標					
研究テーマを進めていく上において必要となる高度な金属工芸技法の習得と、更に表現力を高めるために新しい発想を持って技法の開発を目指す。					
授業概要					
作品制作をするにあたって必要となってくるコンセプトを教員と話し合いながらしっかり固める。 制作計画を立て教員と意見を交わしながら制作を進める。 完成作品を展覧会形式で展示し作品を前にして指導教員以外の人たちとディスカッションの場を持つ。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
視野を広げるために美術館、博物館、ギャラリーなどに赴き、金属作品だけではなく様々な素材の工芸作品や美術作品を鑑賞し見聞を広める。感動を受けた作品に出会えたら、それがどのようによかったのかを論理的に説明できるように習慣付けること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
完成作品			80		
制作への取り組み方			20		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

長谷川政弘金属彫刻 https://masaab.sakura.ne.jp	
特記事項	
教員実務経験	
長谷川政弘:金属工芸家、金属彫刻家である教員が豊富な経験を活かしてより深みのある表現ができるよう指導する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	研究テーマに沿った前期作品のコンセプトや制作技法、制作計画などを話し合う。
2	前回の話し合いを踏まえた研究計画書と制作計画書を提出し再度話し合う。
3	研究テーマに沿った素材の確認と研究、技術的な研究。
4	研究テーマに沿った素材の確認と研究、技術的な研究。
5	作品実制作
6	作品実制作
7	作品実制作
8	作品実制作
9	作品実制作
10	現段階での制作状況の中間チェック
11	作品実制作
12	作品実制作
13	作品実制作
14	作品実制作
15	合評

科目名	工芸研究演習2	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	田嶋 悦子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
今までの研究をさらに推し進めながら制作を行い、創作者としての意識を高めることを目標とする。					
授業概要					
教員と受講生の意見交換を主軸に研究および制作を行う。展示会場に作品展示。記述文章の検証。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
美術館および画廊で開催される展示会の作品鑑賞。専門分野以外の表現活動へも興味を持ち視野を広げる。コミュニケーションを積極的に行う。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品			80		
提出物			10		
授業に取り組む姿勢			10		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

田嶋悦子：陶芸家。現代陶芸作家としての活動や経験を活かした指導を行う。	
授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	研究の経過報告
2	研究目標および計画についての面接指導
3	展示計画の検討
4	素材研究および作品制作
5	素材研究および作品制作
6	素材研究および作品制作
7	素材研究および作品制作
8	素材研究および作品制作
9	素材研究および作品制作
10	作品焼成
11	作品焼成
12	作品完成への最終工程
13	作品の展示計画および備品制作
14	作品の展示計画および備品制作
15	講評

科目名	工芸研究演習2	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	山野 宏				
クラス名					
授業目的と到達目標					
ガラス工芸作家を目指し、個性ある制作スタイルの確立を目指す。					
授業概要					
対面授業教員との討論を通し制作スタイルを模索する。作品についての論文記述を通し制作スタイルを検証し、シリーズ作品制作を目指す。制作作品を展覧会場に展示し、講評会、自己評価を通しさらなる作品のレベルアップを目指す。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
制作アイデアスケッチをしっかりと描き、指導教員とのコミュニケーションをしっかりとる。論文は自宅でしっかりと記述してくる事。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験	
ガラス工芸作家 ガラス工房経営	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイダンス/前期の作品制作の方向性について個人で話す。
2	個人面談/制作の方向性について。
3	制作コンセプトについての第一回目の文章提出。
4	文章についての討論、校正。
5	個人面談、制作アドバイス
6	個人面談、制作アドバイス
7	制作コンセプトについての第二回目の文章提出。
8	文章についての討論、校正。
9	個人面談、制作アドバイス
10	個人面談、制作アドバイス
11	個人面談、制作アドバイス
12	個人面談、制作アドバイス
13	個人面談、制作アドバイス
14	個人面談、制作アドバイス 作品展示アドバイス
15	前期講評会

科目名	文学創作研究演習1	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 前期	形態	演習		
教員名	八薙 玉造				
クラス名	文学創作研究演習				
授業目的と到達目標					
修士作品を仕上げる。また、学生個別の目標に到達すること、ディプロマポリシーにある創造性と独創性をもった創作を行うことも目標とする。					
授業概要					
学生作品の添削と討議。二年目は修士作品の制作を行う。また、学部のゼミの作品討議への参加、藤野恵美先生の文学創作研究との合同授業、有吉玉青先生の特別講義への参加により、作品を書く力、読む力、批評する力を鍛える。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
授業内容が一定ではないため、教室変更など、UNIPA の連絡を特に気をつけて確認すること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業態度、制作物の評価。					
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験

ライトノベル作家・脚本家である教員が、実務経験から学生作品がよりよくなるように指導する。また、授業中に上がった問題点や、指導の補完として講義を行う。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	ガイダンス。授業計画。
2	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
3	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
4	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
5	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
6	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
7	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
8	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
9	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
10	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
11	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
12	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
13	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
14	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
15	前期授業のまとめ。後期の授業計画の相談など。

科目名	文学創作研究演習1	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	藤野 恵美				
クラス名					
授業目的と到達目標					
修士作品を仕上げる。また、学生個別の目標に到達すること、ディプロマポリシーにある創造性と独創性を備えた作品を作り上げることも目指します。					
授業概要					
学生作品の添削と討議を行い、書く力を高めます。また、学部のゼミの作品討議に参加したり、八薙玉造先生の文学創作研究演習との合同授業を行ったりして、作品を読む力、批評する力を鍛えます。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
授業内容が一定ではないため、教室変更など UNIPA の連絡を確認してください。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
受講態度			50		
制作物			50		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験

多数の著作を持つ小説家の教員が、プロとして作品を発表してきた経験を活かして、高度で実務的な執筆の技能を習得させる。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	ガイダンス。授業計画。
2	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
3	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
4	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
5	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
6	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
7	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
8	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
9	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
10	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
11	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
12	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
13	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
14	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
15	前期授業まとめ。後期の計画。

科目名	文学創作研究演習2	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	八薙 玉造				
クラス名	文学創作研究演習				
授業目的と到達目標					
修士作品を仕上げる。また、学生個別の目標に到達すること、ディプロマポリシーにある創造性と独創性をもった創作を行うことも目標とする。					
授業概要					
学生作品の添削と討議。二年目は修士作品の制作を行う。また、学部のゼミの作品討議への参加、藤野恵美先生の文学創作研究との合同授業、有吉玉青先生の特別講義への参加により、作品を書く力、読む力、批評する力を鍛える。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
授業内容が一定ではないため、教室変更など、UNIPA の連絡を特に気をつけて確認すること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業態度、制作物の評価。					
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験

ライトノベル作家・脚本家である教員が、実務経験から学生作品がよりよくなるように指導する。また、授業中に上がった問題点や、指導の補完として講義を行う。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
2	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
3	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
4	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
5	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
6	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
7	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
8	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
9	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
10	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
11	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
12	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
13	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
14	作品の添削討議。学部ゼミの作品討議。合同授業などを行う。
15	授業まとめ。

科目名	文学創作研究演習2	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	藤野 恵美				
クラス名					
授業目的と到達目標					
修士作品を仕上げる。また、学生個別の目標に到達すること、ディプロマポリシーにある創造性と独創性を備えた作品を作り上げることも目指します。					
授業概要					
学生作品の添削と討議を行い、書く力を高めます。また、学部のゼミの作品討議に参加したり、八薙玉造先生の文学創作研究演習との合同授業を行ったりして、作品を読む力、批評する力を鍛えます。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
授業内容が一定ではないため、教室変更など UNIPA の連絡を確認してください。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
受講態度			50		
制作物			50		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験

多数の著作を持つ小説家の教員が、プロとして作品を発表してきた経験を活かして、高度で実務的な執筆の技能を習得させる。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	ガイダンス。授業計画。
2	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
3	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
4	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
5	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
6	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
7	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
8	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
9	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
10	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
11	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
12	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
13	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
14	作品の添削、討議。学部ゼミの作品討議、合同授業など。
15	授業まとめ。振り返り。

科目名	器楽研究演習1-1	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度前期	形態	レッスン(個別採点)		
教員名	仲道 祐子、今川 裕代				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>それぞれの時代や様式を踏まえた演奏方法を研究することを目的とする。 楽譜を読み、どのようなテンポで演奏するのが相応しいのか、強弱の付け方、アーティキュレーション、ペダルの踏み方などを考察すると同時に表現の可能性の幅も探る。 また、自身のイメージする音楽を実際に音で奏でるために必要なテクニックを磨く。 納得のいく音楽表現を目標とする。 レッスンで取り組む曲の譜読みと練習、自身の音楽表現を磨くことを予習・復習としてください。</p>					
授業概要					
<p>90分のレッスン。個人の進度に合わせて取り組む曲を決定する。 さまざまな時代の曲を取り上げるか、一つの方向性を専門的に追求するかを相談の上、レッスンに取り組んでいきたい。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>レッスンで取り上げる曲の日々の練習を予習、復習としてください。 曲をどのように解釈するのか、その為にはどのような表現が適しているのか。 理想の表現に到達する為にはどのような練習が必要なのか、どのような技術的改善が必要なのかを常に模索しながら練習に取り組んでください。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
音楽へ取り組む姿勢			50		
レッスンにおいて、音楽的主張はできているか。			50		
教科書					
教科書1	それぞれの音楽の進度を考慮して個別に決定する。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			

参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
コンサートピアニストとしての活動、リサイタル、コンチェルト、室内楽での演奏経験を活かして実技指導をする。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	院生一人一人と相談の上、短いスパンの目標としては年度内にある本番の準備の徹底を志す。長いスパンの計画としては、長所を磨き、苦手なところはどこに原因があるのかを見極め、改善を試みていく。		

科目名	器楽研究演習1-2	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	レッスン(個別採点)		
教員名	仲道 祐子、今川 裕代				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>それぞれの時代や様式を踏まえた演奏方法を研究することを目的とする。 楽譜を読み、どのようなテンポで演奏するのが相応しいのか、強弱の付け方、アーティキュレーション、ペダルの踏み方などを考察すると同時に表現の可能性の幅も探る。 また、自身のイメージする音楽を実際に音で奏でるために必要なテクニックを磨く。 納得のいく音楽表現を目標とする。 レッスンで取り組む曲の譜読みと練習、自身の音楽表現を磨くことを予習・復習としてください</p>					
授業概要					
<p>90分のレッスン。 個人の進度に合わせて取り組む曲を決定する。 さまざまな時代の曲を取り上げるか、一つの方向性を専門的に追求するかを相談の上、レッスンに取り組んでいきたい。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>レッスンで取り上げる曲の日々の練習を予習、復習としてください。 曲をどのように解釈するのか、その為にはどのような表現が適しているのか。 理想の表現に到達する為にはどのような練習が必要なのか、どのような技術的改善が必要なのかを常に模索しながら練習に取り組んでください。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
音楽へ取り組む姿勢			0		
レッスンにおいて、音楽的主張はできているか。			0		
教科書					
教科書1	それぞれの音楽の進度を考慮して個別に決定する。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					

出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
コンサートピアニストとしての活動、リサイタル、コンチェルト、室内楽での演奏経験を活かしての実技指導をする。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	院生一人一人と相談の上、短いスパンの目標としては年度内にある本番の準備の徹底を志す。長いスパンの計画としては、長所を磨き、苦手なところはどこに原因があるのかを見極め、改善を試みていく。		

科目名	声楽研究演習1	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 前期	形態	レッスン(個別採点)		
教員名	水口 聡、永松 圭子、三原 剛				
クラス名					
授業目的と到達目標					
高度な歌唱技術を身につけ、豊かな音楽性を育む。					
授業概要					
オペラ・アリアを古典から現代までの時代も超えたあらゆる作品を取り上げ、正しいテクニックに基づいた歌唱表現を舞台上で実践できる歌手を育てる。さらに国際オペラコンクール、オペラ劇場を目指す学生の為のアドバイスを教授する。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	<p>前期正しい呼吸法のもと、歌唱において必要な自然で豊かな声を出すことを目指し、個人のキャラクターに合わせたレパートリー作りをする。</p> <p>後期オペラ、それぞれにおける様式を習得し、それを表現に結び付け、ステージ上でのマナー、表情、表現等を体得し、真の舞台人の育成を図る。</p>

科目名	声楽研究演習2	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	レッスン(個別採点)		
教員名	三原 剛、水口 聡、永松 圭子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
高度な歌唱技術を身につけ、豊かな音楽性を育む。					
授業概要					
オペラ・アリアを古典から現代までの時代も超えたあらゆる作品を取り上げ、正しいテクニックに基づいた歌唱表現を舞台上で実践できる歌手を育てる。さらに国際オペラコンクール、オペラ劇場を目指す学生の為のアドバイスを教授する。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	オペラ、それぞれにおける様式を習得し、それを表現に結び付け、ステージ上でのマナー、表情、表現を体得し、劇場、ホールで実演する。

科目名	作曲研究演習1	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	田中 久美子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
クラシック音楽を研究する上で、対位法は極めて大切な知識であり技法です。作品の中で同時に唱われる種々の対旋律がいかにあるべきかを研究し、できる限り美しく、正確で、格調の高い旋律を作る、という事を学びます。					
授業概要					
授業は「対面」で行います。広汎な対位法の学習内容の中から、まずは「単式対位法」と呼ばれる四声までを学習し、さらにフーガの分析、研究をしつつ、実際にフーガを書くことに挑みます。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
日頃より、バッハの作品に見られるようなポリフォニー様式の作品に触れて、学習意欲を高めておくことが望ましい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験

教員が国内外で多くの作品の楽譜出版、オペラ上演等されている作曲家としての経験を生かして、大編成の楽曲において複数の旋律を同時に唱わせる作曲技法を指導します。
--

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	ポリフォニーの様式で書かれた作品の分析1
2	ポリフォニーの様式で書かれた作品の分析2
3	対位法三声、演習と添削
4	対位法三声、演習と添削
5	対位法三声、演習と添削
6	対位法三声、演習と添削
7	対位法三声、演習と添削
8	対位法三声、演習と添削
9	対位法四声、演習と添削
10	対位法四声、演習と添削
11	対位法四声、演習と添削
12	対位法四声、演習と添削
13	対位法四声、演習と添削
14	対位法四声、演習と添削
15	対位法四声、演習と添削

科目名	作曲研究演習1	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	檜垣 智也				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>授業の目的は、受講者の目指す学位レベルの作品・論文の提出に向けて準備をすることです。高い完成度のオリジナル音楽作品の制作と、質の高い論文の執筆、コンサートや学会での発表ができるようになることを到達目標とします。</p>					
授業概要					
<p>作品制作と論文、及びそれらの発表のために必要なプロセスのすべてを学びます。授業内容はそれらの指導がメインです。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>・授業外で作品の制作と論文の執筆をしてください。授業ではその指導をします。 ・学内外のコンサート、学会、コンクールに積極的に参加してください。適切なものを紹介していきます。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
最終成果物			50		
授業に取り組む姿勢			50		
教科書					
教科書1	特になし(授業中に指示します)				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	特になし(授業中に指示します)				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
{檜垣智也ホームページ, http://www.musicircus.net/ }					

特記事項	
教員実務経験	
電子音響音楽作曲の専門家／研究者が、高いレベルの作品と論文、発表ができるように個別指導します。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	本授業は、基本的に「対面授業」で行うこととする。 1. ガイダンスと制作または研究題材に関する相談
2	2. 制作、論文、発表の指導
3	3. 制作、論文、発表の指導
4	4. 制作、論文、発表の指導
5	5. 制作、論文、発表の指導
6	6. 制作、論文、発表の指導
7	7. 制作、論文、発表の指導
8	8. 制作、論文、発表の指導
9	9. 制作、論文、発表の指導
10	10. 制作、論文、発表の指導
11	11. 制作、論文、発表の指導
12	12. 制作、論文、発表の指導
13	13. 制作、論文、発表の指導
14	14. 制作、論文、発表の指導
15	15. 制作、論文、発表の指導

科目名	作曲研究演習2	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	田中 久美子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
クラシック音楽を研究する上で、対位法は極めて大切な知識であり技法です。作品の中で同時に唱われる種々の対旋律がいかにあるべきかを研究し、できる限り美しく、正確で、格調の高い旋律を作る、という事を学びます。					
授業概要					
授業は「対面」で行います。広汎な対位法の学習内容の中から、まずは「単式対位法」と呼ばれる四声までを学習し、さらにフーガの分析、研究をしつつ、実際にフーガを書くことに挑みます。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
日頃より、バッハの作品に見られるようなポリフォニー様式の作品に触れて、学習意欲を高めておくことが望ましい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験

教員が国内外で多くの作品の楽譜出版、オペラ上演等されている作曲家としての経験を生かして、大編成の楽曲において複数の旋律を同時に唱わせる作曲技法を指導します。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	バッハなどポリフォニー作品のうち、特に「フーガ」の分析
2	フーガの主唱について、演習と添削
3	フーガの答唱について、演習と添削
4	フーガの対唱について、分析と演習
5	フーガの対唱について、分析と演習
6	フーガの第1提示部について、分析と演習
7	フーガの第1提示部について、分析と演習
8	フーガの第1提示部について、分析と演習
9	フーガ: 第1嬉遊部以降、分析と添削
10	フーガ: 第1嬉遊部以降、分析と添削
11	フーガ: 第1嬉遊部以降、分析と添削
12	フーガ: 全般的に、分析と添削
13	フーガ: 全般的に、分析と添削
14	フーガ: 全般的に、分析と添削
15	フーガ: 全般的に、分析と添削

科目名	作曲研究演習2	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	檜垣 智也				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>授業の目的は、受講者の目指す学位レベルの作品・論文の提出に向けて準備をすることです。高い完成度のオリジナル音楽作品の制作と、質の高い論文の執筆、コンサートや学会での発表ができるようになることを到達目標とします。</p>					
授業概要					
<p>作品制作と論文、及びそれらの発表のために必要なプロセスのすべてを学びます。授業内容はそれらの指導がメインです。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>・授業外で作品の制作と論文の執筆をしてください。授業ではその指導をします。 ・学内外のコンサート、学会、コンクールに積極的に参加してください。 適切なものを紹介していきます。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
最終成果物			50		
授業に取り組む姿勢			50		
教科書					
教科書1	特になし(授業中に指示します)				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	特になし(授業中に指示します)				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

{檜垣智也ホームページ, http://www.musicircus.net/ }	
特記事項	
教員実務経験	
電子音響音楽作曲の専門家／研究者が、高いレベルの作品と論文、発表ができるように個別指導します。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	本授業は、基本的に「対面授業」で行うこととする。 1. ガイダンスと制作または研究題材に関する相談
2	2. 制作、論文、発表の指導
3	3. 制作、論文、発表の指導
4	4. 制作、論文、発表の指導
5	5. 制作、論文、発表の指導
6	6. 制作、論文、発表の指導
7	7. 制作、論文、発表の指導
8	8. 制作、論文、発表の指導
9	9. 制作、論文、発表の指導
10	10. 制作、論文、発表の指導
11	11. 制作、論文、発表の指導
12	12. 制作、論文、発表の指導
13	13. 制作、論文、発表の指導
14	14. 制作、論文、発表の指導
15	15. 制作、論文、発表の指導

科目名	作曲研究演習3	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度 前期	形態	演習		
教員名	田中 久美子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
古典から現代までの管弦楽曲、オペラなどの分析を通じて、大編成の楽曲の構造を理解し、自らの作曲行為に生かしてゆく。					
授業概要					
授業は、「対面授業」で行います。具体的な作品を鑑賞・分析し、作品制作を行う。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
様々な形態の音楽作品に親しみ、構造を理解するように努め、作曲への意欲を高めておくことが望ましい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

教員が国内外で多くの作品の楽譜出版、オペラ上演等されている作曲家としての経験を生かして、楽曲分析や実際の作曲を指導します。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	管弦楽作品の鑑賞と分析1
2	管弦楽作品の鑑賞と分析2
3	管弦楽作品の鑑賞と分析3
4	管弦楽作品の鑑賞と分析4
5	管弦楽作品の鑑賞と分析5
6	吹奏楽作品の鑑賞と分析1
7	吹奏楽作品の鑑賞と分析2
8	吹奏楽作品の鑑賞と分析3
9	作品制作、演習と添削
10	作品制作、演習と添削
11	作品制作、演習と添削
12	作品制作、演習と添削
13	作品制作、演習と添削
14	作品制作、演習と添削
15	作品のプレゼンテーション

科目名	作曲研究演習4	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	田中 久美子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
古典から現代までの管弦楽曲、オペラなどの分析を通じて、大編成の楽曲の構造を理解し、自らの作曲行為に生かしてゆく。					
授業概要					
授業は、「対面授業」で行います。具体的な作品を鑑賞・分析し、作品制作を行う。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
様々な形態の音楽作品に親しみ、構造を理解するように努め、作曲への意欲を高めておくことが望ましい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

教員が国内外で多くの作品の楽譜出版、オペラ上演等されている作曲家としての経験を生かして、楽曲分析や実際の作曲を指導します。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	オペラの物語と音楽について
2	オペラの鑑賞と分析1
3	オペラの鑑賞と分析2
4	オペラの鑑賞と分析3
5	オペラの鑑賞と分析4
6	オペラの鑑賞と分析5
7	オペラの鑑賞と分析6
8	作品制作、演習と添削
9	作品制作、演習と添削
10	作品制作、演習と添削
11	作品制作、演習と添削
12	作品制作、演習と添削
13	作品制作、演習と添削
14	作品のプレゼンテーション
15	作品のプレゼンテーション

科目名	声楽研究演習1	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	東野 亜弥子、三原 剛				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>これまで習得してきた声楽の分野を更に追求する。自身の正しい発声を体感し、体と声をより結びつけることを目的とする。また、表現力に磨きをかけ、詩の背景を歌唱に繋げていく。 ディプロマポリシーにある「研究者及び芸術家として自立し得る能力を学修することを求める」に基づき、声楽家としてのより良い人生に繋げるため、声の研究の第一人者として、また音楽的に詩を表現できる芸術家のひとりとして、学び、成長させていくことを目的とする。</p>					
授業概要					
教員の指導のもと、個人に合った声楽作品を選び、技術を習得していく。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>毎回のレッスンの復習を必ずすること。 欠席のないよう、自己管理をすること。 毎週の課題に積極的に取り組むこと。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
声楽家、オペラ歌手としての経験を活かしたレッスンを展開する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	年間30回のレッスンを通じて、発声、レパートリーの拡大、細やかな詩の理解を追求し、レッスン形式で進めていく。 日本歌曲を中心に、様々な時代のイタリア歌曲、ドイツ歌曲、宗教曲、オペラアリアなどプログラム構成を考えながら学べるレッスンを展開する。

科目名	声楽研究演習2	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	東野 亜弥子、三原 剛				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>これまで習得してきた声楽の分野を更に追求する。自身の正しい発声を体感し、体と声をより結びつけることを目的とする。</p> <p>また、表現力に磨きをかけ、詩の背景を歌唱に繋げていく。</p> <p>声楽研究演習1で得たことを更に追求し発展させていく。</p> <p>ディプロマポリシーにある「研究者及び芸術家として自立し得る能力を学修することを求める」に基づき、声楽家としてのより良い人生に繋げるため、声の研究の第一人者として、また音楽的に詩を表現できる芸術家のひとりとして、学び、成長させていくことを目的とする。</p>					
授業概要					
教員の指導のもと、個人に合った声楽作品を選び、技術を習得していく。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>毎回のレッスンの復習を必ずすること。</p> <p>欠席のないよう、自己管理をすること。</p> <p>毎週の課題に積極的に取り組むこと。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書					
教科書1					
出版社名			著者名		
教科書2					
出版社名			著者名		
教科書3					
出版社名			著者名		
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名			著者名		
参考書名2					
出版社名			著者名		
参考書名3					
出版社名			著者名		
参考書名4					
出版社名			著者名		
参考書名5					
出版社名			著者名		

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
声楽家、オペラ歌手としての経験を活かしたレッスンを展開する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	年間30回のレッスンを通じて、発声、レパートリーの拡大、細やかな詩の理解を追求し、レッスン形式で進めていく。 日本歌曲を中心に、様々な時代のイタリア歌曲、ドイツ歌曲、宗教曲、オペラアリアなどプログラム構成を考えながら学べるレッスンを展開する。

科目名	絵画特殊研究1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 前期	形態	演習		
教員名	西田 真人				
クラス名					
授業目的と到達目標					
【前期】模写(手本は東洋の古典に限らず、世界の近・現代の絵画も含める)を通じて、各自で色や線、造形や絵画空間、様々な表現技法を探り鑑賞力、表現力を養う。					
授業概要					
前期]前半では共通課題「林潤一・寒牡丹(F10号)」を模写。その間後半の各自模写手本を決定。5回で各自の関心に応じて一点の模写制作。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
【前期】最初の共通課題で使用する日本画絵の具類は研究室で用意しますが、その後の課題は日本画以外の専攻学生は各自負担になります。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
【前期・後期】課題作品及び総合評価			100		
教科書					
教科書1	【前期】制作プロセスのカラー資料 20 枚は研究室で用意します。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	【前期】人気作家に学ぶ日本画の技法⑤花を描く 1994 年同朋舎出版				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

絵画特殊研究Ⅰの前期・後期は、それぞれ授業内容・担当教員が異なり、それぞれ前期・後期で完結している。評価基準等も異なるので注意。

教員実務経験

前期】西田真人 日本画家(公益社団法人日展特別会員)
日本画家の教員が多数の作品を制作発表してきた経験を活かし、日本画を描くための方法や技術を習得させる。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	前期】 1.【対面】前期授業内容のガイダンス
2	2.【対面】林潤一・寒牡丹(10号) 下絵のトレース、骨描き
3	3.【対面】 " 下地制作
4	4.【対面】 " 彩色 適宜個別指導
5	5.【対面】 " 彩色 適宜個別指導 次の課題についての指導
6	6.【対面】 " 彩色 適宜個別指導 "
7	7.【対面】 " 彩色 適宜個別指導 "
8	8.【対面】 " 彩色 適宜個別指導 "
9	9.【対面】 " 彩色 適宜個別指導 "
10	10.【対面】 " 仕上げ 合評会及び次回からの各自選定手本模写についての確認
11	11.【対面】各自選定手本の制作。適宜個別指導
12	12.【対面】各自選定手本の制作。適宜個別指導
13	13.【対面】各自選定手本の制作。適宜個別指導
14	14.【対面】各自選定手本の制作。適宜個別指導
15	15.【対面】各自選定手本の制作。適宜個別指導 合評会

科目名	絵画特殊研究2	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	中川 知美				
クラス名					
授業目的と到達目標					
「じぶんをまとめる」行為を起点に素材の偶発的な反応および意図的な操作をとおして造形行為がもたらす認識の変容を身体的に体験し、それにより従来の知覚が更新される契機を自らの制作活動として捉えなおす。					
授業概要					
素材間の予期せぬ相互作用を積極的に取り込み制作過程そのものを認識変容の場とする。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
準備するもの					
○ 自分で集めた「素材」(古い布・紙・木片、道端で拾ったもの、壊れた工業製品など。)					
○ 定着・接着剤(木工用ボンド、アクリルジェルメディウムなど。)					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
研究の進展とその姿勢等の総合評価			100		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験	
美術家としての長年の制作・発表活動を通して培った豊富な経験を活かして指導する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション 授業の説明
2	並べて分類① 触発される媒体集めてスクラップする 素材を集めて並べて分類する
3	並べて分類②
4	個別ミーティング① 各自が集めて来た素材を個別ミーティングにより制作の足がかりを探る
5	個別ミーティング②
6	支持体制作①
7	支持体制作②
8	支持体制作③
9	支持体制作④
10	支持体制作⑤
11	支持体制作⑥
12	支持体制作⑦
13	支持体制作⑧
14	支持体制作⑨
15	合評

科目名	絵画特殊研究3	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 前期	形態	演習		
教員名	いしだ ふみ				
クラス名	版画研究3				
授業目的と到達目標					
版画の歴史と版による表現の特色を、作家研究と版画制作等の演習を通して学ぶこと。様々な版種における版構造、および表現の特色の違いを理解する。					
授業概要					
現代版画の源は20世紀、自画・自刻・自摺りの「創作版画」と共に始まったといえるだろう。この授業では、版を表現手段にしてきた作家の研究と様々な版画の制作を通して、「版」を使用することの意味や今後の自己の制作上に「版」をどのように生かすことが出来るかを考える機会とする。また相互鑑賞を随時取り入れ、自分の作品への客観的な視点をもてるようにする。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
準備学修として、好きな版画家とその作品について資料を集めておく。 下絵が必要な版画制作の場合は予め準備する。 Adobe社のIDを取得しておくこと。 スケッチブック(クロッキー帳)持参のこと。 安全な制作、道具の片付け、作品の適切な保存に努める。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題提出作品、レポート			80		
制作・相互鑑賞への姿勢、授業態度、授業への貢献度			20		
教科書					
教科書1					
出版社名			著者名		
教科書2					
出版社名			著者名		
教科書3					
出版社名			著者名		
参考書・参考文献					
参考書名1	授業の中で案内する				
出版社名			著者名		
参考書名2					
出版社名			著者名		
参考書名3					
出版社名			著者名		
参考書名4					
出版社名			著者名		
参考書名5					

出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
受講人数制限有り。受講希望者は授業初日に出席する事。			
教員実務経験			
教員が版画作家としての経験を活かし、モノタイプ・シルクスクリーン等の表現技法を指導する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業概要説明と4版種の説明		
2	モノタイプ制作1		
3	モノタイプ制作2		
4	シルクスクリーン制作一版下作成		
5	シルクスクリーン制作一製版		
6	シルクスクリーン制作一印刷		
7	シルクスクリーン制作一印刷		
8	シルクスクリーン制作一印刷・改版		
9	モノタイプ作品・シルクスクリーン作品鑑賞、合評		
10	本学収蔵版画作品(浮世絵等)鑑賞		
11	作家研究資料収集、発表資料準備		
12	芸術を学ぶ者への問い		
13	作家研究1一版画作品の中から関心を寄せる作家を選び、研究発表および協議		
14	作家研究2一版画作品の中から関心を寄せる作家を選び、研究発表および協議		
15	作家研究3一版画作品の中から関心を寄せる作家を選び、研究発表および協議		

科目名	絵画特殊研究3	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 前期	形態	演習		
教員名	いしだ ふみ				
クラス名	版画研究3				
授業目的と到達目標					
版画の歴史と版による表現の特色を、作家研究と版画制作等の演習を通して学ぶこと。様々な版種における版構造、および表現の特色の違いを理解する。					
授業概要					
現代版画の源は20世紀、自画・自刻・自摺りの「創作版画」と共に始まったといえるだろう。この授業では、版を表現手段にしてきた作家の研究と様々な版画の制作を通して、「版」を使用することの意味や今後の自己の制作上に「版」をどのように生かすことが出来るかを考える機会とする。また相互鑑賞を随時取り入れ、自分の作品への客観的な視点をもてるようにする。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
準備学修として、好きな版画家とその作品について資料を集めておく。 下絵が必要な版画制作の場合は予め準備する。Adobe社のIDを取得しておくこと。 スケッチブック(クロッキー帳)持参のこと。安全な制作、道具の片付け、作品の適切な保存に努める。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題提出作品、レポート			80		
制作・相互鑑賞への姿勢、授業態度、授業への貢献度			20		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	授業の中で案内する				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
受講人数制限有り。受講希望者は授業初日に出席する事。	
教員実務経験	
教員が版画作家としての経験を活かし、モノタイプ・シルクスクリーン等の表現技法を指導する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業概要説明と4版種の説明
2	モノタイプ制作1
3	モノタイプ制作2
4	シルクスクリーン制作一版下作成
5	シルクスクリーン制作一製版
6	シルクスクリーン制作一印刷
7	シルクスクリーン制作一印刷
8	シルクスクリーン制作一印刷・改版
9	モノタイプ作品・シルクスクリーン作品鑑賞、合評
10	本学収蔵版画作品(浮世絵等)鑑賞
11	作家研究資料収集、発表資料準備
12	芸術を学ぶ者への問い
13	作家研究1一版画作品の中から関心を寄せる作家を選び、研究発表および協議
14	作家研究2一版画作品の中から関心を寄せる作家を選び、研究発表および協議
15	作家研究3一版画作品の中から関心を寄せる作家を選び、研究発表および協議

科目名	絵画特殊研究4	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	いしだ ふみ				
クラス名	版画研究4				
授業目的と到達目標					
版画の歴史と版による表現の特色を、版画制作の演習を通して学ぶこと。 銅版画における版構造、および表現の特色の違いを理解する。					
授業概要					
現代版画の源は20世紀、自画・自刻・自摺りの「創作版画」と共に始まったといえるだろう。 この授業では銅版画の制作を通して、銅版画の版構造を理解すると主に、「版」を使用することの意味や今後の自己の制作上に「版」をどのように生かすことが出来るかを考える機会とする。また相互鑑賞を随時取り入れ、自分の作品への客観的な視点をもてるようにする。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
下絵を予め準備する。 スケッチブック(クロッキー帳)、銅板等は持参のこと。 安全な制作、道具の片付け、作品の適切な保存に努める。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題提出作品、レポート			80		
制作・相互鑑賞への姿勢、授業態度、授業への貢献度			20		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	授業の中で案内する				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
受講人数制限有り。受講希望者は授業初日に出席する事。	
教員実務経験	
教員が版画作家としての経験を活かし、銅版画の表現技法を指導する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	銅版画試作一銅版準備, 防食材塗布
2	銅版画試作一間接法(描画・腐食)
3	銅版画試作一間接法(エッチング・アクアチント・スピットバイト)
4	銅版画制作一印刷
5	銅版画制作一防食材塗布, 版下転写
6	銅版画制作一描画
7	銅版画制作一腐食
8	銅版画制作一描画と腐食
9	銅版画制作一試刷1
10	銅版画制作一加筆と腐食
11	銅版画制作一加筆と腐食
12	銅版画制作一試刷2, 修正
13	銅版画制作一本刷
14	銅版画作品鑑賞・合評1
15	銅版画作品鑑賞・合評2, 授業の振り返りとまとめ

科目名	絵画特殊研究4	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	いしだ ふみ				
クラス名	版画研究4				
授業目的と到達目標					
版画の歴史と版による表現の特色を、版画制作の演習を通して学ぶこと。 銅版画における版構造、および表現の特色の違いを理解する。					
授業概要					
現代版画の源は20世紀、自画・自刻・自摺りの「創作版画」と共に始まったといえるだろう。 この授業では銅版画の制作を通して、銅版画の版構造を理解すると主に、「版」を使用することの意味や今後の自己の制作上に「版」をどのように生かすことが出来るかを考える機会とする。また相互鑑賞を随時取り入れ、自分の作品への客観的な視点をもてるようにする。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
下絵を予め準備する。 スケッチブック(クロッキー帳)、銅板等は持参のこと。 安全な制作、道具の片付け、作品の適切な保存に努める。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題提出作品、レポート			80		
制作・相互鑑賞への姿勢、授業態度、授業への貢献度			20		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	授業の中で案内する				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
受講人数制限有り。受講希望者は授業初日に出席する事。	
教員実務経験	
教員が版画作家としての経験を活かし、銅版画の表現技法を指導する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	銅版画試作一銅版準備, 防食材塗布
2	銅版画試作一間接法(描画・腐食)
3	銅版画試作一間接法(エッチング・アクアチント・スピットバイト)
4	銅版画制作一印刷
5	銅版画制作一防食材塗布, 版下転写
6	銅版画制作一描画
7	銅版画制作一腐食
8	銅版画制作一描画と腐食
9	銅版画制作一試刷1
10	銅版画制作一加筆と腐食
11	銅版画制作一加筆と腐食
12	銅版画制作一試刷2, 修正
13	銅版画制作一本刷
14	銅版画作品鑑賞・合評1
15	銅版画作品鑑賞・合評2, 授業の振り返りとまとめ

科目名	彫刻特殊研究1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	田丸 稔				
クラス名					
授業目的と到達目標					
修了研究へ向けて、自らの彫刻的課題と関心に基づき、特に参考にするべき既成作家もしくは先行研究の作品を取り上げ、自らの表現に反映するための考察、試作を行い、修了研究の目的、到達目標を明確化する。					
授業概要					
創作の指標となる作家研究を通じて、制作の有り様を理解することを試みた上で新たに作品の試作を行い、彫刻観、制作観の構築を試みる。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
授業時間外は1週間12時間以上、自己の制作研究に集中し、理論的考察を試みる。 研究不正防止の観点から研究倫理(研究活動における不正行為:捏造、改ざん、盗用、研究データの管理など)に関することには特に留意すること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
研究レポートおよびゼミナール形式の研究会における発表の状況に関する評価			50		
学内外での研究発表(個展および展覧会等への出品)の状況についての評価			50		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	彫刻とは何か 新装版: 特質と限界				
出版社名	日貿出版	著者名	ハーバート・リード/宇佐美英治 訳		
参考書名2	近代彫刻史				
出版社名	言叢社	著者名	ハーバート・リード/藤原えりみ 訳		
参考書名3	芸術の意味				
出版社名	みすず書房	著者名	ハーバート・リード/滝口修造 訳		
参考書名4	彫刻の美				
出版社名	中央公論美術出版	著者名	本郷新		
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
彫刻家として、また芸術系大学で制作研究および教育活動を行ってきた経験を活かし、彫刻造形指導及び創作理念を指導する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション
2	実制作およびレポート作成
3	実制作およびレポート作成
4	実制作およびレポート作成
5	実制作およびレポート作成
6	実制作およびレポート作成
7	実制作およびレポート作成
8	実制作およびレポート作成
9	実制作およびレポート作成
10	実制作およびレポート作成
11	実制作およびレポート作成
12	実制作およびレポート作成
13	実制作およびレポート作成
14	実制作およびレポート作成
15	まとめ

科目名	彫刻特殊研究2	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	田丸 稔				
クラス名					
授業目的と到達目標					
修了研究へ向けて、自らの彫刻的課題と関心に基づき、特に参考にするべき既成作家もしくは先行研究の作品を取り上げ、自らの表現に反映するための考察、試作を行い、修了研究の目的、到達目標を明確化する。					
授業概要					
前期に引き続き、創作の指標となる作家研究を通じて、制作の有り様を理解することを試みた上で新たに作品の試作を行い、彫刻観、制作観の構築を試みる。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
授業時間外は1週間12時間以上、自己の制作研究に集中し、理論的考察を試みる。 研究不正防止の観点から研究倫理(研究活動における不正行為:捏造、改ざん、盗用、研究データの管理など)に関することには特に留意すること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
研究レポートおよびゼミナール形式の研究会における発表の状況に関する評価			50		
学内外での研究発表(個展および展覧会等への出品)の状況についての評価			50		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	彫刻とは何か 新装版: 特質と限界				
出版社名	日貿出版	著者名	ハーバート・リード/宇佐美英治		
参考書名2	近代彫刻史				
出版社名	言叢社	著者名	ハーバート・リード/藤原えりみ 訳		
参考書名3	芸術の意味				
出版社名	みすず書房	著者名	ハーバート・リード/滝口修造 訳		
参考書名4	彫刻の美				
出版社名	中央公論美術出版	著者名	本郷新		
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
彫刻家として、また芸術系大学で制作研究および教育活動を行ってきた経験を活かし、彫刻造形指導及び創作理念を指導する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション
2	実制作およびレポート作成
3	実制作およびレポート作成
4	実制作およびレポート作成
5	実制作およびレポート作成
6	実制作およびレポート作成
7	実制作およびレポート作成
8	実制作およびレポート作成
9	実制作およびレポート作成
10	実制作およびレポート作成
11	実制作およびレポート作成
12	実制作およびレポート作成
13	実制作およびレポート作成
14	実制作およびレポート作成
15	まとめ

科目名	彫刻特殊研究3	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 前期	形態	演習		
教員名	本多 紀朗				
クラス名					
授業目的と到達目標					
学部における基礎的な制作研究を基に、実際に作品を設置することをシミュレーションして一歩進んだ、広い視野に立った研究を進めることを目的とする。					
授業概要					
既に設置されている作品を取り上げ、作品及び作者について論評をする。それを踏まえ、自分自身の作品に置き換えてモニュメント設置までのシミュレーションを想定し、制作の意思と意向、素材への検討等を考えデッサン、エスキース等の制作を行う。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
目的意識を持った受講態度で望む。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
提出課題の評価			80		
受講態度			20		
教科書					
教科書1	なし				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	なし				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験

本多紀朗彫刻家の教員が、数多くの制作発表と社会活動を行ってきた経験を活かし、造形力と表現力を修得させる。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	授業の説明。既に設置されている作品を取り上げ、作品及び作者に付いて考察する。
2	既に設置されている作品を取り上げ、作品及び作者に付いて考察と論評する。
3	既に設置されている作品を取り上げ、作品及び作者に付いて考察と論評する。
4	既に設置されている作品を取り上げ、作品及び作者に付いて考察と論評する。
5	既に設置されている作品を取り上げ、作品及び作者に付いて考察と論評する。
6	既に設置されている作品を取り上げ、作品及び作者に付いて考察と論評する。
7	作品の制作及び設置などの経過。
8	作品の制作及び設置などの経過。
9	作品の制作及び設置などの経過。
10	作品の制作及び設置などの経過。
11	作品の制作及び設置などの経過。
12	設置作例の具体的状況の検証。
13	設置作例の具体的状況の検証。
14	設置作例の具体的状況の検証。
15	設置作例の具体的状況の検証。

科目名	彫刻特殊研究4	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	本多 紀朗				
クラス名					
授業目的と到達目標					
学部における基礎的な制作研究を基に、実際に作品を設置することをシミュレーションして一歩進んだ、広い視野に立った研究を進めることを目的とする。					
授業概要					
既に設置されている作品を取り上げ、作品及び作者について論評をする。それを踏まえ、自分自身の作品に置き換えてモニュメント設置までのシミュレーションを想定し、制作の意思と意向、素材への検討等を考えデッサン、エスキース等の制作を行う。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
目的意識を持った受講態度で望む。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
提出課題の評価			80		
受講態度			20		
教科書					
教科書1	なし				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	なし				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験

本多紀朗彫刻家の教員が、数多くの制作発表と社会活動を行ってきた経験を活かし、造形力と表現力を修得させる。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	設置作例の具体的状況の検証。
2	設置作例の具体的状況の検証。
3	設置作例の具体的状況の検証。
4	制作の意思、意向など時には制作の依頼など色々な場合の検証。
5	制作の意思、意向など時には制作の依頼など色々な場合の検証。
6	現場(場所)の調査、確認。
7	現場(場所)の調査、確認。
8	素材の検討(素材の特徴、表現の自由度、メンテナンスの問題)
9	素材の検討(素材の特徴、表現の自由度、メンテナンスの問題)
10	形態から形体。
11	設置(据付)取り付けに係わる問題点。
12	提案(プレゼンテーション)の想定を前提に。 デッサン。
13	提案(プレゼンテーション)の想定を前提に。 現場写真。
14	提案(プレゼンテーション)の想定を前提に。 エスキース(プランとデッサン)提案
15	提案(プレゼンテーション)の想定を前提に。 エスキース(プランとデッサン)決定

科目名	デザイン特殊研究1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 前期	形態	演習		
教員名	大平 弘				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>ビジュアルコミュニケーションを目的としたグラフィックデザインは、メディア・社会環境によって手法や技術が変化します。各自の研究課題を基本におき、完成度の高い作品制作を目的にします。感覚的造形表現(独自性)とビジュアルコミュニケーションの関係を考察し、計画的な考え方やアイデアを探り、豊かな感性と個性で表現するグラフィックデザイナー・イラストレーターの育成を目標にします。</p>					
授業概要					
<p>展覧会を題材にグラフィックデザインを考察し、制作する。 ①『本の形』展に出品する[本]の制作 ②『本の形』展の告知ポスター制作 B1 サイズ</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>前期は出品作[本]の制作と告知ポスター制作が中心になります。 後期は展覧会会場の作品展示計画に移行しますので、現開催されている展覧会に分野をとわず足をはこび、どのような形で展示がおこなわれているのか、必要なグラフィックが制作されているのかを確認しておいてください。 前期作品は後期作品とまとめファイル提出をしてもらいますので、データ類は無くさないようにしてください。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
受講態度・積極的研究参加			50		
制作課題による評価			50		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					

出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
グラフィックデザイナーの実務と造形作家としての視点から、作品制作の方法や視覚伝達の技術を指導する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	課題説明 ①『本の形』展に出品する[本]の制作 ②『本の形』展の告知ポスター制作 B1 サイズ		
2	資料収集 見つける・調べる 既存の本の形にとらわれることなく、[本]を考えてみる。		
3	資料収集 見つける・調べる		
4	本の試作 検討・深める 素材の検討		
5	本の試作 改良・考えをまとめる 各自の専門性を活かした表現を考えてみる。 素材の検討		
6	本の試作 改良・考えをまとめる表現技法の検討		
7	完成作品制作(報告 検討)		
8	完成作品制作(報告 検討)		
9	完成作品制作(報告 検討・改善)		
10	本の完成/展示/合評		
11	本の完成作品を使って告知ポスターの制作 撮影:ポスターの素材として客観視する。作品の魅力を探る。		
12	本の完成作品を使って告知ポスターの制作 撮影した画像の選択、画像持参すること。 レイアウト案の作成(試作 B2 サイズ)		
13	本の完成作品を使って告知ポスターの制作 レイアウト案の作成(試作 B2 サイズ)		
14	本の完成作品を使って告知ポスターの制作 レイアウトの試作(試作 B2 サイズ)		
15	『本の形』展 展覧会 前期/展覧会で最終提出(①②)となります/合評 ① 課題 『本の形』展出品作品制作_本 ② 課題 B1 サイズ展覧会告知ポスター 後期 ③ 課題 展示計画(入口看板・サイン計画含む) ④ 課題 会場配布用 ZINE		

科目名	デザイン特殊研究2	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	大平 弘				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>ビジュアルコミュニケーションを目的としたグラフィックデザインは、メディア・社会環境によって手法や技術が変化します。各自の研究課題を基本におき、完成度の高い作品制作を目的にします。感覚的造形表現(独自性)とビジュアルコミュニケーションの関係を考察し、計画的な考え方やアイデアを探り、豊かな感性と個性で表現するグラフィックデザイナー・イラストレーターの育成を目標にします。</p>					
授業概要					
『本の形』展 指定した会場に必要な導線を考えたサイン計画、作品展示(案)、サイン計画などを制作する。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>各自の研究分野をもとに授業の組み立てをします。制作は各自の感覚的表現から始まるものですが、その視野を広げることは制作を続けるためにとても大切です。美術を含む他造形表現、画材、材料、技法にめをくばり表現の幅を広げるように心がけてください。さらに、多くの展覧会に足を運び、展示方法・会場風景も観察の対象としてください。合わせて「展覧会」に関わるポスター・チラシ、ダイレクトメール、冊子などを収集しておいてください。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
受講態度・積極的研究参加			50		
制作課題による評価			50		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					

出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
グラフィックデザイナーの実務と造形作家としての視点から、作品制作の方法や視覚伝達の技術を指導する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	後期/課題説明 ① 課題 展示計画(入口看板・サイン計画含む) ② 課題 会場配布用 ZINE の制作		
2	資料収集 見つける・調べる 空間の確認(指定教室の実寸確認)、資料収集		
3	展示方法を検討する 展示会場のサイズを確認する ZINE の試作 検討 サイズと形態、紙・素材の検討		
4	展示方法を検討する ZINE の試作 検討・深める レイアウト案の作成		
5	展示計画を検討する ZINE の試作 改良・考えをまとめる レイアウトの確認/●実寸サイズの試作プレゼンテーション		
6	展示計画を検討する/サイン計画資料収集 作品制作(報告)		
7	サイン計画資料収集 作品制作(報告)		
8	サイン計画・ZINE 制作(報告)		
9	サイン計画・ZINE 制作(報告 検討)		
10	サイン計画・ZINE 制作(報告 改善)		
11	ZINE の完成/プレゼンテーション/合評		
12	展示計画・サイン計画をまとめる 1		
13	展示計画・サイン計画をまとめる 2		
14	展示計画・サイン計画をまとめる 3		
15	『本の形』展 展覧会 前期・後期の作品展示 前期 ① 課題 『本の形』展出品作品制作 本 ② 課題 B1 サイズ展覧会告知ポスター 後期 ③ 課題 展示計画(入口看板・サイン計画含む) ④ 課題 会場配布用 ZINE ①～④を A4 ファイルにまとめ提出		

科目名	デザイン特殊研究3	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 前期	形態	演習		
教員名	福武 徹				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>本授業では、ユーザーインターフェース(UI)およびユーザーエクスペリエンス(UX)デザインの基礎的な考え方を学び、ユーザー体験を設計する視点から課題発見および改善提案を行うための方法を習得することを目的とする。</p> <p>また、Figmaを用いた簡易的なプロトタイプングを通じて、研究活動における成果物の可視化やプレゼンテーションに活用可能なUI設計手法の基礎を身につける。</p> <p>本授業の履修を通じて、以下の到達を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> UI/UXデザインの基本概念を理解する 日常的なサービスやプロダクトの体験を分析する視点を 					
授業概要					
<p>本授業では、UI/UXデザインの基本概念および体験設計のプロセスを学び、日常生活におけるサービスやプロダクトを対象とした課題分析と改善提案を行う。</p> <p>近年、デザインの対象は製品やグラフィックにとどまらず、サービスやシステムの利用体験そのものへと拡張している。本授業では、こうした体験設計の考え方を基礎から理解するとともに、Figmaを用いたプロトタイプングを通じて、UIの構造を可視化する手法を実践的に学ぶ。</p> <p>本研究の進行に配慮し、授業内での演習を中心とした構成とする。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> 授業ではノートパソコンを使用するため、毎回必ず持参すること。 授業内での演習を中心に進めるため、授業時間内での作業に積極的に取り組むこと。 授業外においても簡単な振り返りや修正作業を行うことが望ましい。 					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
スキル習熟度判定			40		
課題提出状況			60		
教科書					
教科書1					
出版社名			著者名		
教科書2					
出版社名			著者名		
教科書3					
出版社名			著者名		
参考書・参考文献					
参考書名1	UX デザインを始める本				
出版社名	株式会社翔泳社		著者名	玉飼真一(著)、村上竜介(著)、佐藤哲(著)、太田文明(著)、常盤晋作(著)	
参考書名2					
出版社名			著者名		

参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
<p>担当教員は HCD-Net 認定の人間中心設計専門家であり、UX デザインの実務経験豊富なプロフェッショナルです。通信機器やアプリのデザインにおいて培った実務経験を活かし、本授業では理論だけでなく、実際の製品開発プロセスに沿った実践的なスキルを学びます。授業を通して、学生はユーザー研究、プロトタイピングなど、ユーザー中心のデザインプロセス全般に関わる技術を学び、実際のプロジェクトに応用する力を養うことを目指します。</p>			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス/UI・UX デザインの基礎概念		
2	UI・UX デザインの基礎		
3	テーマ設定と企画立案 1		
4	テーマ設定と企画立案 2 企画の練り込み		
5	ユーザー体験の設計 ペルソナ、シナリオ、カスタマージャーニーマップ		
6	ユーザー体験の設計 ペルソナ、シナリオ、カスタマージャーニーマップ		
7	画面設計 1		
8	画面設計 2		
9	プロトタイピング		
10	ユーザーテスト		
11	中間発表		
12	UI 改善		
13	最終デザインの作成		
14	最終デザインの作成		
15	最終発表		

科目名	デザイン特殊研究4	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	石津 勝				
クラス名	大学院				
授業目的と到達目標					
<p>展示という観点から自身の研究テーマに沿った中で作品制作を行い、学内に止まらず学外に発表の場を設けることで、より社会に近づいた研究へとフィードバックできることを目的とする。あくまで自身の研究へ役立てることを常に意識しながらも、他領域や異分野への視野も獲得できるように心掛ける。</p>					
授業概要					
<p>受講者自身の研究課題の確立に役立つことを最優先し、課題設定からデザインの方向性の確立、最終的に展示空間を意識した課題作品の発表へと繋げる。そして受講者たち自身が企画する学外での発表の場を設ける。また、関連したコンペ等があれば、それらに応募することも積極的に推奨する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>課題制作の内容については教員の確認をとること。適時プリントを配布するので、事前に必要な予習を行い、必要な準備物も用意すること。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
提出された課題作品及び主体的な授業参加を総合的に評価			100		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
空間デザイナーである教員が、多数の展示設計の実務経験を活かし、実践的な場面を想定した展示デザインに関わる指導を行う。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	課題のテーマ設定／課題設定のための調査・分析
2	設定テーマの調査・分析から企画・構想(6W2H)
3	企画・構想(アイデアからデザインの方向性決定)
4	表現内容のシナリオ設定
5	シナリオからコンセプトワーク
6	コンセプトに沿った計画・設計(PDCAサイクル)
7	コンセプトに沿った計画・設計(PDCAサイクル)
8	コンセプトに沿った計画・設計(PDCAサイクル)
9	表現内容(課題作品)作成
10	表現内容(課題作品)作成
11	表現内容(課題作品)作成
12	表現内容(課題作品)ブラッシュアップ
13	表現内容(課題作品)ブラッシュアップ
14	表現内容(提出課題)提出 ※受講者の発表の場を設定
15	講評／授業のまとめ

科目名	デザイン特殊研究5	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 前期	形態	演習		
教員名	道田 健				
クラス名					
授業目的と到達目標					
研究テーマは人と社会の間にある課題を探し出し、改善することでより良い暮らしにしていけるプロセスに焦点を当てること。プロダクトデザインは人が何かを実現するために常に貢献してきたが、結果だけにとらわれず、絶え間なく変化する周辺環境の中で柔軟な解決策を提示できるような思考を養っていく。					
授業概要					
自身の研究テーマに合わせた、プロトタイプ制作を行う。製品デザインが、背景、ターゲット、マテリアル、細かな目的によって変化することを体験する。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験

【道田 健】楽器メーカーのプロダクトデザイン部門に勤務後、独立してプロダクトデザイナーとして製品デザインや地場産業での商品開発、企業のデザインコンサルティングなどを行う。受賞歴：G マーク、レッドドットデザイン賞、IF デザイン賞など。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	ガイダンス、 授業の進め方、各自の専門領域のヒヤリング、
2	課題テーマ、 リサーチの手法と進め方①
3	リサーチの手法と進め方②
4	過去の事例探し、
5	目的、社会背景、ペルソナ ①
6	目的、社会背景、ペルソナ ②
7	目的、社会背景、ペルソナ ③
8	リサーチのまとめ
9	コンセプトを可視化する
10	製品の条件と仕様①
11	製品の条件と仕様②
12	プロトタイプ制作①
13	プロトタイプ制作②
14	仮説の検証
15	まとめと振り返り

科目名	デザイン特殊研究6	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	道田 健				
クラス名					
授業目的と到達目標					
研究テーマは人と社会の間にある課題を探し出し、改善することでより良い暮らしにしていけるプロセスに焦点を当てること。プロダクトデザインは人が何かを実現するために常に貢献してきたが、結果だけにとらわれず、絶え間なく変化する周辺環境の中で柔軟な解決策を提示できるような思考を養っていく。前期の研究を踏まえて後期はより具体的な改善方法を探っていく。					
授業概要					
大学院での研究テーマに合わせて、調査をまとめ、仮設の検証を行うためのプロトタイプ制作などを実践していく。後期はプロトタイプ制作を通しての検証作業に重点を置く。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
研究内容については教員と相談、確認をとって進めること。毎回の授業には、調べたこと、研究したことを他人に見せる書式にまとめて来ること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
取組みと研究成果を見て総合的に判断します。			100		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	テーマ探しとリサーチ①
2	テーマ探しとリサーチ②
3	社会課題について
4	テーマと社会課題のすり合わせ
5	ストーリーボード①
6	ストーリーボード②
7	マテリアル研究①
8	マテリアル研究②
9	ユーザーにとっての価値を考える
10	製品デザインが環境から受ける影響について
11	プロトタイプ制作①
12	プロトタイプ制作②
13	プロトタイプ制作③
14	仮説の検証、改善点の確認
15	まとめと展望

科目名	工芸特殊研究1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	三木 陽子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>やきものの制作プロセスを通じて、必要とされる基礎的知識と技法を、実際の制作を通じて習得する。 また古代から人の生活を支え、芸術や文化を担ってきた歴史あるやきものに触れることにより、受講生が新たな視点を獲得し、自身の研究を深めることを目指す。</p>					
授業概要					
<p>前期: 代表的な3種の技法、手びねり技法、タタラ技法、鑄込み技法を用いた基礎的な課題を行うことで、素材への理解を深め、体感する。 後期: 前期で学んだ技法を用い、自身の研究と関連する作品を制作する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>やきものの要となる焼成に向けて、受講生全員の制作進行を合わせなければならない為、できるだけ出席すること。 受講中は制作に適した服装で臨んでください。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品			70		
授業に取り組む姿勢			30		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

{担当教員: 三木陽子 website, http://www.mikiyoko.com }	
特記事項	
シラバスについて: 履修者の人数や経験や状況に応じ、内容が一部変更になる可能性があります。	
教員実務経験	
陶芸作家・造形作家としての活動や経験を活かした指導を行う。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業概要、陶磁器制作プロセス説明 講義: 教員(三木陽子)研究プレゼンテーション(自作について)
2	触覚体験: 土練り、掌中のオブジェ制作(講義と実習)
3	受講生による研究プレゼンテーション(人数により回数変更有り)
4	受講生による研究プレゼンテーション(人数により回数変更有り)
5	制作 A: 「筒型を基本とした造形」 手びねり技法による制作
6	制作 A: 「筒型を基本とした造形」 触覚による加飾・仕上げ→乾燥
7	制作 B: 「箱型を基本とした造形」 タタラ板を利用した粘土板制作・型紙制作
8	制作 B: 「箱型を基本とした造形」 粘土板組み立て
9	制作 B: 「箱型を基本とした造形」 仕上げ→乾燥
10	制作 C: 1 面型による鑄込み成形 原型制作
11	制作 C: 1 面型による鑄込み成形 原型制作→石膏型制作
12	制作 C: 1 面型による鑄込み成形 ・石膏型制作・制作 A.B: 素焼き(窯詰め)
13	制作 C: 1 面型による鑄込み成形 石膏型の仕上げ(鑄込みは後期) ・制作 A.B: 素焼き(窯出し)
14	制作 A.B: 釉掛け 本焼成窯詰め
15	本焼成窯出し・講評

科目名	工芸特殊研究2	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	三木 陽子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>やきものの制作プロセスを通じて、必要とされる基礎的知識と技法を、実際の制作を通じて習得する。 また古代から人の生活を支え、芸術や文化を担ってきた歴史あるやきものに触れることにより、受講生が新たな視点を獲得し、自身の研究を深めることを目指す。</p>					
授業概要					
<p>前期: 代表的な3種の技法、手びねり技法、タタラ技法、鑄込み技法を用いた基礎的な課題を行うことで、素材への理解を深め、体感する。 後期: 前期で学んだ技法を用い、自身の研究と関連する作品を制作する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>やきものの要となる焼成に向けて、受講生全員の制作進行を合わせなければならない為、できるだけ出席すること。 受講中は制作に適した服装で臨んでください。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品			70		
授業に取り組む姿勢			30		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

{担当教員: 三木陽子 website, http://www.mikiyoko.com }	
特記事項	
シラバスについて: 履修者の人数や経験や状況に応じ、内容が一部変更になる可能性があります。	
教員実務経験	
陶芸作家・造形作家としての活動や経験を活かした指導を行う。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	講義:「現代の陶芸」
2	・鑄込み成形の続き ・最終課題のプランニング
3	・鑄込み成形の続き ・最終課題のプランニング
4	・鑄込み成形の仕上げ ・最終課題のプランニング
5	・最終課題のプランニング ・成形開始
6	最終課題の成形
7	最終課題の成形
8	最終課題の成形と仕上げ
9	窯詰め(素焼き)
10	・窯出し ・加飾
11	加飾
12	施釉
13	窯詰め(本焼き)
14	窯出し
15	講評会

科目名	工芸特殊研究3	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 前期	形態	演習		
教員名	釜本 幸治				
クラス名					
授業目的と到達目標					
鑄金、鍛金、彫金など金工の技法に触れ、金属素材についての基礎知識と基礎技術の習得を目的とする。					
授業概要					
金属板を金鋸や木槌で叩いて加工する鍛金技法により作品制作を行います。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
金属工芸では制作にあたって専門機具や薬品、火気等を使用します。 必ず作業に適した服装を着用して下さい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
制作作品			60		
制作姿勢			40		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

金工家として作品制作や発表の経験を活かした指導を行います。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	課題説明
2	作品構想・アイデアチェック
3	鍛金作業
4	鍛金作業
5	鍛金作業
6	鍛金作業
7	鍛金作業
8	鍛金作業
9	鍛金作業
10	鍛金作業
11	鍛金作業
12	鍛金作業
13	仕上げ
14	仕上げ
15	合評

科目名	工芸特殊研究4	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	釜本 幸治				
クラス名					
授業目的と到達目標					
鑄金、鍛金、彫金など金工の技法に触れ、金属素材についての基礎知識と基礎技術の習得を目的とする。					
授業概要					
アルミニウムを素材に鑄造作品を制作します。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
金属工芸では制作にあたって専門機具や薬品、火気等を使用します。 必ず作業に適した服装を着用して下さい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
制作作品			60		
制作姿勢			40		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

金工家として作品制作や発表の経験を活かした指導を行います。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	課題説明
2	作品構想・アイデアチェック
3	鑄造原型制作
4	鑄造原型制作
5	鑄造原型制作
6	鑄造原型制作
7	鑄型制作
8	鑄型制作
9	鑄型制作
10	鑄造
11	鑄造
12	仕上げ
13	仕上げ
14	仕上げ
15	合評

科目名	工芸特殊研究5	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	舘 正明				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>染織には布を染める「染め」と、糸を織る「織り」がある。多くの場合、そのどちらにも染色の工程が介在しているが、染色は染めるだけでは成立しない。その対極にある染めない部分をいかに作るかが重要であり、これを防染と言う。防染を行うには様々なプロセス、素材や技法を必要とする。この授業では素材や技法との対話やプロセスで生まれる新しい染色表現の探求を目的とし、建学の精神の国際的視野に立っての展開に基づき、伝統の形式に囚われることなく、染色分野の理解と各自の専門分野への新しいアプローチの発見と新しい芸術の伝統の展開を目標とする。</p>					
授業概要					
<p>防染に用いられる素材の代表である蠟に注目し、それぞれの特性や技法などを演習によって体験し、各自の作品へ展開する。 また、現代の染織作品や染織界の動向などについて適宜、資料などで紹介する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>身の回りに溢れる染織品に目を向け、染織分野と人との密接さを感じて欲しい。新しいもの、古いもの、専門分野の枠にとらわれず美術館、ギャラリーへ出向き、視野を広げること。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
提出課題・作品			70		
プレゼンテーション			30		
教科書					
教科書1	適宜資料等を配布				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	染を学ぶ				
出版社名	角川書店	著者名	福本繁樹・柳楽剛・舘正明他		
参考書名2	21世紀は工芸がおもしろい				
出版社名	求龍堂	著者名	福本繁樹編著		
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					

出版社名		著者名	
参考 URL			
{館 正明 HP, https://tatemasaaki.jimdofree.com/ }			
特記事項			
教員実務経験			
染色家の教員が制作、発表で得た知見を生かし染色表現の技法について指導する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業説明、担当教員によるプレゼンテーション		
2	受講生によるプレゼンテーション		
3	布を染める1 準備 布を張る 道具の使い方 地入れ		
4	布を染める2 染色 染料の特性を知る		
5	布を染める3 仕上げ 蒸し		
6	布を染める4 仕上げ 水元		
7	ろうによる防染を考える1 講義 ろう染めについて		
8	ろうによる防染を考える2 染色 染料の滲みを生かして		
9	ろうによる防染を考える3 防染 ろうを置く		
10	ろうによる防染を考える4 仕上げ 脱ろうソーピング		
11	技法研究1-1 バティック 試作・デザイン		
12	技法研究1-2 バティック ろう置き		
13	技法研究1-3 バティック 藍染め		
14	技法研究1-4 バティック 仕上げ 脱ろうソーピング		
15	合評		

科目名	工芸特殊研究6	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	舘 正明				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>染織には布を染める「染め」と、糸を織る「織り」がある。多くの場合、そのどちらにも染色の工程が介在しているが、染色は染めるだけでは成立しない。その対極にある染めない部分をいかに作るかが重要であり、これを防染と言う。防染を行うには様々なプロセス、素材や技法を必要とする。この授業では素材や技法との対話やプロセスで生まれる新しい染色表現の探求を目的とし、建学の精神の国際的視野に立っての展開に基づき、伝統の形式に囚われることなく、染色分野の理解と各自の専門分野への新しいアプローチの発見と新しい芸術の伝統の展開を目標とする。</p>					
授業概要					
<p>防染に用いられる素材の代表である糊に注目し、それぞれの特性や技法などを演習によって体験し、各自の作品へ展開する。 また、現代の染織作品や染織界の動向などについて適宜、資料などで紹介する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>身の回りに溢れる染織品に目を向け、染織分野と人との密接さを感じて欲しい。新しいもの、古いもの、専門分野の枠にとらわれず美術館、ギャラリーへ出向き、視野を広げること。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
提出課題・作品			70		
プレゼンテーション			30		
教科書					
教科書1	適宜資料等を配布				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	染を学ぶ				
出版社名	角川書店	著者名	福本繁樹・柳楽剛・舘正明他		
参考書名2	21世紀は工芸がおもしろい				
出版社名	求龍堂	著者名	福本繁樹編著		
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					

出版社名		著者名	
参考 URL			
{館 正明 HP,https://tatemasaaki.jimdofree.com/}			
特記事項			
教員実務経験			
染色家の教員が制作、発表で得た知見を生かし染色表現の技法について指導する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	糊による防染を考える1 講義 型染めについて		
2	糊による防染を考える2 糊置き		
3	糊による防染を考える3 地入れ技法研究2-1筒描き 試作・デザイン		
4	糊による防染を考える4 染色		
5	糊による防染を考える5 染料定着、糊落し		
6	技法研究2-2 筒描き 糊置き		
7	技法研究2-3 筒描き 染色		
8	技法研究2-4 筒描き 仕上げ 糊落し・水元		
9	合評防染による染色布の制作1 染色作品制作に向けての計画発表		
10	防染による染色布の制作2 各自の計画により制作を進める		
11	防染による染色布の制作3 各自の計画により制作を進める		
12	防染による染色布の制作4 各自の計画により制作を進める		
13	防染による染色布の制作5 各自の計画により制作を進める		
14	防染による染色布の制作6 各自の計画により制作を進める		
15	プレゼンテーション・合評		

科目名	工芸特殊研究7	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 前期	形態	演習		
教員名	木下 良輔				
クラス名					
授業目的と到達目標					
ガラス工芸についての基本理解とガラス技法の体験学習を通して、各学生の専門領域とガラスとの新たな関わりを模索する。幅広くガラスについての知識を得るとともに、グローバルな考えを持って活躍の場が広がることを期待する。					
授業概要					
ガラス素材の歴史の変遷、技法、それに伴う機械や設備、道具と材料等々について、演習を通して理解する。各自の専門領域に基づく新たなガラスの提案を形にし、展示発表を行う。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
素材としてのガラスの特徴をとらえることに最大限の関心を持つこと。既成の概念と常識にとらわれずに、自分の感性でガラスを感じて欲しい。考察レポート作成のためのスケッチや記録撮影を随時行うこと。第15回の考察記録の提出とプレゼンテーション、及び、第30回の作品展示発表とプレゼンテーションは必修。材料費が必要となります。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
プレゼンテーション			25		
レポート			25		
提案作品			25		
受講姿勢			25		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	コールドワークテキスト				
出版社名	東京ガラス工芸研究所	著者名	東京ガラス工芸研究所編		
参考書名2	パート・ド・ヴェールの技法				
出版社名	東京ガラス工芸研究所	著者名	東京ガラス工芸研究所編		
参考書名3	世界ガラス工芸史				
出版社名	美術出版社	著者名	中山公男		
参考書名4	吹きガラステキスト				
出版社名	東京ガラス工芸研究所	著者名	東京ガラス工芸研究所編		
参考書名5					
出版社名		著者名			

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
ガラス造形作家	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイダンス/年間授業説明
2	教員と指導スタッフによるプレゼンテーション
3	履修者のプレゼンテーション
4	体験授業1 ホットワーク1
5	体験授業2 ホットワーク2
6	体験授業3 バーナーワーク
7	体験授業4 キルンワーク1
8	体験授業5 キルンワーク2
9	体験授業6 キルンワーク3
10	体験授業7 コールドワーク1
11	体験授業8 コールドワーク2
12	体験授業9 コールドワーク3
13	作業予備日
14	作業予備日
15	前期講評会 / 課題提出日

科目名	工芸特殊研究8	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	木下 良輔				
クラス名					
授業目的と到達目標					
ガラス工芸についての基本理解とガラス技法の体験学習を通して、各学生の専門領域とガラスとの新たな関わりを模索する。幅広くガラスについての知識を得るとともに、グローバルな考えを持って活躍の場が広がることを期待する。					
授業概要					
ガラス素材の歴史の変遷、技法、それに伴う機械や設備、道具と材料等々について、演習を通して理解する。各自の専門領域に基づく新たなガラスの提案を形にし、展示発表を行う。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
素材としてのガラスの特徴をとらえることに最大限の関心を持つこと。既成の概念と常識にとらわれずに、自分の感性でガラスを感じて欲しい。考察レポート作成のためのスケッチや記録撮影を随時行うこと。第15回の考察記録の提出とプレゼンテーション、及び、第30回の作品展示発表とプレゼンテーションは必修。材料費が必要となります。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
プレゼンテーション			25		
レポート			25		
提案作品			25		
受講姿勢			25		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	コールドワークテキスト				
出版社名	東京ガラス工芸研究所	著者名	東京ガラス工芸研究所編		
参考書名2	パート・ド・ヴェールの技法				
出版社名	東京ガラス工芸研究所	著者名	東京ガラス工芸研究所編		
参考書名3	世界ガラス工芸史				
出版社名	美術出版社	著者名	中山公男		
参考書名4	吹きガラステキスト				
出版社名	東京ガラス工芸研究所	著者名	東京ガラス工芸研究所編		
参考書名5					
出版社名		著者名			

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
ガラス造形作家	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	後期課題説明
2	個別指導
3	後期課題プレゼンテーション1
4	後期課題プレゼンテーション2
5	制作
6	制作
7	制作
8	制作
9	中間発表
10	制作
11	制作
12	制作
13	制作
14	後期講評会
15	課題提出日

科目名	文学創作特殊研究1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 前期	形態	演習		
教員名	玄 月				
クラス名					
授業目的と到達目標					
タイプの違ういくつかの短編小説の構造分析を行い、文体、構成を研究する。批評眼を養う。					
授業概要					
これまで漫然と読んできたであろう小説から、視点、文体、構成、長所、欠点、作者の癖などを洗い出し、詳しく分析する。 そこで得た「小説の技法」を元に、受講生各自が既存の短編の構造分析を行う。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
読む・書くだけでなく、人の話をよく聞き、理解すること。指定された本は精読すること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題はすべて提出。主体的な授業参加 3分の2以上			100		
教科書					
教科書1	思い出トラップ				
出版社名	新潮社	著者名	向田邦子		
教科書2	号泣する準備はできていた				
出版社名	新潮社	著者名	江國香織		
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
芥川賞作家としての経験を活かし、創作技法や批評眼を習得させる。					

教員実務経験

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	一年間の授業概要とスケジュールの説明。
2	教授による短編小説の構造分析。
3	教授による短編小説の構造分析。
4	教授による短編小説の構造分析。
5	教授による短編小説の構造分析。
6	教授による短編小説の構造分析。
7	教授による短編小説の構造分析。
8	教授による短編小説の構造分析。
9	教授による短編小説の構造分析。
10	教授による短編小説の構造分析。
11	教授による短編小説の構造分析。
12	教授による短編小説の構造分析。
13	教授による短編小説の構造分析。
14	院生による短編小説の構造分析。
15	院生による短編小説創作。

科目名	文学創作特殊研究2	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	玄月				
クラス名					
授業目的と到達目標					
タイプの違ういくつかの短編小説の構造分析を行い、文体、構成を研究する。批評眼を養う。					
授業概要					
これまで漫然と読んできたであろう小説から、視点、文体、構成、長所、欠点、作者の癖などを洗い出し、詳しく分析する。 そこで得た「小説の技法」を元に、受講生各自が既存の短編の構造分析を行う。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
読む・書くだけでなく、人の話をよく聞き、理解すること。指定された本は精読すること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題はすべて提出。主体的な授業参加 3分の2以上			100		
教科書					
教科書1	思い出トラップ				
出版社名	新潮社	著者名	向田邦子		
教科書2	号泣する準備はできていた				
出版社名	新潮社	著者名	江國香織		
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
芥川賞作家としての経験を活かし、創作技法や批評眼を習得させる。					

教員実務経験

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	一年間の授業概要とスケジュールの説明。
2	教授による短編小説の構造分析。
3	教授による短編小説の構造分析。
4	教授による短編小説の構造分析。
5	教授による短編小説の構造分析。
6	教授による短編小説の構造分析。
7	教授による短編小説の構造分析。
8	教授による短編小説の構造分析。
9	教授による短編小説の構造分析。
10	教授による短編小説の構造分析。
11	教授による短編小説の構造分析。
12	教授による短編小説の構造分析。
13	教授による短編小説の構造分析。
14	院生による短編小説の構造分析。
15	院生による短編小説創作。

科目名	文学創作特殊研究3	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 前期	形態	演習		
教員名	木下 昌輝				
クラス名					
授業目的と到達目標					
建学の精神である「創造性の奨励」に基づき、プロのエンタメ作家として通用するための独自の創作メソッドを作りあげる。					
授業概要					
映画ドラマなどの映像作品を鑑賞して、プロットや創作メソッドに分解して落とし込む。それを通じて、自分なりの創作メソッドを作りあげる。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
出席と授業態度			50		
最後に創作メソッドの発表、もしくは既存の創作メソッドを使って、長編プロットを発表する。			50		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	前期は映画ドラマなどの鑑賞と、その解析。 後期は自分なりのメソッドの作成、もしくは長編プロットの作成。
2	前期は映画ドラマなどの鑑賞と、その解析。 後期は自分なりのメソッドの作成、もしくは長編プロットの作成。
3	前期は映画ドラマなどの鑑賞と、その解析。 後期は自分なりのメソッドの作成、もしくは長編プロットの作成。
4	前期は映画ドラマなどの鑑賞と、その解析。 後期は自分なりのメソッドの作成、もしくは長編プロットの作成。
5	前期は映画ドラマなどの鑑賞と、その解析。 後期は自分なりのメソッドの作成、もしくは長編プロットの作成。
6	前期は映画ドラマなどの鑑賞と、その解析。 後期は自分なりのメソッドの作成、もしくは長編プロットの作成。
7	前期は映画ドラマなどの鑑賞と、その解析。 後期は自分なりのメソッドの作成、もしくは長編プロットの作成。
8	前期は映画ドラマなどの鑑賞と、その解析。 後期は自分なりのメソッドの作成、もしくは長編プロットの作成。
9	前期は映画ドラマなどの鑑賞と、その解析。 後期は自分なりのメソッドの作成、もしくは長編プロットの作成。
10	前期は映画ドラマなどの鑑賞と、その解析。 後期は自分なりのメソッドの作成、もしくは長編プロットの作成。
11	前期は映画ドラマなどの鑑賞と、その解析。 後期は自分なりのメソッドの作成、もしくは長編プロットの作成。
12	前期は映画ドラマなどの鑑賞と、その解析。 後期は自分なりのメソッドの作成、もしくは長編プロットの作成。
13	前期は映画ドラマなどの鑑賞と、その解析。 後期は自分なりのメソッドの作成、もしくは長編プロットの作成。
14	前期は映画ドラマなどの鑑賞と、その解析。 後期は自分なりのメソッドの作成、もしくは長編プロットの作成。
15	前期は映画ドラマなどの鑑賞と、その解析。 後期は自分なりのメソッドの作成、もしくは長編プロットの作成。

科目名	文学創作特殊研究4	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	木下 昌輝				
クラス名					
授業目的と到達目標					
建学の精神である「創造性の奨励」に基づき、プロのエンタメ作家として通用するための独自の創作メソッドを作りあげる。					
授業概要					
映画ドラマなどの映像作品を鑑賞して、プロットや創作メソッドに分解して落とし込む。それを通じて、自分なりの創作メソッドを作りあげる。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
出席と授業態度			50		
最後に創作メソッドの発表、もしくは既存の創作メソッドを使って、長編プロットを発表する。			50		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	前期は映画ドラマなどの鑑賞と、その解析。 後期は自分なりのメソッドの作成、もしくは長編プロットの作成。
2	前期は映画ドラマなどの鑑賞と、その解析。 後期は自分なりのメソッドの作成、もしくは長編プロットの作成。
3	前期は映画ドラマなどの鑑賞と、その解析。 後期は自分なりのメソッドの作成、もしくは長編プロットの作成。
4	前期は映画ドラマなどの鑑賞と、その解析。 後期は自分なりのメソッドの作成、もしくは長編プロットの作成。
5	前期は映画ドラマなどの鑑賞と、その解析。 後期は自分なりのメソッドの作成、もしくは長編プロットの作成。
6	前期は映画ドラマなどの鑑賞と、その解析。 後期は自分なりのメソッドの作成、もしくは長編プロットの作成。
7	前期は映画ドラマなどの鑑賞と、その解析。 後期は自分なりのメソッドの作成、もしくは長編プロットの作成。
8	前期は映画ドラマなどの鑑賞と、その解析。 後期は自分なりのメソッドの作成、もしくは長編プロットの作成。
9	前期は映画ドラマなどの鑑賞と、その解析。 後期は自分なりのメソッドの作成、もしくは長編プロットの作成。
10	前期は映画ドラマなどの鑑賞と、その解析。 後期は自分なりのメソッドの作成、もしくは長編プロットの作成。
11	前期は映画ドラマなどの鑑賞と、その解析。 後期は自分なりのメソッドの作成、もしくは長編プロットの作成。
12	前期は映画ドラマなどの鑑賞と、その解析。 後期は自分なりのメソッドの作成、もしくは長編プロットの作成。
13	前期は映画ドラマなどの鑑賞と、その解析。 後期は自分なりのメソッドの作成、もしくは長編プロットの作成。
14	前期は映画ドラマなどの鑑賞と、その解析。 後期は自分なりのメソッドの作成、もしくは長編プロットの作成。
15	前期は映画ドラマなどの鑑賞と、その解析。 後期は自分なりのメソッドの作成、もしくは長編プロットの作成。

科目名	演奏特殊研究1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 前期	形態	演習		
教員名	今川 裕代				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>ピアノ協奏曲の起源と歴史を知り、主だった協奏曲を時代順に研究する。 前期はウィーン古典派の協奏曲から1~2曲学び、オーケストラと楽曲を奏する際に必要な分析力や技術を養い、レパートリーとなるよう仕上げる。</p>					
授業概要					
<p>ピアノ2台形式で行う。 協奏曲を演奏する際の表現方法、音の響かせ方を体得し、オーケストラや指揮者との息の合わせ方を学ぶ。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
各々が研究する楽曲の分析、練習。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業に取り組む姿勢			60		
テスト			40		
教科書					
教科書1	各々が研究する楽曲のオーケストラスコア譜、2台ピアノ譜				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

出席回数が全授業回数の3分の2以上に達しない場合は単位を付与しない。	
教員実務経験	
オーケストラとの豊富な共演経験を踏まえ、技術的問題、楽曲解釈における問題を討議、指導する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	1年間の授業計画の説明。 協奏曲の起源を知り、様々な協奏曲を時代順に調べ、前期と後期に研究する楽曲を選び、3回目の授業までに譜読みをする。
2	前期に研究する楽曲の背景、作曲家について調べる。
3	各々が選曲した楽曲の1楽章
4	1楽章の続き
5	1楽章 カデンツを加えて
6	1楽章の仕上げ
7	2楽章
8	2楽章仕上げ
9	終楽章
10	終楽章の続き
11	終楽章の仕上げ
12	選曲した楽曲のCD及びDVD鑑賞
13	指揮者の視点から考察し、オーケストラパートを演奏する
14	全楽章の復習、仕上げ
15	全楽章の仕上げとテスト

科目名	演奏特殊研究2	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	今川 裕代				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>ピアノ協奏曲の起源と歴史を知り、主だった協奏曲を時代順に研究する。 後期はロマン派以降の協奏曲から1~2曲学び、オーケストラと楽曲を奏する際に必要な分析力や技術を養い、レパートリーとなるよう仕上げる。</p>					
授業概要					
<p>ピアノ2台形式で行う。 協奏曲を演奏する際の表現方法、音の響かせ方を体得し、オーケストラや指揮者との息の合わせ方を学ぶ。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
各々が研究する楽曲の分析、練習。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業に取り組む姿勢			60		
テスト			40		
教科書					
教科書1	各々が研究する楽曲のオーケストラスコア譜、2台ピアノ譜				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

出席回数が全授業回数の3分の2以上に達しない場合は単位を付与しない。	
教員実務経験	
オーケストラとの豊富な共演経験を踏まえ、技術的問題、楽曲解釈における問題を討議、指導する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ロマン派以降の協奏曲について後期に研究する楽曲の背景、作曲家について調べる。
2	各々が選曲した楽曲の1楽章
3	1楽章の続き
4	1楽章の続き
5	1楽章 カデンツを加えて
6	1楽章の仕上げ
7	2楽章
8	2楽章の続き、仕上げ
9	終楽章
10	終楽章の続き
11	終楽章の仕上げ
12	選曲した楽曲のCD及びDVD鑑賞
13	指揮者の視点から考察し、オーケストラパートを演奏する
14	全楽章の復習、仕上げ
15	全楽章の仕上げとテスト

科目名	演奏特殊研究3	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 前期	形態	演習		
教員名	伊勢 敏之、本田 耕一				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>◆ 授業の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本授業では、室内楽演奏を作品研究に基づく芸術的探究として位置付け、分析・討議・演奏実践・検証のプロセスを通じて高度な演奏解釈の構築を目指す。 ●室内楽作品の研究および分析を通して作品理解を深化させ、演奏行為を単なる再現に留めず、研究成果に基づいた演奏解釈を構築する能力を養うことを目的とする。 ●演奏実践と学術的考察を往還させながら、専門的演奏家として必要な高度な音楽理解および表現力の修得を目指す。 <p>◆ 到達目標</p> <p>受講者は以下を達成することを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●楽曲分析および資料研究を基に根拠ある演奏解釈を提示できる。 ●曲家の様式および歴史的背景を踏まえた演奏実践ができる。 ●アンサンブルにおける音楽的対話を通して作品理解を深化できる。 ●研究成果を演奏として具体的に表現できる。 					
授業概要					
<p>本授業では室内楽作品の研究、分析、討議および演奏実践を通して解釈形成のプロセスを学ぶ。授業最終日に演奏発表会を実施し、研究成果と演奏成果を統合的に提示する。さらに、アンサンブルにおける音楽的対話や解釈形成のプロセスを重視し、演奏者相互の批評的検討を通して高度な室内楽演奏能力を養う。演奏解釈を固定的なものとして扱うのではなく、研究・議論・実践を通して再構築していく過程を重視する。受講者間でのディスカッションおよび相互講評を通して、多角的視点から作品理解を深める。演奏会を想定した実践的リハーサルプロセスについても学ぶ。</p> <p>◆授業では以下の内容を中心に進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演奏楽曲の選定および作品・作曲家・時代背景に関する調査研究 ・研究内容に基づいたプレゼンテーションの実施 ・楽曲構造、様式、和声、形式等の分析および分析手法の習得 ・研究成果を演奏へ反映させ、解釈の変化や音楽的成長を検証する ・CD・DVD等の資料を用いた歴史的な名演および演奏様式の比較研究 ・演奏録音・録画を行い、客観的視点から自己およびアンサンブル演奏を分析する 					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>履修者は本授業が高度な演奏実践および研究活動を伴う大学院科目であることを十分理解したうえで受講すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●授業は受動的に指導を受ける場ではなく、各自が研究者および演奏家として主体的に課題へ取り組むことを前提とする。 ●授業までに楽譜研究および十分な個人練習を行い、アンサンブル研究を深化させる準備を整えて臨むこと。 ●楽曲分析、資料調査、演奏解釈について自らの考えを持ち、積極的に議論および提案を行うこと。 ●リハーサルおよび授業内で指摘された課題については次回までに改善を図ること。 ●室内楽は高度な共同創造活動であることを理解し、演奏者相互の尊重と専門的態度をもって参加すること。 ●十分な準備が認められない場合、授業進行に支障を来すため履修継続が困難となる場合がある。 					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
本授業では、研究過程および演奏成果を総合的に評価するが、特に授業最終日に実施する演奏発表会における演奏内容を重視する。			60		

単なる演奏技術のみではなく、研究成果が演奏表現としてどの程度具体化されているかを重視して評価する。 演奏発表に至るまでの研究過程、解釈形成のプロセス、およびアンサンブルにおける協働的創造性を含めて総合的に評価する。 評価は以下の観点に基づいて行う。 ●最終演奏発表会における演奏内容 (音楽的完成度・アンサンブル能力・作品理解の反映)		
●楽曲研究およびプレゼンテーション内容(分析・考察の深さ)		20
●授業への取り組み姿勢(リハーサルへの主体的参加、課題改善の過程)		20
教科書		
教科書1		
出版社名		著者名
教科書2		
出版社名		著者名
教科書3		
出版社名		著者名
参考書・参考文献		
参考書名1		
出版社名		著者名
参考書名2		
出版社名		著者名
参考書名3		
出版社名		著者名
参考書名4		
出版社名		著者名
参考書名5		
出版社名		著者名
参考 URL		
特記事項		
教員実務経験		
演奏家およびアンサンブル指導者としての実演活動ならびに教育経験を有する。 これらの実務経験を基盤として、作品研究に基づく演奏解釈、アンサンブル構築、実践的リハーサル手法等を授業に反映した指導を行う。		
授業計画(各回予定)		
授業回	授業内容	
1	[第1回へ向けて、取り組みたい候補楽曲のピックアップ] ガイダンス(方針説明、成績評価方法の説明等)取り組む楽曲や研究課題の相談・決定 [第2回へ向けてのレポートや Power Point などを用いた研究発表の準備と楽曲の練習(標準8時間)]	
2	作曲者・作曲背景、作品そのものについての研究発表と学生どうしや教員によるフィードバック	

	[第3回へ向けた分析の予習と楽曲の練習(標準5時間)]
3	取り組む楽曲の分析① 楽曲の構造、構成について 演奏実践 [第4回へ向けた分析の予習と楽曲の練習(標準5時間)]
4	取り組む楽曲の分析② 楽曲の構造、構成について 演奏実践 [第5回へ向けた分析の予習と楽曲の練習(標準5時間)]
5	取り組む楽曲の分析③ 調性・和声について 演奏実践 [第6回へ向けた分析の予習と楽曲の練習(標準5時間)]
6	取り組む楽曲の分析④ 各フレーズのデザイン、表情・表現について 演奏実践 [第7回発表へ向けた分析の復習と楽曲の練習(標準5時間)]
7	研究成果の演奏発表 録音・録画など学生どうしや教員によるフィードバック 今後の課題や練習上の留意点について [第8回へ向けて、取り組みたい候補楽曲のピックアップ]
8	取り組む楽曲や研究課題の相談・方針決定 [第9回へ向けてのレポートや Power Point などを用いた研究発表の準備と楽曲の練習(標準8時間)]
9	作曲家・作曲背景、作品そのものについての研究発表と学生どうしや教員によるフィードバック [第10回へ向けた分析の予習と楽曲の練習(標準5時間)]
10	取り組む楽曲の分析① 楽曲の構造、構成について 演奏実践 [第11回へ向けた分析の予習と楽曲の練習(標準5時間)]
11	取り組む楽曲の分析② 楽曲の構造、構成について 演奏実践 [第12回へ向けた分析の予習と楽曲の練習(標準5時間)]
12	取り組む楽曲の分析③ 調性・和声について 演奏実践 [第13回へ向けた分析の予習と楽曲の練習(標準5時間)]
13	取り組む楽曲の分析④ 各フレーズのデザイン、表情・表現について 演奏実践 [第14回発表へ向けた分析の復習と楽曲の練習(標準5時間)]
14	研究成果の演奏発表 録音・録画など 学生どうしや教員によるフィードバック 今後の課題や練習上の留意点について [第15回へ向けた分析の復習と振り返り・気付きをまとめる(標準8時間)]
15	演奏発表会のゲネプロ 本番 録画 まとめ、前期の総括、振り返り・気付きの発表など 今後の課題や練習上の留意点について

科目名	演奏特殊研究4	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	伊勢 敏之、本田 耕一				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>◆ 授業の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本授業では、室内楽演奏を作品研究に基づく芸術的探究として位置付け、分析・討議・演奏実践・検証のプロセスを通じて高度な演奏解釈の構築を目指す。 ●室内楽作品の研究および分析を通して作品理解を深化させ、演奏行為を単なる再現に留めず、研究成果に基づいた演奏解釈を構築する能力を養うことを目的とする。 ●演奏実践と学術的考察を往還させながら、専門的演奏家として必要な高度な音楽理解および表現力の修得を目指す。 <p>◆ 到達目標</p> <p>受講者は以下を達成することを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●楽曲分析および資料研究を基に根拠ある演奏解釈を提示できる。 ●曲家の様式および歴史的背景を踏まえた演奏実践ができる。 ●アンサンブルにおける音楽的対話を通して作品理解を深化できる。 ●研究成果を演奏として具体的に表現できる。 					
授業概要					
<p>本授業では室内楽作品の研究、分析、討議および演奏実践を通して解釈形成のプロセスを学ぶ。授業最終日に演奏発表会を実施し、研究成果と演奏成果を統合的に提示する。さらに、アンサンブルにおける音楽的対話や解釈形成のプロセスを重視し、演奏者相互の批評的検討を通して高度な室内楽演奏能力を養う。演奏解釈を固定的なものとして扱うのではなく、研究・議論・実践を通して再構築していく過程を重視する。受講者間でのディスカッションおよび相互講評を通して、多角的視点から作品理解を深める。演奏会を想定した実践的リハーサルプロセスについても学ぶ。</p> <p>◆授業では以下の内容を中心に進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演奏楽曲の選定および作品・作曲家・時代背景に関する調査研究 ・研究内容に基づいたプレゼンテーションの実施 ・楽曲構造、様式、和声、形式等の分析および分析手法の習得 ・研究成果を演奏へ反映させ、解釈の変化や音楽的成長を検証する ・CD・DVD等の資料を用いた歴史的な名演および演奏様式の比較研究・演奏録音・録画を行い、客観的視点から自己およびアンサンブル演奏を分析する 					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>履修者は本授業が高度な演奏実践および研究活動を伴う大学院科目であることを十分理解したうえで受講すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●授業は受動的に指導を受ける場ではなく、各自が研究者および演奏家として主体的に課題へ取り組むことを前提とする。 ●授業までに楽譜研究および十分な個人練習を行い、アンサンブル研究を深化させる準備を整えて臨むこと。 ●楽曲分析、資料調査、演奏解釈について自らの考えを持ち、積極的に議論および提案を行うこと。 ●リハーサルおよび授業内で指摘された課題については次回までに改善を図ること。 ●室内楽は高度な共同創造活動であることを理解し、演奏者相互の尊重と専門的態度をもって参加すること。 ●十分な準備が認められない場合、授業進行に支障を来すため履修継続が困難となる場合がある。 					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
本授業では、研究過程および演奏成果を総合的に評価するが、特に授業最終日に実施する演奏発表会における演奏内容を重視する。			60		

単なる演奏技術のみではなく、研究成果が演奏表現としてどの程度具体化されているかを重視して評価する。 演奏発表に至るまでの研究過程、解釈形成のプロセス、およびアンサンブルにおける協働的創造性を含めて総合的に評価する。評価は以下の観点に基づいて行う。 ●最終演奏発表会における演奏内容 (音楽的完成度・アンサンブル能力・作品理解の反映)		
●楽曲研究およびプレゼンテーション内容(分析・考察の深さ)		20
●授業への取り組み姿勢(リハーサルへの主体的参加、課題改善の過程)		20
教科書		
教科書1		
出版社名		著者名
教科書2		
出版社名		著者名
教科書3		
出版社名		著者名
参考書・参考文献		
参考書名1		
出版社名		著者名
参考書名2		
出版社名		著者名
参考書名3		
出版社名		著者名
参考書名4		
出版社名		著者名
参考書名5		
出版社名		著者名
参考 URL		
特記事項		
教員実務経験		
演奏家およびアンサンブル指導者としての実演活動ならびに教育経験を有する。 これらの実務経験を基盤として、作品研究に基づく演奏解釈、アンサンブル構築、実践的リハーサル手法等を授業に反映した指導を行う。		
授業計画(各回予定)		
授業回	授業内容	
1	[第1回へ向けて、取り組みたい候補楽曲のピックアップ] ガイダンス(方針説明、成績評価方法の説明等)取り組む楽曲や研究課題の相談・決定 [第2回へ向けてのレポートや Power Point などを用いた研究発表の準備と楽曲の練習(標準8時間)]	
2	作曲家・作曲背景、作品そのものについての研究発表と学生どうしや教員によるフィードバック	

	[第3回へ向けた分析の予習と楽曲の練習(標準5時間)]
3	<p>取り組む楽曲の分析① 楽曲の構造、構成について 演奏実践 [第4回へ向けた分析の予習と楽曲の練習(標準5時間)]</p>
4	<p>取り組む楽曲の分析② 楽曲の構造、構成について 演奏実践 [第5回へ向けた分析の予習と楽曲の練習(標準5時間)]</p>
5	<p>取り組む楽曲の分析③ 調性・和声について 演奏実践 [第6回へ向けた分析の予習と楽曲の練習(標準5時間)]</p>
6	<p>取り組む楽曲の分析④ 各フレーズのデザイン、表情・表現について 演奏実践 [第7回発表へ向けた分析の復習と楽曲の練習(標準5時間)]</p>
7	<p>研究成果の演奏発表 録音・録画など 学生どうしや教員によるフィードバック 今後の課題や練習上の留意点について [第8回へ向けて、取り組みたい候補楽曲のピックアップ]</p>
8	<p>取り組む楽曲や研究課題の相談・方針決定 [第9回へ向けてのレポートや Power Point などを用いた研究発表の準備と楽曲の練習(標準8時間)]</p>
9	<p>作曲家・作曲背景、作品そのものについての研究発表と学生どうしや教員によるフィードバック [第10回へ向けた分析の予習と楽曲の練習(標準5時間)]</p>
10	<p>取り組む楽曲の分析① 楽曲の構造、構成について 演奏実践 [第11回へ向けた分析の予習と楽曲の練習(標準5時間)]</p>
11	<p>取り組む楽曲の分析② 楽曲の構造、構成について 演奏実践 [第12回へ向けた分析の予習と楽曲の練習(標準5時間)]</p>
12	<p>取り組む楽曲の分析③調性・和声について 演奏実践 [第13回へ向けた分析の予習と楽曲の練習(標準5時間)]</p>
13	<p>取り組む楽曲の分析④各フレーズのデザイン、表情・表現について 演奏実践 [第14回発表へ向けた分析の復習と楽曲の練習(標準5時間)]</p>
14	<p>研究成果の演奏発表 録音・録画など 学生どうしや教員によるフィードバック 今後の課題や練習上の留意点について [第15回へ向けた分析の復習と振り返り・気付きをまとめる(標準8時間)]</p>
15	<p>演奏発表会のゲネプロ 本番 録画 まとめ、前期の総括、振り返り・気付きの発表など 今後の課題や練習上の留意点について</p>

科目名	演奏特殊研究5	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 前期	形態	演習		
教員名	阪本 朋子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>・声楽専攻者は、オペラ、歌曲、ミュージカル等、取り組みたいジャンルを明確にし、表現者として自らの能力や魅力を発見し、共感を得られる奏者としての能力を身につけます。</p> <p>・ピアノ専攻者は、伴奏者としての能力の開発を目的とします。コードネーム奏法、アレンジメント奏法、オペラなどのスコアの読み方、オーケストレーションを学び、実用的な技術の習得を目指します。</p> <p>・ジャンルに関係なく、自らのパフォーマンスを言語化する能力を身につけます。</p>					
授業概要					
<p>自由にディスカッションできる環境を大切にします。 「音楽」について、大いに語り合しましょう。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>受講に際しては、自らが研究したい楽曲の楽譜を、必要部数(指導教員及び受講生)準備して授業に臨んでください。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
成果発表パフォーマンス 100%					
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

個別に指示します。	
特記事項	
声楽専攻の学生には、演技演習にふさわしい服装での参加を提示することがあります。	
教員実務経験	
歌手に対して適切なアドバイス力を求められるコレペティ(オペラ歌手の下稽古)の経験を活かして、コレペティに求められる能力の方向性を示す。指揮者のもとでピアノを弾く際に必要な基本的な能力(正確なテンポの維持、指揮者のデュナーミクを感じ取り、実際の音にする能力)などを習得させる。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション受講生の専攻分野を確認
2	課題の演奏と、ディスカッション
3	課題の演奏と、ディスカッション
4	課題の演奏と、ディスカッション
5	課題の演奏と、ディスカッション
6	課題の演奏と、ディスカッション
7	課題の演奏と、ディスカッション
8	課題の演奏と、ディスカッション
9	課題の演奏と、ディスカッション
10	課題の演奏と、ディスカッション
11	課題の演奏と、ディスカッション
12	課題の演奏と、ディスカッション
13	前期成果発表に向けて準備①
14	前期成果発表に向けて準備②
15	コンサート形式による成果発表

科目名	演奏特殊研究6	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	阪本 朋子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
前期の目的と目標に加えて、「知識」から「知識を動かす力」を身につけ、実社会へいかにつなげて行くかを探ります。					
授業概要					
前期と同様です。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
前期と同様です。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業修了コンサートでの発表 100%					
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
個別に指示します。					
特記事項					
声楽専攻の学生には、演技演習にふさわしい服装での参加を提示することがあります。					

教員実務経験

歌手に対して適切なアドバイスを求められるコレペティ(オペラ歌手の下稽古)の経験を活かして、コレペティに求められる能力の方向性を示す。指揮者のもとでピアノを弾く際に必要な基本的な能力(正確なテンポの維持、指揮者のデューナミックを感じ取り実際の音にする能力)などを習得させる。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	オリエンテーション
2	前期の授業形態を継続致します。 受講生各人の課題を全受講生で共有し、多角的な観点でディスカッションする能力を身につけます。
3	受講生各人の課題を全受講生で共有し、多角的な観点でディスカッションする能力を身につけます。
4	受講生各人の課題を全受講生で共有し、多角的な観点でディスカッションする能力を身につけます。
5	受講生各人の課題を全受講生で共有し、多角的な観点でディスカッションする能力を身につけます。
6	受講生各人の課題を全受講生で共有し、多角的な観点でディスカッションする能力を身につけます。
7	受講生各人の課題を全受講生で共有し、多角的な観点でディスカッションする能力を身につけます。
8	受講生各人の課題を全受講生で共有し、多角的な観点でディスカッションする能力を身につけます。
9	受講生各人の課題を全受講生で共有し、多角的な観点でディスカッションする能力を身につけます。
10	受講生各人の課題を全受講生で共有し、多角的な観点でディスカッションする能力を身につけます。
11	受講生各人の課題を全受講生で共有し、多角的な観点でディスカッションする能力を身につけます。
12	受講生各人の課題を全受講生で共有し、多角的な観点でディスカッションする能力を身につけます。
13	授業修了コンサートの準備①
14	授業修了コンサートの準備②
15	授業修了コンサート

科目名	演奏特殊研究8	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	栗山 和樹				
クラス名	後期:栗山先生は集中講義です。				
授業目的と到達目標					
クラシック音楽演奏家であっても、演奏や教育の現場でポピュラー音楽を演奏する機会があるかと思います。このクラスではコード進行、ボイスिंग、コンピング、アドリブなどポピュラー音楽の基礎をジャズ史と共に学び、ポピュラー音楽理論の基礎力を身に付けることを目標とします。					
授業概要					
「ポピュラー音楽演奏の基礎」:ボサノバやジャズ・スタンダード曲を教材にコード・ヴォイスिंगの実践を通して、コード・ネームやスケールなどポピュラー音楽演奏に必要な基本事項を学び、アドリブにもトライしてみます。ジャズの歴史を俯瞰することにより、どうしてこのような技法ができたかをも考えます。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
課題を必ず演習してみることに。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
提出課題の評価、および授業へ取り組む姿勢により評価。					
教科書					
教科書1	授業内で配布するハンドアウト。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
<p>作編曲家として長年、商業音楽の世界で実践してきたポピュラー音楽における作編曲およびピアノ演奏の経験を活かし、ポピュラー音楽におけるコード理論の実践方法を取得させる。アメリカ留学時に学んだアメリカにおける「大学におけるジャズ教育方法」を基礎に、30年以上にわたる日本の音楽大学でのポピュラー音楽理論指導の経験を活かし、自らが体系化した方法による授業をする。</p>	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	「コードシンボル」
2	2 ノート・ヴォイシング
3	フォー・ウェイ・クローズ
4	テンション① 9th
5	テンション② 13th
6	テンション③ 振り子ベース
7	「いつか王子さまが」実習
8	映画『ベニィ・グッドマン物語』で学ぶジャズの歴史①
9	映画『ベニィ・グッドマン物語』で学ぶジャズの歴史②
10	スケール
11	枯葉 短調のヴォイシング
12	ベースライン
13	ブルース
14	ドロップ・ツー
15	質疑応答

科目名	演奏特殊研究9	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 前期	形態	演習		
教員名	水口 聡				
クラス名					
授業目的と到達目標					
高度な歌唱技術を身につけ、豊かな音楽性を育む					
授業概要					
オペラ・アリアを古典から現代までの時代も超えたあらゆる作品を取り上げ、正しいテクニックに基づいた歌唱表現を舞台上で実践出来る歌手を育てる。さらに国際オペラコンクール、オペラ劇場を目指す学生の為のアドバイスを教授する。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

授業計画(各回予定)

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	呼吸法の基礎
2	歌唱法の実践
3	各々の学生に相応しいレパートリーを試みる
4	各々の学生の声種とレパートリー
5	レパートリーの調整
6	レパートリーの調整
7	発声と作品の解釈
8	舞台上で声を通しての表現の仕方
9	イタリアオペラ、ドイツオペラ、フランスオペラの歌詞とメロディーの伝え方
10	イタリアオペラ、ドイツオペラ、フランスオペラの歌詞とメロディーの伝え方
11	舞台上でのオペラ歌手の為の演技の基本
12	声種にあったレパートリーから二重唱を試みる
13	声種にあったレパートリーから4重唱を試みる
14	舞台上で演奏
15	ホールで演奏

科目名	演奏特殊研究10	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	水口 聡				
クラス名					
授業目的と到達目標					
高度な歌唱技術を身につけ、豊かな音楽性を育む。					
授業概要					
オペラ・アリアを古典から現代までの時代も超えたあらゆる作品を取り上げ、正しいテクニックに基づいた歌唱表現を舞台上で実践できる歌手を育てる。さらに国際オペラコンクール、オペラ劇場を目指す学生の為のアドバイスを教授する。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	正しい呼吸法のもと、歌唱いにおいて必要な自然で豊かな声を出すことを目指す。
2	正しい呼吸法のもと、歌唱いにおいて必要な自然で豊かな声を出すことを目指す。
3	オペラ、それぞれにおける様式を習得し、それを表現に結び付ける。
4	オペラ、それぞれにおける様式を習得し、それを表現に結び付ける。
5	オペラ、それぞれにおける様式を習得し、それを表現に結び付ける。
6	ステージ上でのマナー、表情、表現等を体得し、真の舞台人の育成を図る。
7	ステージ上でのマナー、表情、表現等を体得し、真の舞台人の育成を図る。
8	作品を通して実践する。
9	作品を通して実践する。
10	オペラ、オペレッタのレチタティーヴォの表現のテクニックを学ぶ。
11	
12	オペラ、オペレッタのレチタティーヴォの表現のテクニックを学ぶ。
13	オペラの衣装の歴史と様式を学ぶ。
14	舞台で実践する。
15	ホールで演奏する。

科目名	作曲特殊研究1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	加登 匡敏				
クラス名					
授業目的と到達目標					
電子音響音楽(Electroacoustic Music)における高度な創作技法と理論的研究を探究し、独自の芸術的表現を確立することを目的とし、テクノロジーを用いた音楽表現の可能性を多角的に検証します。					
授業概要					
初期のミュージックコンクレートや電子音楽から、現代のライブエレクトロニクス、アルゴリズムック・コンポジションに至るまでの歴史の変遷を分析します。既存の作品研究を通じて、自身の創作における美学的・哲学的根拠を明確にします。 最終的には、作品の公開(演奏)や展示を通じて、音響空間のデザインや聴衆への提示方法についても実践的に学びます。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
本授業で扱う研究内容より、後期開講の「作曲特殊研究2」と一緒に受講することを推奨します。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業に取り組む姿勢			60		
研究発表			40		
教科書					
教科書1	教科書は使用しないが適宜プリント等を配布する。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	授業時に適宜紹介する。				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション、研究立案
2	制作演習と個別指導
3	制作演習と個別指導
4	制作演習と個別指導
5	制作演習と個別指導
6	制作演習と個別指導
7	制作演習と個別指導
8	中間発表、ディスカッション
9	制作演習と個別指導
10	制作演習と個別指導
11	制作演習と個別指導
12	制作演習と個別指導
13	制作演習と個別指導
14	制作演習と個別指導
15	研究発表

科目名	作曲特殊研究2	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	加登 匡敏				
クラス名					
授業目的と到達目標					
電子音響音楽(Electroacoustic Music)における高度な創作技法と理論的研究を探究し、独自の芸術的表現を確立することを目的とし、テクノロジーを用いた音楽表現の可能性を多角的に検証します。					
授業概要					
固定メディア作品から、楽器演奏を伴う混合楽曲、さらには身体性や空間性を伴うパフォーマンスやインスタレーションまで、多様な形態での作品制作を行います。作品の公開演奏や展示を通じて、音響空間のデザインや聴衆への提示方法についても実践的に学びます。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
本授業で扱う研究内容より、前期開講の「作曲特殊研究1」と一緒に受講することを推奨します。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業に取り組む姿勢			60		
研究発表			40		
教科書					
教科書1	教科書は使用しないが適宜プリント等を配布する。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	授業時に適宜紹介する。				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	オリエンテーション、研究立案
2	制作演習と個別指導
3	制作演習と個別指導
4	制作演習と個別指導
5	制作演習と個別指導
6	制作演習と個別指導
7	制作演習と個別指導
8	中間発表、ディスカッション
9	制作演習と個別指導
10	制作演習と個別指導
11	制作演習と個別指導
12	制作演習と個別指導
13	制作演習と個別指導
14	制作演習と個別指導
15	研究発表

科目名	作曲特殊研究3	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 前期	形態	演習		
教員名	高橋 裕				
クラス名					
授業目的と到達目標					
世に出しても通用する大学院修士修了作品を作曲出来るようになることが到達目標であり、そのために多くの楽曲の作品分析やオーケストレーションを習得することを目的とする。					
授業概要					
和声学、フランス近代音楽の楽曲のアナリゼをはじめとし、オーケストレーションを徹底して学ぶ。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
和声学は常に予習復習は常に行うことを原則とする。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
和声学			30		
楽曲分析			30		
オーケストレーション			40		
教科書					
教科書1	管弦楽法				
出版社名	音楽之友社	著者名	伊福部昭		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
和声学、楽曲分析、オーケストレーションと学ぶことは多く、休まず寛容に学ぶことは大切である。					

教員実務経験

教員は室内楽からオーケストラ、オペラに至るまで多くの作曲をしてきている。これまで本校の大学院修士修了生6名を教え、様々な院生に対応する能力も持っている。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	1. 和声学、ドビュッシーの前奏曲、ラヴェルの亡き王女のためのパヴァーヌ
2	2. 和声学、ドビュッシーの前奏曲、ラヴェルの亡き王女のためのパヴァーヌ
3	3. 和声学、ドビュッシーの前奏曲、ラヴェルの亡き王女のためのパヴァーヌ
4	4. 和声学、ドビュッシーの前奏曲、ラヴェルの亡き王女のためのパヴァーヌ
5	5. 和声学、ドビュッシーの前奏曲、ラヴェルの亡き王女のためのパヴァーヌ
6	6. 和声学、ドビュッシーの前奏曲、ラヴェルの亡き王女のためのパヴァーヌ
7	7. 和声学、ドビュッシーの前奏曲、ラヴェルの亡き王女のためのパヴァーヌ
8	1. 和声学、クーブランの墓、展覧会の絵
9	2. 和声学、クーブランの墓、展覧会の絵
10	3. 和声学、クーブランの墓、展覧会の絵
11	4. 和声学、クーブランの墓、展覧会の絵
12	5. 和声学、クーブランの墓、展覧会の絵
13	6. 和声学、クーブランの墓、展覧会の絵
14	7. 和声学、クーブランの墓、展覧会の絵
15	8. 和声学、クーブランの墓、展覧会の絵

科目名	作曲特殊研究4	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	高橋 裕				
クラス名					
授業目的と到達目標					
世に出しても通用する大学院修士修了作品を作曲出来るようになることが到達目標であり、そのために多くの楽曲の作品分析やオーケストレーションを習得することを目的とする。					
授業概要					
和声学、フランス近代音楽の楽曲のアナリゼをはじめとし、オーケストレーションを徹底して学ぶ。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
和声学は常に予習復習は常に行うことを原則とする。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
和声学			30		
楽曲分析			30		
オーケストレーション			40		
教科書					
教科書1	管弦楽法				
出版社名	音楽之友社	著者名	伊福部昭		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	1. 和声学、院生の作曲作品に応じた楽曲の分析、オーケストレーション
2	2. 和声学、院生の作曲作品に応じた楽曲の分析、オーケストレーション
3	3. 和声学、院生の作曲作品に応じた楽曲の分析、オーケストレーション
4	4. 和声学、院生の作曲作品に応じた楽曲の分析、オーケストレーション
5	5. 和声学、院生の作曲作品に応じた楽曲の分析、オーケストレーション
6	6. 和声学、院生の作曲作品に応じた楽曲の分析、オーケストレーション
7	7. 和声学、院生の作曲作品に応じた楽曲の分析、オーケストレーション
8	8. 和声学、院生の作曲作品に応じた楽曲の分析、オーケストレーション
9	9. 和声学、院生の作曲作品に応じた楽曲の分析、オーケストレーション
10	10. 和声学、院生の作曲作品に応じた楽曲の分析、オーケストレーション
11	11. 和声学、院生の作曲作品に応じた楽曲の分析、オーケストレーション
12	12. 和声学、院生の作曲作品に応じた楽曲の分析、オーケストレーション
13	13. 和声学、院生の作曲作品に応じた楽曲の分析、オーケストレーション
14	14. 和声学、院生の作曲作品に応じた楽曲の分析、オーケストレーション
15	15. 和声学、院生の作曲作品に応じた楽曲の分析、オーケストレーション

科目名	美学特論1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度前期	形態	講義		
教員名	加藤 哲弘				
クラス名					
授業目的と到達目標					
建学の精神にある「自由の精神」と「創造性」に深く関わる「美学」という学問がじっさいにはどのようなものであるのかをその歴史的展開のなかで理解することを目的とする。芸術にたずさわる大学院生として、美学の正確な意味を他人に伝えることができるようになることを目指したい。					
授業概要					
第2回から第14回まで各回ごとに、近代における日本の美意識を論じた古典的な文献を採りあげて、内容紹介と検討を行う。具体的には、明治初期から現代に至るまでの理論家や芸術家たちによる著作の内容を毎回概観する。なお下記の授業計画は暫定的なものであり、受講学生の興味に応じて変更する場合がある。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
講義までに授業資料として提示する参考文献を読んでおくこと。授業内容を知識として暗記するのではなく、つねに自らの制作や研究課題に直結する問題意識とともに理解すること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
平常点(授業内容への理解、ディスカッションへの積極的参加、質問への解答など)			100		
教科書					
教科書1	使用しない(必要のあるときはUNIPA経由で事前にプリントを配布する)。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	『美学の事典』				
出版社名	丸善出版	著者名	美学会編		
参考書名2	『東西芸術精神の伝統と交流』				
出版社名	理想社	著者名	山本正男		
参考書名3	『敗者の精神史』				
出版社名	岩波書店	著者名	山口昌男		
参考書名4	『絵画の領分』				
出版社名	朝日新聞社	著者名	芳賀徹		
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
関西学院大学 大学博物館長(2020/21年度)	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	0413 講義概要
2	0420 明治以前の美意識論 本居宣長『源氏物語玉の小櫛』(1796)
3	0427 ハーン『知られぬ日本の面影』(1894)
4	0508 未定
5	岡倉覚三『茶の本』(1906)
6	0518 柳宗悦『雑器の美』(1926)
7	0525 九鬼周造『「いき」の構造』(1930)
8	谷崎潤一郎『陰翳礼賛』(1933)
9	0608 和辻哲郎『風土』(1935)
10	0615 タウト『日本の家屋と生活』(1937)
11	0622 岸田劉生『美の本体』(1941)
12	0706 岡本太郎『日本の伝統』(1956)
13	0706 岡本太郎『日本の伝統』(1956)
14	0713 四方田犬彦『「かわいい」論』(2006)
15	0727 まとめとコメント

科目名	美学特論2	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	講義		
教員名	加藤 哲弘				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>建学の精神にある「自由の精神」と「創造性」に深く関わる「美学」という学問がじっさいにはどのようなものであるのかを理解できるようになることを目的とする。芸術にたずさわる大学院生として、美学の正確な意味とその現代的課題を他人に伝えることができるようになることを目指したい。</p>					
授業概要					
<p>第2回から第14回まで各回ごとに、美と感性を論じた美学史上の古典的な文献を探りあげて、内容紹介と検討を行う。具体的には、古代ギリシアや近代欧米の理論家や芸術家たちによる著作を概観する。なお下記の授業計画は暫定的なものであり、受講学生の興味に応じて変更する場合がある。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>講義までに授業資料として提示する参考文献を読んでおくこと。授業内容を知識として暗記するのではなく、つねに自らの制作や研究課題に直結する問題意識とともに理解すること。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
平常点(授業内容への理解、ディスカッションへの積極的参加、質問への解答など)			100		
教科書					
教科書1	使用しない(必要な場合は、UNIPA 経由で事前にプリントを配布する)。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	『美学の事典』				
出版社名	丸善出版	著者名	美学会編		
参考書名2	『西洋美学史』				
出版社名	東京大学出版会	著者名			
参考書名3	『美の変貌』				
出版社名	世界思想社	著者名	当津武彦編		
参考書名4	『西洋美学のエッセンス』				
出版社名	ペリカン社	著者名	今道友信編		
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
関西学院大学博物館長(2020-21年度)	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	1 0907 講義概要の説明
2	2 0914 ピュタゴラスと古典的美意識の成立(古代ギリシャ)
3	3 0924(未定)
4	4 0928 ウィトルウィウス『建築について』(古代ローマ)
5	5 1005 アウグスティヌス『音楽論』(西欧中世)
6	6 1019 カスティリオーネ『廷臣論』(1528 西欧ルネサンス)
7	7 1026 ホガース『美の分析』(1753)
8	8 1109 パーク『美と崇高の観念の起源』(1757)
9	9 1116 ローゼンクランツ『醜の美学』(1853)
10	10 1125(未定)
11	11 1130 ニーチェ『悲劇の誕生』(1872)
12	12 1207 ルービン『20世紀美術におけるプリミティヴィズム』(1984)
13	13 1214 ゼキ『脳は美をいかに感じるか』(1999)
14	14 1221 ロペスほか『なぜ美を気にかけるのか』(日常生活の美学 2022)
15	15 7118 まとめとコメント

科目名	芸術学特論1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 前期	形態	講義		
教員名	加藤 哲弘				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>芸術を制作することとも楽しむこととも異なる、芸術を「学ぶ」ということについて包括的な理解を得ることで、建学の精神にもある創造性を涵養することを講義の目的とする。本講義で得られた知見を各自の作品制作や批評活動に活かすとともに、受講生が、芸術を学ぶ大学院生として、自らの立脚点を自覚できるようになることを目指したい。</p>					
授業概要					
<p>第2回から第14回まで各回ごとに、芸術(アート)の目的を論じた古典的な文献を採りあげて、内容紹介と検討を行う。具体的には、古代ギリシアや近代欧米の理論家や芸術家たちによる著作を概観して、芸術が何のために存在するかを考察する。なお下記の授業計画は暫定的なものであり、受講学生の興味に応じて変更する場合があります。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>講義開始の前に指示する参考文献を読んでおくこと。授業内容を知識として暗記するのではなく、つねに問題意識とともに理解するようにすること。また、機会があれば、美術館における作品展示を見たり、多様なジャンルの芸術を積極的に体験するようにしておくこと。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
平常点(授業内容への理解、ディスカッションへの積極的参加、質問への解答など)			100		
教科書					
教科書1	使用しない(必要のあるときはUNIPA経由で事前にプリントを配布する)。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	『美学の事典』				
出版社名	丸善出版	著者名	美学会編		
参考書名2	『芸術理論古典文献アンソロジー(西洋篇)』				
出版社名	幻冬舎	著者名	加藤哲弘編		
参考書名3	『美術の物語』				
出版社名	河出書房新社	著者名	ゴンブリッチ		
参考書名4	『芸術の諸相(講座美学第4巻)』				
出版社名	東京大学出版会	著者名	今道友信		
参考書名5	『芸術学』				

出版社名	東京大学出版会	著者名	渡辺護
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
関西学院大学博物館長(2020-21 年度)			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1 0413 講義概要の説明		
2	2 0420 プラトン『国家』(c.375 BC)		
3	3 0427 アリストテレス『詩学』(c.335-330 BC)		
4	4 0508(未定)		
5	5 0511 ルブラン「感情表現に関する講演」(1696)		
6	6 0518 レッシング『ラオコオン』(1766)		
7	7 0525 カント『判断力批判』(1790)		
8	8 0601 ヘーゲル『美学講義』(1817-29)		
9	9 0608 ハイデガー『芸術作品の根源』(1935)		
10	10 0615 ベンヤミン『複製技術時代の芸術』(1935)		
11	11 0622 ブルトン『シュルレアリスム宣言』(1924)		
12	12 0629 グリーンバーグ「モダニズムの絵画」(1960)		
13	13 0706 エーコ『開かれた作品』(1962)		
14	14 0713 ダントー『ありふれたものの変容』(2017)		
15	15 0727 まとめとコメント		

科目名	芸術学特論2	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	講義		
教員名	加藤 哲弘				
クラス名					
授業目的と到達目標					
現代美術における古典的作品と現代美術を論じる古典的な批評言説についての基本的な理解を得ることを目的とする。本講義で得られた知見を各自の作品制作や批評活動に活かすとともに、受講生が、芸術を学ぶ大学院生として、建学の精神にもある創造性を身につけ、自らの立脚点を自覚できるようになることを目指したい。					
授業概要					
20世紀末から21世紀の現在に至るまでのアートの展開の中から古典的と呼ばれる作品を採りあげ、その紹介と討論を行う。基本的にはテキスト(日本語訳)の講読と討論を通して、現代アートを論じる際に念頭に置いておくべき基礎的な文献の解題を行う。なお、下記の授業計画は暫定的なものであり、受講学生の興味に応じて変更する場合がある。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
講義までに指示する参考文献を読んでおくこと。授業内容を知識として暗記するのではなく、つねに問題意識とともに理解するようにすること。また、機会があれば、ビエンナーレや国際展などの現代アートの展覧会を訪れたり、美術館における作品展示を見たりしておくこと。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
平常点(授業内容への理解、ディスカッションへの積極的参加、質問への解答など)			100		
教科書					
教科書1	使用しない(必要があれば、UNIPA 経由で授業資料を配布する)。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	『美学の事典』				
出版社名	丸善出版	著者名	美学会編		
参考書名2	『現代美術史 欧米、日本、トランスナショナル』				
出版社名	中央公論新社	著者名	山本浩貴		
参考書名3	『20世紀美術』				
出版社名	筑摩書房	著者名	高階秀爾		
参考書名4	『"めくるめく現代アート』				
出版社名	フィルムアート社	著者名	笈菜奈子		
参考書名5	『なぜ、これがアートなの?』				
出版社名	淡交社	著者名	A・アレナス		

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
関西学院大学博物館長(2020-21 年度)	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	1 0907 講義概要(モダンとポストモダン)
2	2 0914 ポストモダニズム建築
3	3 0924(未定)
4	4 0928 パフォーマンスインスタレーション
5	5 1005 パブリックアート
6	6 1019 メディア芸術(マクルーハン)
7	7 1026 ポストコロニアル(サイド)
8	8 1109 ジェンダー(ボロック)
9	9 1116 脱構築建築(隈研吾)
10	10 1125(未定)
11	11 1130 ヴァナキュラー、ポップ、サブカルチャー
12	12 1207 アートの価値 教養、観光、市場、そして AI
13	13 1214 芸術のグローバル化とディアスポラ
14	14 1221 アクティヴィズム(パンクシー)
15	15 0118 まとめとコメント

科目名	美術史学特論1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 前期	形態	講義		
教員名	河田 昌之				
クラス名					
授業目的と到達目標					
日本美術の特徴を作品内容の読み解きを通して理解することを目指します。仏画、物語や随筆、意匠などさまざまなジャンルに分類されるなかから、代表的な古美術作品を選んで、独自の造形感覚や表現を考えながら、日本美術に対して多くの視点を持つことを目標にします。					
授業概要					
伊勢物語は源氏物語と並ぶ平安時代を代表する古典文学として知られています。「むかし、をどこありけり」をどこかで聞いたことがあるでしょう。中学、高校時代に習ったことがある人も多いかと思います。在原業平(825～880)はこの物語の主人公として、今も人気不衰えません。2025年は業平の生誕1200年に当たりました。これにともない展覧会が開催され、多くの作品が紹介されました。絵巻や工芸には伊勢物語を題材にした作品が残されています。これらの展覧会を参考にして、伊勢物語の美術を取り上げます。その美術とともに、物語の					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
展覧会でさまざまな作品を観てください。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
レポート			70		
平常の授業態度			30		
教科書					
教科書1	使用しません。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	『伊勢物語 造形表現集成』				
出版社名	思文閣出版	著者名	河田昌之 赤澤真理 大口裕子 伊永陽子 編		
参考書名2	『伊勢物語絵巻絵本大成』				
出版社名	思文閣出版	著者名	羽衣国際大学日本文化研究所 伊勢物語絵研究会		
参考書名3	特別展図録『伊勢物語 雅と恋のかたち』2007年				
出版社名	和泉市久保惣記念美術館	著者名	和泉市久保惣記念美術館		
参考書名4	展覧会図録『伊勢物語 王朝が映す王朝の恋とうた』2025年11月1日～12月7日				
出版社名	根津美術館	著者名			
参考書名5	特別展 生誕1200年『歌仙在原業平と伊勢物語』2026年2月7日～4月5日				

出版社名	三井記念美術館	著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
登録博物館の学芸員として、約 40 年間に展覧会の企画や美術品の収集、保管、展示等の実務にあたり、そのうちの約 10 年間は館長として組織運営や対外的な交流などの美術館マネジメント分野にも携わる。展覧会の企画や開催の実務、海外での作品調査の経験も多い。著書、論文が複数ある。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	伊勢物語絵について 1(平安～江戸時代 絵巻・冊子・扇面・色紙・屏風)		
2	伊勢物語絵について 2(平安～江戸時代 絵巻・冊子・扇面・色紙・屏風)		
3	伊勢物語絵作例 1 (久保惣美術館本 1)		
4	伊勢物語絵作例 1 (久保惣美術館本 2)		
5	伊勢物語絵作例 2 (小野本 1)		
6	伊勢物語絵作例 2 (小野本 2)		
7	伊勢物語絵作例 3 (スペンサーコレクション本)		
8	伊勢物語絵作例 4 (嵯峨本)		
9	伊勢物語絵作例 5(宗達色紙)		
10	伊勢物語絵作例 6 (光琳、乾山の作品)		
11	伊勢物語絵作例 7(住吉如慶筆「伊勢物語絵巻」)		
12	徒然草の絵画(徒然草図の流れ)		
13	徒然草図の作例 1(住吉派 1)		
14	徒然草図の作例 2(住吉派 2)		
15	まとめ 流派による物語理解や表現		

科目名	美術史学特論1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 前期	形態	講義		
教員名	石井 元章				
クラス名					
授業目的と到達目標					
建学の精神の国際的視野に立って、本講は美術史学に必要な基礎知識を習得することを目的とする図像学の基礎である文献(典拠)と図像の関係を押さえ、作品の特殊性を解明する訓練を行う					
授業概要					
美術史学の基礎の一つ、イコノグラフィーをギリシア・ローマ神話主題とキリスト教主題に関して考察する					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
美術史学の基礎知識を習得すると同時に、先行研究論文の読み方もマスターしてほしい					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業に対する態度			50		
レポート			50		
教科書					
教科書1	西洋美術の歴史 4 ルネサンス 1				
出版社名	中央公論社	著者名	小佐野重利他		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	西洋美術解読事典				
出版社名	河出書房新社	著者名	ジェイムズ・ホール		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション イコノグラフィーとイコノロジー ギリシア・ローマ神話主題とキリスト教主題
2	ウェヌスの変容 1 ギリシア神話のアフロディテの図像が裸婦、横臥像になる過程を追い、それがローマ神話の中でウェヌスの図像として広がっていく過程を理解する
3	ウェヌスの変容 2 古代世界で形成された「横たわる裸婦」としてのウェヌスの図像が、ルネサンス以降の美術の中で受け継がれていく過程を理解する
4	ヘラクレスの変容 1 ギリシア・ローマ神話の中で、第一の英雄としてのヘラクレスの図像が形成させる様を、十二神業を中心として理解する
5	ヘラクレスの変容 2 ルネサンス以降の美術の中で、ヘラクレスの図像がどのように援用されるかを理解する
6	ヴェネツィア神話の誕生 ヴェネツィア共和国の成り立ちとルネサンスの美術の概要を知る
7	ヴェネツィア神話の変容 15・16世紀のヴェネツィア美術黄金時代について学ぶ
8	聖マルコの物語 1 本来の福音書記者聖マルコ伝を学ぶ中世における図像例を理解する
9	聖マルコの物語 2 15世紀の作例を理解する
10	聖マルコの物語 3 トゥツリオ・ロンバルド作《総督ジョヴァンニ・モチェニーゴ記念碑》に見られる図像の問題点を指摘する
11	聖マルコの物語 4 聖マルコとアニアヌスの図像の変遷を辿る
12	ヴェネツィアの図像体系 1 ヴェネツィア共和国の中心としてのサン・マルコ広場に込められた象徴的意味を理解する
13	ヴェネツィアの図像体系 2 サン・マルコ広場に込められた象徴的意味と、隣接する総督宮の関係を理解する
14	ヴェネツィアの図像体系 3 新旧行政館、時計塔、ナポレオン翼などについて学ぶ
15	学生発表とレポート提出

科目名	美術史学特論2	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	講義		
教員名	河田 昌之				
クラス名					
授業目的と到達目標					
日本美術の特徴を作品内容の読み解きを通して理解することを目指します。仏画、物語や随筆、意匠などさまざまなジャンルに分類されるなかから、代表的な古美術作品を選んで、独自の造形感覚や表現を考えながら、日本美術に対して多くの視点を持つことを目標にします。					
授業概要					
伊勢物語は源氏物語と並ぶ平安時代を代表する古典文学として知られています。「むかし、をとこありけり」をどこかで聞いたことがあるでしょう。中学、高校時代に習ったことがある人も多いかと思います。在原業平(825～880)はこの物語の主人公として、今も人気不衰えません。2025年は業平の生誕1200年に当たりました。これにともない展覧会が開催され、多くの作品が紹介されました。絵巻や工芸には伊勢物語を題材にした作品が残されています。これらの展覧会を参考にして、伊勢物語の美術を取り上げます。その美術とともに、物語の魅力について解説します。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
展覧会でさまざまな作品を観てください。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
レポート			70		
平常の授業態度			30		
教科書					
教科書1	使用しません。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	『伊勢物語 造形表現集成』				
出版社名	思文閣出版	著者名	河田昌之・赤澤真理・大口裕子・伊永陽子編		
参考書名2	『伊勢物語絵巻絵本大成』				
出版社名	角川学芸出版	著者名	羽衣国際大学 伊勢物語絵研究会編		
参考書名3	『伊勢物語全読解』				
出版社名	和泉書院	著者名	片桐洋一		
参考書名4	展覧会図録「伊勢物語 美術が映す王朝の恋とうた」2025年11月1日～12月7日				
出版社名	根津美術館	著者名			
参考書名5	特別展 生誕1200年「歌仙在原業平と伊勢物語」2026年2月21日～4月5日				

出版社名	三井記念美術館	著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
登録博物館の学芸員として、約 40 年間に展覧会の企画や美術品の収集、保管、展示等の実務にあたり、そのうちの約 10 年間は館長として組織運営や対外的な交流などの美術館マネジメント分野にも携わる。展覧会の企画や開催の実務、海外での作品調査の経験も多い。著書、論文が複数ある。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	伊勢物語絵について 1(平安～江戸時代 絵巻・冊子・扇面・色紙・屏風)		
2	伊勢物語絵について 2(平安～江戸時代 絵巻・冊子・扇面・色紙・屏風)		
3	伊勢物語の絵画(絵巻 1)		
4	伊勢物語の絵画(絵巻 2)		
5	伊勢物語の絵画(絵巻 3)		
6	伊勢物語の屏風絵 1		
7	伊勢物語の屏風絵 2		
8	伊勢物語の屏風絵 3		
9	伊勢物語の工芸 1		
10	伊勢物語の工芸 2		
11	伊勢物語の工芸 3		
12	伊勢物語の染織		
13	伊勢物語と芸能		
14	伊勢物語と庭園		
15	まとめ 伊勢物語の美術(総論として)		

科目名	美術史学特論2	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	講義		
教員名	石井 元章				
クラス名					
授業目的と到達目標					
建学の精神の国際的視野に立って、本講義は美術史学研究に必要な基礎知識を習得することを目的とし、後期はヴェネツィア美術に関する文献を講読する。					
授業概要					
サルヴァトーレ・セツティス『絵画の発明』晶文社、2002 デイヴィッド・ローザンド『ヴェネツィア神話』三元社、2024 を輪読し、ヴェネツィア・ルネサンス美術に関する理解を深める。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
著作を読みながら、ヴェネツィア美術に関する理解と知識を深める。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業に対する態度			50		
レポート			50		
教科書					
教科書1	西洋美術の歴史 4 ルネサンスI				
出版社名	中央公論新社	著者名	小佐野重利他		
教科書2	絵画の発明: ジョルジョーネ「嵐」解説				
出版社名	晶文社	著者名	サルヴァトーレ・セツティス		
教科書3	ヴェネツィア神話				
出版社名	三元社	著者名	デイヴィッド・ロザンド		
参考書・参考文献					
参考書名1	西洋美術解説事典				
出版社名	河出書房新社	著者名	ジェイムズ・ホール		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	『絵画の発明』解説
2	『絵画の発明』第一章
3	『絵画の発明』第二章
4	『絵画の発明』第三章
5	『絵画の発明』第四章
6	『絵画の発明』第五章
7	『ヴェネツィア神話』序説
8	『ヴェネツィア神話』第一章
9	『ヴェネツィア神話』第二章
10	『ヴェネツィア神話』第二章
11	『ヴェネツィア神話』第三章
12	『ヴェネツィア神話』第四章
13	『ヴェネツィア神話』第五章
14	『ヴェネツィア神話』第五章
15	まとめレポート提出

科目名	現代美術特論1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度前期	形態	講義		
教員名	永田 靖				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>本講義は、20世紀から現代に至る舞台芸術・パフォーマンスを主たる対象とし、「表象(representation)」という概念の歴史の変容と理論的射程を、批判的かつ多角的に検討することを目的とする。表象は単なる再現行為ではなく、社会的現実や主体、国家、民族、ジェンダー、文化的他者像を構築する装置として機能してきた。本講義では、家族、アジア、冷戦、インターカルチュラリズム、グローバリゼーションという五つの軸を通して、表象がいかに政治的・歴史的な文脈と結びつき、権力構造と相互作用してきたのかを検証する。到達目標は次の通りである。①表象理論の主要概念(再現、代理、構築、他者化、ハイブリディティなど)を理論的文脈の中で整理し、自らの言葉で説明できる。②具体的な舞台芸術作品を、歴史的・社会的背景と関連づけながら、理論的枠組みを用いて批判的に分析できる。③表象と国家、植民地主義、ジェンダー、文化越境、ディアスポラといった問題群との関係を、先行研究を踏まえて論証できる。④本講義で扱う議論を、自身の研究テーマと接続し、理論的枠組みの再構成や問題設定の深化に活用できる。</p>					
授業概要					
<p>本講義では、近代における家族制度の成立と崩壊をめぐる表象から出発し、帝国主義とアジア認識、冷戦期の文化外交とイデオロギー装置、ポスト冷戦期のインターカルチュラリズム、さらにグローバリゼーションの進展に伴う文化の越境と再編へと至る歴史の流れを追う。</p> <p>各回では、具体的な舞台作品や上演事例を取り上げながら、それらを以下の理論的視座と接続する。ポストコロニアル理論、カルチュラル・スタディーズ、パフォーマンス研究、表象論・メディア論、ナショナリズム研究、作品分析と理論的議論を往還させることで、芸術が単に社会を反映するのではなく、社会的意味を生産し、歴史的想像力を構築する営みであることを明らかにする。授業は講義形式を基本としつつ、文献講読、受講者による問題提起、ディスカッションを組み合わせ、研究志向型の討議空間を形成する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>各回で扱う作品および指定文献については、事前に読解・視聴を済ませ、議論の論点を整理しておくこと。単なる理解にとどまらず、理論的立場や問題設定の妥当性を批判的に検討する姿勢が求められる。</p> <p>少なくとも一度は担当発表を行い、文献の要点整理だけでなく、研究的観点からの論点提示を行うこと。最終レポートは、講義内容を踏まえつつ、自身の研究テーマと接続させた研究小論文(理論的枠組みの明示を含む)とする。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	イントロダクションー表象とは何か。表象概念の多義性を確認し、近代以降の思想史の中でその意味がどのように変容してきたかを整理する。		
2	家族の表象① イブセン『海の夫人』を題材に、近代家族制度の成立と個人の自由の問題を、ジェンダーと主体形成の観点から再検討する。		
3	家族の表象② 森本薫『女の一生』を題材に、明治初期から太平洋戦争終了までの半世紀の家族が直面した家、夫婦、社会、戦争の問題を国家イデオロギーとの関係から分析する。		
4	家族の表象③ 松田正隆『夏の砂の上』を題材に、近代的家族制が崩壊した後の家族のあり方を探求する。		
5	アジアの表象① ロシア・バレエ団『火の鳥』を題材に、神話的物語とアジア的想像力の交差するところに現れるアジアへの特殊な観点について考察する。		
6	アジアの表象② 森本薫『大川仇討』を題材に、琉球の伝統演劇と日本の植民地主義との関係を文化統治の視点から探求する。		
7	アジアの表象③ 平田オリザ『ソウル市民 1919』を題材に、日本の帝国主義と民族的自己表象の庶民的抗争を探求する。		
8	冷戦の表象① アメリカン・バレエ・シアターの冷戦期におけるモスクワ公演を題材に、舞台芸術が文化外交の機能を担っていたことを考察する。		
9	冷戦の表象② 寺山修司『時代はサーカスの象に乗って』を題材に、1960年代カウンターカルチャーが内包する政治的矛盾と表象戦略を検討する。		
10	冷戦の表象③ 林懐民作・演出、雲門舞集による『新傳』を題材に、冷戦期の東アジアにおける台湾の文化政治的な位置の動揺と緊張を探求する。		
11	冷戦の表象③ 林懐民作・演出、雲門舞集による『新傳』を題材に、冷戦期の東アジアにおける台湾の文化政治的な位置の動揺と緊張を探求する。		
12	インターカルチュラリズムからグローバリゼーションへ② 蜷川幸雄『ハムレット』を題材に、オリエンタリズムと市場経済との共創関係を探求する。		
13	インターカルチュラリズムからグローバリゼーションへ③ ロベール・ルパージュ『ブルードラゴン』を題材に、都市間の移動とディアスポラの問題を探求する。		
14	インターカルチュラリズムからグローバリゼーションへ④ シドニー・オリンピック開会式のパフォーマンスを題材に、多文化主義を標榜する国家と先住民族のパフォーマンスのあり方について考察する。		

15

総括と試験

授業全体についてのレポート型試験を行う。

科目名	現代美術特論2	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	講義		
教員名	永田 靖				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>本講義は、20世紀から現代に至る舞台芸術・パフォーマンスを対象に、人間と自然との関係性をめぐる表象の変容を、環境思想・ポストヒューマン理論・エコクリティシズムの観点から批判的に検討することを目的とする。とりわけ、人間中心主義(anthropocentrism)という近代的思考枠組みが、演劇やパフォーマンスの構造の中でどのように前提化され、あるいは揺さぶられてきたのかを問い直す。自然破壊、動物、災厄、テクノロジー、未来社会といった主題を通して、演劇が単に環境問題を表象する媒体であるにとどまらず、人間と非人間の関係性を再編する実践であることを理論的に検証する。</p> <p>到達目標は次の通りである。①エコクリティシズム、ポストヒューマンズム、新唯物論などの理論的枠組みを整理し、演劇研究と接続できる。②近現代演劇作品を環境思想の観点から再読し、理論的分析を行うことができる。③災害やテクノロジーを含む「非人間的主体」の問題を、舞台芸術の構造と関連づけて論じることができる。④自身の研究テーマを環境・エコロジーの視座から再構成する可能性を獲得する。</p>					
授業概要					
<p>本講義は、エコロジーと演劇の関係を歴史的・理論的に検討する大学院レベルの講義である。前半では、モダン・ドラマにおける自然表象や産業化と環境破壊の問題を再読し、近代演劇が自然との関係をいかに構築してきたのかを検討する。あわせて、動物を主題とするパフォーマンスや、人間中心主義の揺らぎを提示する作品を取り上げ、演劇の主体構造を問い直す。</p> <p>中盤では、自然災害のみならず、戦争・原爆・核といった人為的災厄の表象を分析し、舞台芸術がいかに「破局」や「喪失」を扱ってきたのか、その倫理的・政治的射程を考察する。</p> <p>後半では、ポストヒューマン思想、エコクリティシズム、アクター・ネットワーク理論などを参照しながら、現代パフォーマンスが地球規模の環境危機やテクノロジーの進展にどう向き合っているのかを検討する。さらに「エコ・ドラマツルギー」という概念を軸に、演劇が未来社会の想像力をどのように形成しているのか、その批評的可能性を探究する。</p> <p>授業は講義と作品視聴、文献講読、受講者発表、討議を組み合わせる。進行する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業の理解度			40		
レポート			60		
教科書					
教科書1	特になし				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	授業中に適宜紹介する				
出版社名		著者名			

参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	イントロダクション。授業全体の方向性と基本的な概念の導入を行う。		
2	自然破壊とパフォーマンス(1) 主として 20 世紀のパフォーマンスを取り上げていくが、まずは自然破壊について探求した劇パフォーマンスを取り上げて考察する。第 1 回目は、いわゆるモダン・ドラマの中での自然破壊について論究したものである。『ワーニャ』『野鴨』『人民の敵』など作品中の主題と関わる形式で考察されている作品を取り上げて 20 世紀初頭のパフォーマンスの中でどのように探求されたかを考察する。		
3	自然破壊とパフォーマンス(2) 20 世紀の近代化、産業化が進む過程で現実の自然破壊に向き合いながら探求した『火山灰地』『彼らの声が聞こえるか』などの作品を取り上げ、そのプロセスや意義を考察する。		
4	動物のパフォーマンス(1) パフォーマンス・アートには動物を主題するものが少なからずあり、人間第一主義の超克を企てている。『コヨーテ』『毛猿』『うたよみざる』など様々なアートを例にその理念と意義を考察する。		
5	動物のパフォーマンス(2) パフォーマンス・アートには動物を主題するものが少なからずあり、人間第一主義の超克を企てている。『コヨーテ』『毛猿』『うたよみざる』など様々なアートを例にその理念と意義を考察する。		
6	災害と自然(1) 20 世紀に繰り返し人類を襲った自然災害についてパフォーマンスは常に取り上げてきた。地震、干ばつ、台風、森林火事など様々な自然災害についてパフォーマンスはどのように取り組んできたのか、その可能性と問題点について考察する。		
7	災害と自然(2) 20 世紀に繰り返し人類を襲った自然災害についてパフォーマンスは常に取り上げてきた。地震、干ばつ、台風、森林火事など様々な自然災害についてパフォーマンスはどのように取り組んできたのか、その可能性と問題点について考察する。		
8	災害と自然(3) 20 世紀に繰り返し人類を襲ったのは自然災害ばかりではなく、戦争、戦闘、爆弾、原爆、核などの人為的な災害についてももについてパフォーマンスは常に取り上げてきた。ここではそのような災害についてパフォーマンスはどのように取り組んできたのか、その可能性と問題点について考察する。		
9	ポスト・ヒューマン・パフォーマンス(1) 近年のポスト・ヒューマン・パフォーマンスの中から特徴的なものを取り上げ、その今日的な意義を考察する。		

10	<p>ポスト・ヒューマン・パフォーマンス(2)</p> <p>近年のポスト・ヒューマニズムのパフォーマンスの中から特徴的なものを取り上げ、その今日的な意義を考察する。</p>
11	<p>エコ・ドラマツルギー(1)</p> <p>現在、自然環境と文学についての取り組みの批評的アプローチは、「エコ・クリティシズム」と呼ばれる批評群が主として担っている。多くは英米圏の文学研究の中から生まれて来ているが、パフォーマンスが今日の自然環境問題、地球規模の温暖化、環境破壊にどう対処できるのか、その方向については主だった批評軸ははまだ確立されていない。ここでは、様々な実例を取り上げながら「エコ・ドラマツルギー」の可能性を考察する。</p>
12	<p>エコ・ドラマツルギー(2)</p> <p>現在、自然環境と文学についての取り組みの批評的アプローチは、「エコ・クリティシズム」と呼ばれる批評群が主として担っている。多くは英米圏の文学研究の中から生まれて来ているが、パフォーマンスが今日の自然環境問題、地球規模の温暖化、環境破壊にどう対処できるのか、その方向については主だった批評軸ははまだ確立されていない。ここでは、様々な実例を取り上げながら「エコ・ドラマツルギー」の可能性を考察する。</p>
13	<p>未来社会とエコロジー(1)</p> <p>高度に発達した情報科学技術は人間社会を根本的に変化させつつあるが、そのエコロジーを考察するのが急務となっている。テクノロジーの描く未来社会についても数多くのパフォーマンスが取り組んでその意義を考察している。ここではこれらのテクノロジーと人間の問題をパフォーマンスがどのように向き合っているのか考え、未来のエコロジカル・パフォーマンスを展望する。</p>
14	<p>未来社会とエコロジー(2)</p> <p>高度に発達した情報科学技術は人間社会を根本的に変化させつつあるが、そのエコロジーを考察するのが急務となっている。テクノロジーの描く未来社会についても数多くのパフォーマンスが取り組んでその意義を考察している。ここではこれらのテクノロジーと人間の問題をパフォーマンスがどのように向き合っているのか考え、未来のエコロジカル・パフォーマンスを展望する。</p>
15	<p>授業全体のまとめを行うため、試験的レポートを課す。</p>

科目名	工芸・デザイン学特論1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 前期	形態	講義		
教員名	瀧本 雅志				
クラス名					
授業目的と到達目標					
デザインは、いまや様々な領域におよぶ活動へと拡大・変質している。当授業では、そうした様々なデザインの営みの諸相を広く見渡し、その各々の活動の意味や他のデザイン活動との関係性への理解を深めることを目的とする。そのなかで、芸という営為がこれからどのような可能性を持ちうるかへの問題意識を高めること、そしてデザインという活動全体への現代的な眼差しを涵養することが、目標となる。					
授業概要					
【対面授業】最初に、工芸とは何かについて、日本の近代化の過程を振り返りながら考察する。また、それがデザインという問題意識と、いかなる関係を結んできたかを、近代工芸運動を概観しつつ考える。続けて、様々なデザインの分野を取り上げ、各々の注目すべき事例を中心に検討してゆく。「デザイン史」の授業とは異なり、歴史を体系的に辿る以上に、工芸やデザインの感覚や思考をアクチュアルに触発する作品や現象の主題的な分析に重点を置く。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
明るく楽しく元気に受講して下さい。授業内のみで「学習」を受動的に完結させるのではなく、自ら積極的に「学外」(本、図版、モノ、インターネット、まち、等々)へアクセスして、自己を活性化させてゆくこと。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
期末試験(レポートあるいは発表)			30		
平常点			70		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					

出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	「イントロダクション: 工芸とは何か?」: 「工芸」という概念が、いかにして形成されてきたかを、明治期の日本の近代化の黎明期に遡って検討する。その検討の過程で、「工芸」と「美術」と「技術」の違いという重要な問題についても、歴史的に考えてゆく。		
2	「〈日本的なるもの〉と工芸・デザイン」: 〈日本的なるもの〉への自意識は、明治以前には基本的になかったはずだ。では、それはいつどのような状況で登場し、その初期には何が〈日本的〉とアピールされ、工芸はいかなる役回りを演じたのか? また、〈日本的な〉工芸・デザインとはどのようなものと見なされ、それが時代を通じて不変なのかどうかも考察の対象とする。		
3	「ヨーロッパにおける近代工芸運動」: 近代における工芸の改革運動とは、どのような問題意識を持ち、どのような成果を出しながら、進展していったか? ウィリアム・モリスからバウハウスまでを一気に概観することで、近代工芸運動に働く方向性のいくつかを明確化してゆく。		
4	「日本における近代工芸運動」: 柳宗悦の民芸運動について検討する。彼の唱えた「用の美」の思想や、彼と協力関係にあった工芸家たちや彼らの認めた無名の工人たちの工芸品を振り返るとともに、日本民藝館の活動にも注目してゆく。		
5	「近代装飾と近代絵画」: 近代絵画が平面イメージ化し、それが壁面装飾化＝装飾壁面化してゆく諸例に注目する。マネ、モネ、ゴーギャン、ナビ派、クリムト、マチス、ポロック等々。また、そうした絵画の傾向に関わる理論として、ミシェル・フーコーやクレメント・グリーンバーグの言説も参考にする。		
6	「近代建築の平面と工芸」: 近代建築に特徴的なベクトルのひとつは、水平面と垂直面による平面的構成にあった。その顕著な例として、ル・コルビュジエやミース・ファン・デル・ローエのいくつかの作品に注目する。また、そうした発想を、電灯や椅子から建築までに貫いて用いたヘリット・リートフェルトの作品を顧みる。		
7	「ファッションと空間デザイン」: 衣服が単に着るためのものではなく、ファッションとして市民へ開かれてゆくのは、主にフランス革命以降である。だが、市民はすぐさまファッションナブルに変貌しえた訳ではなかった。それには、ファッションが夢のイメージとして上映される空間が、大きな意味を果たしていた。パッサージュ。そして初期のデパートの空間デザインについて、振り返る。		
8	「流行とブランドのデザイン」: 19世紀半ばにシャルル・フレデリック・ウォルトの発明した、オート・クチュールという装置の画期性について見てゆく。またあわせて、ウォルト以前の、ファッションが必ずしも衣服のデザインのみを指さなかった時代について確認する。そのなかで、ファッションにおいて明白に存在する建築的次元について注目する。		
9	「洋服を超える〈ファッション〉デザイン」: 60年代になると、トータルなライフスタイルの提言や実践として、ファッションが加速し始める。言い換えるなら、〈ファッション〉は、洋服だけの問題ではなく、他のファッションナブルなデザインと密接に連携することになる。60年代ロンドンのファッション・シーン、そしてピエール・カルダンのデザイン戦略を検討する。		
10	「ミュージシャンのファッション・デザイン」: 第9回目とほぼ同じ問題意識から、今回は、特にポップミュージック・シーンのなかで発信されてきた広義の〈ファッション〉デザインについて、時代を振り返り概観してゆく。モッズ、パンク、ニューウェーブ、グラム、ニューロマンティック、グランジなどを中心に講義する。		
11	「ファッションと現代建築のデザイン」: 2000年代に入ると、表参道には高級ブランドのファッションビルが次々と建ち始める。その設計は、各々が気鋭の現代建築家たちによるもので、表参道は以降、現代建築のショーケースとなる。また、2006～7年にLAの現代美術館で開催された「Skin +		

	Bones」展では、ファッションと建築の交錯する諸例が示された。以上 2 つの方向から、両デザインの複合を検証する。
12	「グラフィックデザインと都市・建築」: 建物や都市のペーパー上でのデザインに新たな建築の可能性を見出した、アーキグラムをはじめとする 60 年代のアンビルトのデザインの可能性を探る。また、広告看板や、壁面への巨大なグラフィックが、建築や都市の空間性を大きく変容させる力について、ヴェンチュエリの言説やスーパーグラフィックスの実践を考察する。
13	「ポストモダンデザイン」: 70 年代後半以降の世界のポストモダン建築にくわえて、日本のバブル期のそれについても具体例を見てゆく。チャールズ・ジェンクスの建築思想や、ジャン・フランソワ・リオタールのポストモダン概念も参照する。
14	「ミニマルデザインと建築」: 最小限のデザインについて、批判的に考える。ミース・ファン・デル・ローエ、ミニマルズムのアートのほか、90 年代以降のポスト・ミニマル建築の作品を分析し、現代におけるミニマルデザインの射程についても見定めてゆく。
15	「グローバルスタイルのデザイン」: グローバリゼーションの時代に、クールで経済的で市民に開かれた先端技術の建築イメージを提示しているレンゾ・ピアノ、ノーマン・フォスター、リチャード・ロジャースの建築デザインを検討してゆく。

科目名	工芸・デザイン学特論2	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	講義		
教員名	瀧本 雅志				
クラス名					
授業目的と到達目標					
デザインは、いまや様々な領域におよぶ活動へと拡大・変質している。当授業では、そうした様々なデザインの営みの諸相を広く見渡し、その各々の活動の意味や他のデザイン活動との関係性への理解を深めることを目的とする。そのなかで、芸という営為がこれからのどのような可能性を持ちうるかへの問題意識を高めること、そしてデザインという活動全体への現代的な眼差しを涵養することが、目標となる。					
授業概要					
【対面授業】前期の内容を引き継ぎながら、さらに深く掘り下げつつ、前期には触れられなかったデザインの諸相に触れてゆく。よって、工芸とは何かについて、日本の近代化の過程を振り返りながら考察する。また、それがデザインという問題意識と、いかなる関係を結んできたかを、近代工芸運動を概観しつつ考える。さらには、様々なデザインの分野を取り上げ、各々の注目すべき事例を中心に検討してゆく。「デザイン史」の授業とは異なり、歴史を体系的に辿る以上に、工芸やデザインの感覚や思考をアクチュアルに触発する作品や現象の主題的な分析に					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
明るく楽しく元気に受講して下さい。授業内のみで「学習」を受動的に完結させるのではなく、自ら積極的に「学外」(本、図版、モノ、インターネット、まち、等々)へアクセスして、自己を活性化させてゆくこと。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
期末試験(レポートあるいは発表)			30		
平常点			70		
教科書					
教科書1					
出版社名			著者名		
教科書2					
出版社名			著者名		
教科書3					
出版社名			著者名		
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名			著者名		
参考書名2					
出版社名			著者名		
参考書名3					
出版社名			著者名		
参考書名4					
出版社名			著者名		
参考書名5					

出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	<p>「イントロダクション／構造デザイン」: 後期の開講にあたり、後期に予定される授業内容を概論的に提示する。また、構造デザインについて概説する。構造は、建築において必ずしも黒子ではない。構造が優れたデザインとなって明示的に現れた諸例を紹介する。とりわけ、構造上の工夫や複雑な構造計算を要する近現代建築のある種のタイプでは、すぐれた構造家はスター的存在感を発揮してきた。ピーター・ライス、佐々木睦朗、セシル・バルモンドらの作例を見ながら、構造デザインの美学を検討する。</p>		
2	<p>「都市デザイン」: 過去の都市デザインの中から、とりわけ重要と思われる事例を再考する。オスマンのパリ改造やグランプロジェなどの実現例はもちろん、ル・コルビュジエ、レム・コールハース等の過剰な都市デザインの思想も、考察の材料とする。</p>		
3	<p>「ランドスケープデザイン」: 都市の公共空間デザインや造園デザインと重なりつつも、それらとは微妙に異なるランドスケープデザインの可能性の中心を見据える。それは、ランドスケープ(=風景)という概念の発生やその変遷を顧みる試みの意義も持つ。建物とランドスケープのデザインが一体連続化した現代の諸例についても見てゆく。</p>		
4	<p>「日本のインテリアデザイン」: 近代化以降の日本の住環境をめぐる歴史を概観する。室内空間のデザインにくわえて、家具や環境のデザインも考察する。また、剣持勇や倉俣史朗といったデザイナーについても概説する。</p>		
5	<p>「タイポグラフィのデザイン」: 産業化時代、バウハウス、国際タイポグラフィック様式、ニューヨーク派、ニューウェーブ派、コンピュータ作成のタイポグラフィについて、時代順に概観してゆく。特に、国際タイポグラフィック様式にスポットをあてる。</p>		
6	<p>「サウンドデザインと空間デザイン」: 音楽は、音により空間を変容させ、新たな空間性を創造してゆく行為だという意識が、ある時期以降活性化しだす。現代音楽における空間デザイン、またポップミュージックに浮上した空間デザインの先駆的例について、体験する機会を設ける。後者については、特に奇才フィル・スペクターに注目する。</p>		
7	<p>「サウンドデザインとコンセプトアルバム」: 前回に引き続き、今回は 60 年代のポップミュージックにおけるサウンドデザインの意識の高まりを検討してゆく。ビーチボーイズ、ビートルズ、そしてフィル・スペクターの回帰について検討しながら、コンセプトアルバムというアイデアや、彼らのサウンドデザインのその後への影響について探ってゆく。</p>		
8	<p>「映画のタイトルデザイン」: 映画の冒頭に作品名や人名等とともに登場するタイトルのいくつかは、本の表紙以上に作品の印象を最初に効果的に告げる優れたデザイン性を見せる。ソウル・バス、カイル・クーパー等による魅力的な作品例に目を向ける。</p>		
9	<p>「TV ゲームとブックデザイン」: TV ゲームが新しいメディアとして大きな可能性を感じさせた時代があった。パソコンやインターネットが普及する前夜とも言うべき、80 年代後半から 90 年代前半にかけてだ。この時期、そうした可能性をいかに本にして告げるかというデザイン目標を持った本が登場した。それらを紹介しつつ、新旧メディアの動的な関係性についてケーススタディする。</p>		
10	<p>「展覧会とアートのスペースのデザイン」: 美術館と作品の関係は歴史的に一様ではないし、展示のデザインも時代や美術館や展覧会のタイプによって異なる。それらのデザインをいくつかに大別しながら、各々の代表例を見てゆく。</p>		
11	<p>「CI のデザイン」: 会社というそのままでは目には見えない組織のイメージを、どう戦略的に統一化して社会へ訴求してゆくか。そうした問題をデザインによって解決する手法について考えてゆく。高級ブランドのロゴのデザインの高級性についても検討する。</p>		

12	「情報デザイン」:いかに情報をわかりやすく効果的に伝えるかという意味で、ますます情報デザインは、われわれに必須のリテラシーと化している。情報デザインという考え方がいかにして登場し、どのような有効性を持つかを、ベーシックに確認してゆく。オットー・ノイラート、エドワード・タフティ、アフォーダンスなどにも注目する。
13	「キャリアデザイン」:こうした言葉があるからには、職業人生は、いまやデザインするものとも考えられているようだ。しかし、キャリアをデザインすることとは、就職活動上や実際の仕事上やキャリアアップ戦略上の能力アップとは、どう異なるのか？ キャリア「デザイン」という言説の作動する状況やその功罪について、批判的に分析する。
14	「コミュニティデザイン／ソーシャル・デザイン」:社会や地域は、放っておいてもプラスの方向には向かわないかもしれない。計画でも単なる実践行為でもなく、コミュニティや社会をデザインするとはどういうことか？ そのポジティブな諸例を参照してゆく。
15	「まとめ」: これまでの授業を振り返り、総括や重要点の確認を行う。また、これまでに言及していないが重要なトピックについて、受講する学生の関心も踏まえながら、補足的にいくつか説明する。

科目名	文芸学特論1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度前期	形態	講義		
教員名	団野 恵美子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
この授業では、英国の風土や歴史を基にしながら、社会文化や風俗習慣、人々の日常生活を図版や映像を使って紹介していく。日本の文化と比較しながら、様々なトピックについて小説を読んだり映画を見ることでイギリス文学の背景を知る。					
授業概要					
毎回ハンドアウトを配布し、あるテーマにそってイギリスの文化と文学を理解する知識を学ぶ。英国といえばアフタヌーン・ティーやピーター・ラビットがすぐ浮かぶが、この紅茶の伝統も、本はといえば中国や日本の茶から始まったこと、あのかわいいピーター・ラビットは英国の自然環境を守るナショナル・トラストの影の功労者となっていること、ハリー・ポッターには英国の教育制度が色濃く現れていることなどが分かるだろう。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
授業時に、読むべき小説や映画、参考文献などを紹介するので、様々な文学作品に触れることが望ましい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業貢献度			70		
授業内発表			30		
教科書					
教科書1	毎回授業時にハンドアウトを配布する。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	授業時に指示する。				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイダンス: 英国は1つなのか? イングランド、ウェールズ、スコットランドと北アイルランドのお話
2	イギリスのファッション(1)贅沢禁止法とファッションの流行を歴史的に考察する
3	イギリスのファッション(2)イギリス 16 世紀にプロジェクトXを立ち上げた貴族たち
4	教育制度とハリー・ポッター ハリーたちが勉強した寮生活とは
5	英国王室と王の結婚 ノルマン人による征服から始まる王家の歴史について
6	王室の歴史
7	ナショナル・トラストとピーター・ラビット 自然を保護するために購入するという考え
8	英国料理は不味いのか ヘンリー8 世が食べていたもの
9	料理と小説 イギリス流食事風景
10	イギリスのスポーツ(1)登山、ボート、テニス、魚釣り…すべてスポーツ
11	イギリスのスポーツ(2)
12	イギリスの医療と福祉 病院の成り立ち
13	イギリス映画と文化表象 イギリス人の暮らしがわかる映画
14	イギリス小説あれこれ
15	まとめ

科目名	文芸学特論2	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	講義		
教員名	団野 恵美子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
この授業では、英国の風土や歴史を基にしながら、社会文化や風俗習慣、人々の日常生活を図版や映像を使って紹介していく。日本の文化と比較しながら、様々なトピックについて小説を読んだり映画を見ることでイギリス文学の背景を知る。					
授業概要					
毎回ハンドアウトを配布し、あるテーマにそってイギリスの文化と文学を理解する知識を学ぶ。英国といえばアフタヌーン・ティーやピーター・ラビットがすぐ浮かぶが、この紅茶の伝統も、本はといえば中国や日本の茶から始まったこと、あのかわいいピーター・ラビットは英国の自然環境を守るナショナル・トラストの影の功労者となっていること、ハリー・ポッターには英国の教育制度が色濃く現れていることなどが分かるだろう。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
授業時に、読むべき小説や映画、参考文献などを紹介するので、様々な文学作品に触れることが望ましい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業貢献度			70		
授業内発表			30		
教科書					
教科書1	毎回授業時にハンドアウトを配布する。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	授業時に指示する。				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイダンス:前期の復習と後期の内容
2	絵画からみる文化
3	イギリス人にとっての肖像画 肖像画は何を伝えようとしているのか
4	パブの文化 ビールの歴史
5	紅茶とイギリス文化(1) アフタヌーンティ
6	紅茶とイギリス文化(2)
7	イギリス映画
8	イングリッシュ・ガーデンの歴史(1) 庭園と文学、絵画のつながり
9	イングリッシュ・ガーデンの歴史(2)
10	ヴィクトリア朝とシャーロック・ホームズ 探偵小説の舞台
11	イギリス演劇とシェイクスピア
12	エリザベス朝の文化
13	イギリスの児童文学(1)
14	イギリスの児童文学(2)
15	まとめ

科目名	演劇学特論1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 前期	形態	講義		
教員名	出口 逸平				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>オペラから映画まで、「身体と言葉」の芸術である演劇を幅広くとらえ、その特徴を丁寧に探る。 受講者の自由な発想を活かせるよう、的確にアドバイスしていきたい。 この授業が、ディプロマポリシーにいう「創造性と独創性」のヒントになればと願っている</p>					
授業概要					
<p>受講者の研究発表と質疑応答によって、授業をすすめる。 取り上げる作品は、受講者の希望をできるかぎり尊重したい。 随時 DVD(演劇・映画等 大阪芸術大学図書館所蔵)を利用する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>受講者それぞれが、まずは自分の興味のありかをよく探してほしい。 相談や質問には、丁寧に答えていく。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
総合評価			100		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	各人のテーマに応じて随時紹介する。				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業の進め方、発表日程や作品について相談する。
2	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
3	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
4	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
5	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
6	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
7	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
8	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
9	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
10	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
11	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
12	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
13	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
14	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
15	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。

科目名	演劇学特論2	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	講義		
教員名	出口 逸平				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>オペラから映画まで、「身体と言葉」の芸術である演劇を幅広くとらえ、その特徴を丁寧に探る。受講者の自由な発想を活かせるよう、的確にアドバイスしていきたい。この授業が、ディプロマポリシーにいう「創造性と独創性」のヒントになればと願っている</p>					
授業概要					
<p>受講者の研究発表と質疑応答によって、授業をすすめる。取り上げる作品は、受講者の希望をできるかぎり尊重したい。随時 DVD(演劇・映画等 大阪芸術大学図書館所蔵)を利用する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>受講者それぞれが、まずは自分の興味のありかをよく探してほしい。相談や質問には、丁寧に答えていく。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
総合評価			100		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	各人のテーマに応じて随時紹介する。				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業の進め方、発表日程や作品について相談する。
2	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
3	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
4	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
5	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
6	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
7	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
8	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
9	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
10	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
11	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
12	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
13	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
14	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
15	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。

科目名	音楽学特論1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 前期	形態	講義		
教員名	前川 陽郁				
クラス名					
授業目的と到達目標					
東ヨーロッパの音楽の独自性について考える。					
授業概要					
東ヨーロッパの音楽は、ドイツやイタリアなどとは異なった独自性を持っている。ショパンやリストのように東ヨーロッパの出身でありながらフランスなどで活躍した作曲家の音楽も含めて、東ヨーロッパの音楽の特質について考える。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
常に音楽の実感を持ちながら考えること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
期末レポート			100		
教科書					
教科書1	使用しない。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	授業時に適宜紹介する。				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	ショパンとポーランド 1
2	ショパンとポーランド 2
3	リストとハンガリー1
4	リストとハンガリー2
5	18世紀までの東ヨーロッパの音楽状況 1 中世とルネサンス
6	18世紀までの東ヨーロッパの音楽状況 2 バロックと古典派の時代
7	スメタナとチェコ
8	ドヴォルザーク 1
9	ドヴォルザーク 2
10	ヤナーチェク
11	ルーマニア エネスクを中心として
12	バルトーク
13	バルトークとコダーイ
14	シマノフスキー
15	マルティヌー

科目名	音楽学特論2	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	講義		
教員名	前川 陽郁				
クラス名					
授業目的と到達目標					
音楽と舞踊との関係について考える。					
授業概要					
音楽は、歴史的にも、現在の状況を考えても、舞踊との密接なつながりがある。なぜ、どのように音楽と舞踊とが結びつくのかという視点を中心に、音楽の特質について考える。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
常に音楽の実感を持ちながら考えること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
期末レポート			100		
教科書					
教科書1	使用しない。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	授業時に適宜紹介する。				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	チャイコフスキーよりも前のバレエ音楽 1 プーニ『エスメラルダ』、ミンクス『ドン・キホーテ』など
2	チャイコフスキーよりも前のバレエ音楽 2 アダン『ジゼル』、ドリーブ『 Coppélia 』など
3	バレエ音楽の改革者としてのチャイコフスキー1 『白鳥の湖』など
4	バレエ音楽の改革者としてのチャイコフスキー2 『くるみ割り人形』、『眠れる森の美女』など
5	ロシア・バレエ団のバレエと音楽 1 ストラヴィンスキー『火の鳥』、『ペトルーシュカ』など
6	ロシア・バレエ団のバレエと音楽 2 ストラヴィンスキー『春の祭典』、ドビュッシーによる『牧神の午後』など
7	ロシア・バレエ団のバレエと音楽 3 ラヴェル『ダフニスとクロエ』、サティ『パラード』など
8	ロシア・バレエ団以外の 19、20 世紀のバレエと音楽 ドリーブ『 Coppélia 』、プロコフィエフ『ロメオとジュリエット』など
9	バロック時代の舞踊と組曲
10	オペラと舞踊 ヴェルディ『アイーダ』、ボロディン『イーゴリ公』など
11	舞踊音楽以外の音楽への振付 ショパンの音楽による『レ・シルフィード』、シェーンベルク『浄められた夜』など
12	モダン・バレエ、モダン・ダンスと音楽 1 キリアン、ベジャールなどの振付作品
13	モダン・バレエ、モダン・ダンスと音楽 2 カニンガム、フォーサイス、マリファントなどの振付作品
14	日本の舞踊の音楽
15	音楽というより音響とともに踊ること

科目名	音楽史学特論1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 前期	形態	講義		
教員名	津上 智実				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>ヘンデルのオラトリオ《メサイア》を考える。《メサイア》は、数あるオラトリオ作品の中でも長年、世界の様々な場所で継続的に歌われてきている点で突出した存在である。この《メサイア》の演奏史を、イギリスから始めて、アメリカ、日本へと視野を広げて展望する。多くの団体によって定期的・継続的に演奏され続けてきた要因を、《メサイア》の歌詞と楽曲の構造に遡って考えることで、音楽作品とは何か、作品の演奏とはどのような可能性を持っているのかについての理解を深める。</p>					
授業概要					
<p>前期では、ヘンデルのオラトリオ《メサイア》が多くの団体によって定期的・継続的に演奏され続けてきた要因を、《メサイア》の歌詞と楽曲の構造に遡って考える。後期では、イギリスを始めとする諸国で、誰によって、どこで、どのように歌われてきたのかを、アメリカや日本を含めて考察する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
よく聴く、よく読む、よく考える。折々に小さな課題を出すので、主体的に積極的に取り組むこと(週90分程度)。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業態度			30		
議論への参加度			20		
中間・期末レポート			50		
教科書					
教科書1	『ヘンデル:メサイア HWV 56』ペーレンライター社、新ヘンデル全集版、小型スコアが望ましいが、別の版が手元にあればそれでも可(ヴォーカル・スコアではなくオーケストラ譜付きのものを用意すること)				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	『ヘンデル』				
出版社名	東京書籍、1991	著者名	クリストファー・ホグウッド著、三澤寿喜訳		
参考書名2	『ヘンデル:創造のダイナミズム』				
出版社名	春秋社、2009	著者名	ドナルド・バロウズ編、藤江効子、小林裕子、三ヶ尻正訳		
参考書名3	Handel, Messiah (Cambridge music handbooks)				
出版社名	Cambridge U.P., 1991	著者名	Donald Burrows		
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					

出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
音楽学の研究者が、多数の論考や学会発表をしてきた経験を活かして、音楽作品とその演奏について考える方法を指導する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	導入		
2	オラトリオのテキスト		
3	《メサイア》の台本作者と時代背景		
4	オラトリオの音楽構造		
5	《メサイア》の基本的な音楽構造		
6	《メサイア》のレチタティーヴォ		
7	《メサイア》のアリア		
8	《メサイア》の合唱		
9	〈ハレルヤ〉の優位性		
10	《メサイア》演奏の問題点		
11	《メサイア》演奏の実際的な工夫		
12	《メサイア》演奏の現状		
13	《メサイア》演奏の今後		
14	《メサイア》にみる作品と演奏の可能性		
15	総括		

科目名	音楽史学特論2	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	講義		
教員名	津上 智実				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>ヘンデルのオラトリオ《メサイア》を考える。《メサイア》は、数あるオラトリオ作品の中でも長年、世界の様々な場所で継続的に歌われてきている点で突出した存在である。この《メサイア》の演奏史を、イギリスから始めて、アメリカ、日本へと視野を広げて展望する。多くの団体によって定期的・継続的に演奏され続けてきた要因を、《メサイア》の歌詞と楽曲の構造に遡って考えることで、音楽作品とは何か、作品の演奏とはどのような可能性を持っているのかについての理解を深める。</p>					
授業概要					
<p>後期では、ヘンデルのオラトリオ《メサイア》の演奏史を考える。イギリスを始めとする諸国で、誰によって、どこで、どのように歌われてきたのかを、アメリカや日本を含めて考察する。これらを通じて、音楽作品とは何か、作品の演奏とはどのような可能性を持っているのかについての理解を深める。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
よく聴く、よく読む、よく考える。折々に小さな課題を出すので、主体的に積極的に取り組むこと(週90分程度)。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業態度			30		
授業内発表 および ミニ・レポート			20		
中間・期末レポート			50		
教科書					
教科書1	『ヘンデル:メサイア HWV 56』ペーレンライター社、新ヘンデル全集版、小型スコアが望ましいが、他の版が手元にあればそれでも可(ヴォーカル・スコアではなくオーケストラ譜付きのものを用意すること)				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	『メサイア—理解と演奏のためのスタディガイド』				
出版社名	パナムジカ、2019	著者名	ヘルムート・リリング、菅野弘久他訳		
参考書名2	『ヘンデル:創造のダイナミズム』				
出版社名	春秋社、2009	著者名	ドナルド・バロウズ編、藤江効子、小林裕子、三ヶ尻正訳		
参考書名3	『メサイアは何を歌うのか』				
出版社名	聖公会出版、2008	著者名	家田足穂		
参考書名4	Handel, Messiah (Cambridge music handbooks)				
出版社名	Cambridge U.P., 1991	著者名	Donald Burrows		
参考書名5	『ヘンデル』				

出版社名	東京書籍、1991	著者名	クリストファー・ホグウッド著、三澤寿喜訳
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
音楽学の研究者が、多数の論考や学会発表をしてきた経験を活かして、音楽作品とその演奏について考える方法を指導する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	導入		
2	オラトリオとは何か		
3	ヘンデルのオラトリオ作品		
4	《メサイア》の成立とダブリン初演		
5	《メサイア》のロンドン初演とその後		
6	ヘンデル記念祭と《メサイア》		
7	18、19 世紀の《メサイア》演奏		
8	アメリカの《メサイア》演奏		
9	日本の《メサイア》演奏:本邦初演		
10	日本の《メサイア》演奏:関西の場合		
11	日本の《メサイア》演奏:関東の場合		
12	日本の「大学メサイア」		
13	日本の「高校メサイア」		
14	日本の《メサイア》演奏:現状と課題		
15	総括		

科目名	音楽芸術学特論1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 前期	形態	講義		
教員名	田之頭 一知				
クラス名					
授業目的と到達目標					
音楽を学問的に研究することの意義を明らかにすることを目的とし、音楽を論理的に考察し、それを文章化することを目標とする。					
授業概要					
音楽を音楽として扱うことが、音楽を学問的に研究する場合に必要な態度である。しかし、それはいったいどのようなことなのか。本講義では音楽学、なかんずく、音楽美学あるいは音楽哲学と呼ばれる学問領域に根差しつつ、音楽観の変遷を辿りながら音楽の本質あるいは原理的基盤に関して講義を進めてゆく。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
西洋において音楽は古采、字問的なものとみなされてきた。それが何を意味するのかを各目で考えてもらいたい。なお、授業計画に関しては、必要に応じて変更することがあるので、注意すること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
総合評価(前期末レポートを含む)			100		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	必要があれば授業中に指示する。				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイダンス:西洋音楽思想の概略
2	古代ギリシアの音楽観
3	中世・ルネサンスの音楽観①
4	中世・ルネサンスの音楽観②
5	近世の音楽観
6	近代の音楽観①
7	近代の音楽観②
8	20世紀の音楽観①
9	20世紀の音楽観②
10	音楽哲学の諸問題:音楽と時間
11	音楽哲学の諸問題:音楽と空間
12	音楽哲学の諸問題:音楽と言語
13	音楽哲学の諸問題:音楽演奏について
14	音楽哲学の諸問題:音楽作品の所在
15	まとめと展望:音楽藝術あるいはアートとしての音楽

科目名	音楽芸術学特論2	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	講義		
教員名	田之頭 一知				
クラス名					
授業目的と到達目標					
音楽を学問的に研究することの意義を明らかにすることを目的とし、音楽を論理的に考察し、それを文章化することを目標とする。					
授業概要					
音楽を音楽として扱うことが、音楽を学問的に研究する場合に必要な態度である。しかし、それはいったいどのようなことなのか。本講義では音楽学、なかんずく、音楽美学あるいは音楽哲学と呼ばれる学問領域に根差しつつ、19世紀ロマン派音楽におけるピアノ曲に焦点を当てて、音楽の本質あるいは原理的基盤に関して講義を進めてゆく。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
西洋において音楽は古采、字問的なものとみなされてきた。それが何を意味するのかを各目で考えてもらいたい。なお、授業計画に関しては、必要に応じて変更することがあるので、注意すること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
総合評価(学年末レポートを含む)			100		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	必要があれば授業中に指示する。				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	導入: 19 世紀ロマン派音楽におけるピアノ曲の立ち位置
2	ポエジーと歌
3	ショパンの場合: 練習曲
4	ショパンの場合: 前奏曲
5	ショパンの場合: 第 2 ソナタ
6	ショパンの場合: 第 3 ソナタ
7	シューマンの場合: 交響的練習曲
8	シューマンの場合: クライスレリアーナ
9	シューマンの場合: 幻想小曲集
10	リストの場合: 超絶技巧練習曲
11	リストの場合: 巡礼の年第 1 年スイス
12	リストの場合: ピアノソナタ
13	ブラームスの場合: ピアノソナタ第 3 番と晩年の小品集
14	20 世紀音楽におけるピアノ曲の特質
15	まとめと展望: ロマン派から 20 世紀音楽へ